

2022.01.07 作成

2021 年 12 月新聞書評



あかいてぶくろ

林木林 著

小峰書店

女の子の手をいつもいっしょに温めていた一組の赤い手袋。ある日、女の子は森で右の手袋を落としてしまいます。通りかかったきつねが手袋を見つけて枝にかけておきますが、風で飛ばされてしまっ...

2021:10./ 32p
978-4-338-26140-1

¥1,760〔税込〕



産経新聞 2021/12/02



最近、地球が暑くてクマってます。～シロクマが教えてくれた温暖化時代を幸せに生き抜く方法～

水野敬也／長沼直樹／江守正多 著

文響社

レジ袋を有料化する程度では、地球温暖化の根本的な解決にはならない。ではどうすればいいか？地球温暖化解決に向けて、シロクマが送るメッセージ。温暖化が起こるしくみや温暖化対策についての解説も掲載。葉つき。

2021:9./ 145p,63p
978-4-86651-415-4

¥1,595〔税込〕



産経新聞 2021/12/04



認知症世界の歩き方～認知症のある人の頭の中をのぞいてみたら？～

筧 裕介 著

ライツ社

乗るとだんだん記憶をなくすミステリーバス、距離も方角もわからなくなる二次元銀座商店街...。認知症のある人が経験する出来事を「旅のスケッチ」と「旅行記」の形式にまとめ、だれもが身近に感じるストーリーで紹介する。

2021:9./ 264p
978-4-909044-32-7

¥2,090〔税込〕



産経新聞 2021/12/04

- ご注文の際には、タイトル・出版社名・価格のほか、ISBN も併せてお知らせください。
- 原価の改定、為替相場の変動などの理由により価格を変更する場合がございます。予めご了承の程お願い申し上げます。
- ご注文、ご照会には弊社本・支店・営業部(課)までお申し付けください。
- 表示価格は 2022 年 1 月時点での税込み価格です。



ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー〜The Real British Secondary School Days〜<2>

ブレイディみかこ 著

新潮社

授業でのスタートアップ実習、助け合ってきた隣人との別れ、そして母の国での祖父母との旅。中学生の「ぼく」は“事件”続きの暮らしの中で、大人へのらせん階段を昇っていく。親子の成長物語、完結。『波』連載を書籍化。

産経新聞 2021/12/04、読売新聞 2021/12/05

2021.9./ 204p
978-4-10-352682-7

¥1,430〔税込〕



近代を彫刻/超克する

小田原 のどか 著

講談社

街角の彫像から見えてくる、もうひとつの日本近現代史、ジェンダーの問題、公共というもの…。都市に建立され、時に破壊され引き倒される彫刻は、何を映すのか。彫刻を思想的課題として提示する。『群像』掲載を加筆し書籍化。

産経新聞 2021/12/05

2021.10./ 142p
978-4-06-525287-1

¥1,430〔税込〕



李王家の縁談

林 真理子 著

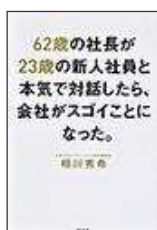
文藝春秋

娘がみじめな思いをしない結婚相手は誰か？ 梨本宮伊都子妃が見つけた思いもかけない選択とは？ 皇族華族の内面を正確に描ききった<結婚>宮廷絵巻。『文藝春秋』連載を書籍化。

産経新聞 2021/12/05

2021.11./ 247p
978-4-16-391466-4

¥1,760〔税込〕



62歳の社長が23歳の新人社員と本気で対話したら、会社がスゴイことになった。

相川 秀希 著

幻冬舎

なぜ、Z世代との交流が企業に利益をもたらすのか？ 彼ら彼女らの可能性を引き出し、「本気で対話」するためのアプローチ法とは？ 企業経営者である著者とZ世代の新人社員による実際の「対話」から解き明かす。

産経新聞 2021/12/05

2021.7./ 226p
978-4-344-03824-0

¥1,430〔税込〕



たそがれ大食堂

坂井希久子 著

双葉社

マルヨシ百貨店に勤める美由起は、異動で大食堂のマネージャーに就任することに。しかし40年以上愛された大食堂は存続の危機に瀕していた。従業員たちは古き良き大食堂の未来を守れるのか？ 『小説推理』連載を単行本化。

産経新聞 2021/12/05

2021.9./ 245p
978-4-575-24441-0

¥1,760〔税込〕





言の葉の森～日本の恋の歌～

チョン・スユン 著

亜紀書房

千年の時と国境を超え、＜恋の歌＞が今もなお瑞々しく響く。韓国の人気翻訳家が、小野小町、紫式部などが詠んだ熱烈で芳潤な 65 首をモチーフに、2 つの言語の間を行き来しながら日々の生活や仕事について情感ゆたかに描く。

産経新聞 2021/12/05

2021.11./ 237p
978-4-7505-1721-6

¥1,760〔税込〕



3人のパパと3つのはなたば

クク・チスン 著

ブロンズ新社

宅配会社、小児科、建設会社に勤める 3 人のキムさん。今日の夜は子どもの通うハナ幼稚園で音楽会がおこなわれます。それぞれ忙しい一日を終え、花束を手に会場へと駆けつけると…。

産経新聞 2021/12/05

2021.10./ 1 冊(ページ
付なし)

978-4-89309-699-9

¥1,540〔税込〕



冬(CREST BOOKS)

アリ・スミス 著

新潮社

金を払って雇った偽の恋人を連れて帰郷した息子が見たのは、人生を見失った母の姿。恋人の提案で、母と 30 年間音信不通の破天荒な伯母も屋敷にやってくる。犬猿の仲だった姉妹の再会が埋もれていた家族の歴史を呼び覚まし…。

産経新聞 2021/12/05、朝日新聞 2021/12/18

2021.10./ 333p
978-4-10-590175-2

¥2,530〔税込〕



運命の謎～小島信夫と私～

三浦清宏 著

水声社

異才の小説家・小島信夫の導きによって文学と生き方に目覚めた著者が、小島との出会いと居候生活、みずからの文学修行と見えない世界への関心、そして芥川賞受賞にいたる“出来の悪い弟子”の道のりを豊かに語る。

産経新聞 2021/12/05、読売新聞 2021/12/12、朝日新聞 2021/12/25、毎日新聞 2021/12/25

2021.9./ 270p
978-4-8010-0592-1

¥2,750〔税込〕



恋侍<中目黒世直し編>

柴崎 竜人 著

講談社

恋侍・落合正泰の前に現れたのは、美人双子と外資系キャリアウーマン。中目黒・歌舞伎町で繰り上げられる恋愛試合。今宵の勝敗はいかに。音声で楽しむイヤードラマ「NUMA」の作品を書籍化。杉田陽平との対談も収録。

産経新聞 2021/12/11

2021.11./ 302p
978-4-06-525742-5

¥1,595〔税込〕





脱炭素革命への挑戦～世界の潮流と日本の課題～(SDGs 時代の環境問題最前線)

堅達京子、NHK 取材班 著

山と溪谷社

「2050 年脱炭素」に向けて舵が切られた日本。世界各国の脱炭素政策、日本を代表する企業の取り組み、グローバル企業の戦略などを紹介する。専門家のロングインタビューも掲載。NHK 番組をもとに書籍化。

産経新聞 2021/12/11

2021.9./ 373p
978-4-635-31044-4

¥1,760〔税込〕



家族不適合殺～新幹線無差別殺傷犯、小島一郎の実像～

インベ カヲリ★ 著

KADOKAWA

法廷で無期懲役に万歳三唱をし、刑務所で生存権を主張し続ける新幹線無差別殺傷犯。誰も踏み込まなかったその内面に異端の写真家が迫る。約 3 年にわたる取材で理解不能な動機、思考を浮き彫りにする驚愕の事件ルポ。

産経新聞 2021/12/11、朝日新聞 2021/12/25

2021.9./ 295p
978-4-04-110943-4

¥1,870〔税込〕



7.5 グラムの奇跡

砥上 裕将 著

講談社

北見眼科医院の面接を受けた野宮恭一は、おおらかな院長のもと視能訓練士として働き始め…。働き学びながら「見える」ことの大切さを実感し成長する青年の姿を描く。『メフィスト』掲載に書き下ろしを加えて単行本化。

産経新聞 2021/12/12

2021.10./ 298p
978-4-06-524623-8

¥1,705〔税込〕



炉辺荘のアン(文春文庫 モ 4-6)

L・M・モンゴメリ 著

文藝春秋

アン 34 歳、美しい村の炉辺荘で三男三女のわが子、医師の夫ギルバートとともに、人生のささやかにして甘美なものを大切に暮らし…。アンを主人公に描いた最後の長編小説。日本初の全文訳・訳註付きアン・シリーズ第 6 巻。

産経新聞 2021/12/12

2021.11./ 620p
978-4-16-791789-0

¥880〔税込〕



あなたがあなたであることの科学～人の個性とはなんだろうか～

デイヴィッド・J・リンデン 著

河出書房新社

人間はどこまで同じなのか、どれだけ違うのか。遺伝の影響、記憶のありよう、性的アイデンティティ、味や匂いの好み、睡眠時間のパターン、人種と差別などをテーマに、数々の実験とエピソードを交えつつ、個性の起源に迫る。

産経新聞 2021/12/12

2021.11./ 324p
978-4-309-25436-4

¥2,310〔税込〕





戦略思想史入門～孫子からリデルハートまで～(ちくま新書 1615)

西田 陽一 著

筑摩書房

孫子、マキャベリ、リデルハートら6人の戦略思想家を取り上げ、彼らが戦争と直接向き合い培った戦略思想のエッセンスを抽出。政治と軍事の関係を焦点に分析し、最前線での用兵思想などのあり方についても考察する。

産経新聞 2021/12/12

2021:11./ 265p
978-4-480-07443-0

¥946〔税込〕



* 9 7 8 4 4 8 0 0 7 4 4 3 0 *



歩いてみて解けた「古事記」の謎

宮崎正弘 著

育鵬社

神武東征に16年の歳月を要したのはなぜか？なぜ継体天皇の「古志国の大王」だった事実が軽視されたのか？「古事記」を丹念に読み、伝承地の現場に立つことで、古代の謎を解く。

産経新聞 2021/12/12

2021:11./ 247p
978-4-594-08979-5

¥1,760〔税込〕



* 9 7 8 4 5 9 4 0 8 9 7 9 5 *



熔果

黒川 博行 著

新潮社

5億円の金塊強奪事件を追う元警察官の堀内と伊達。大阪から湯布院、小倉を経て名古屋へと、事件の核心に近づいていくふたりに、ヤクザ、半グレ、汚職警官、悪徳貴金属ブローカーが立ち塞がり…。『小説新潮』連載を書籍化。

産経新聞 2021/12/18

2021:11./ 475p
978-4-10-317402-8

¥2,090〔税込〕



* 9 7 8 4 1 0 3 1 7 4 0 2 8 *



漫画家の自画像

南 信長 著

左右社

漫画家たちの自画像にスポットを当て、作中で自らをどのようにキャラ化したかを検証。自画像と本人の距離を実例を引きながら考察する。見返しに折込みの系譜図あり。書評投稿サイト『シミルボン』連載に書下ろしを加え書籍化。

産経新聞 2021/12/18

2021:11./ 278p
978-4-86528-055-5

¥2,200〔税込〕



* 9 7 8 4 8 6 5 2 8 0 5 5 5 *



老人支配国家日本の危機(文春新書 1339)

エマニュエル・トッド 著

文藝春秋

世界情勢をわかりやすく解説し、日本の危機は「コロナ」でも「経済」でも「中国」でもなく、「家族」の過剰な重視が招いた「非婚化」「少子化」であることを直言する。『文藝春秋』掲載の磯田道史、本郷和人との対談も収録。

産経新聞 2021/12/18、朝日新聞 2021/12/25

2021:11./ 248p
978-4-16-661339-7

¥935〔税込〕



* 9 7 8 4 1 6 6 6 1 3 3 9 7 *



R.I.P.～安らかに眠れ～

久坂部 羊 著

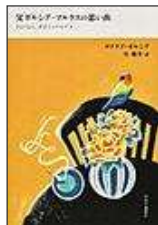
講談社

優しかった兄が、3人もの自殺志願者を殺めた。連続凶悪事件を犯した兄・真也が語り始める不可解な動機を解き明かそうと、妹の薫子は奔走するが、一線を越えてしまった真也の「知らなかった一面」に衝撃を受け…。

産経新聞 2021/12/19

2021:11./ 262p
978-4-06-526137-8

¥1,760〔税込〕



父ガルシア=マルケスの思い出～さようなら、ガボとメルセデス～

ロドリゴ・ガルシア 著

中央公論新社

20世紀を代表する作家の末期の風景とは。ノーベル賞作家であることを超え、ラテンアメリカ人全体の祖型のような存在となったガルシア=マルケス。映画監督の道を選んだ長男ロドリゴが、父と母の思い出を繊細かつ誠実に綴る。

産経新聞 2021/12/19

2021:12./ 188p
978-4-12-005483-9

¥2,200〔税込〕



原敬～「平民宰相」の虚像と実像～(中公新書 2660)

清水 唯一朗 著

中央公論新社

初の「平民」首相として、本格的政党内閣を率いた原敬。米騒動など民意高揚下、藩閥と時に敵対、時に妥協し改革を主導するも、首相就任後、改革途上で凶刃に倒れた。大衆迎合と一線を画した現実主義者の軌跡とその真意を描く。

産経新聞 2021/12/19

2021:9./ 5p,324p
978-4-12-102660-6

¥990〔税込〕



女の子の謎を解く

三宅香帆 著

笠間書院

男女逆転モノが少女漫画に多いのはなぜか。なぜ大人数のアイドルが流行ったのか。小説や漫画、ドラマ、映画、アイドルに描かれる「ヒロイン」を読み解き、今の世の中を考察する。文春オンラインほか掲載を加筆し書籍化。

産経新聞 2021/12/19

2021:11./ 281p
978-4-305-70950-9

¥1,650〔税込〕



北斗の邦へ翔べ

谷津 矢車 著

角川春樹事務所

松前家中の少年、春山伸輔は家名を復権させるべく、新政府の遊軍隊と合流。一方、新撰組の土方歳三は、かつて夢見た国盗りを箱館政府によって実現させようとしていた…。相反する2人の運命の出会いを描いた歴史小説。

産経新聞 2021/12/19

2021:11./ 384p
978-4-7584-1389-3

¥1,870〔税込〕





仕掛ける力～売れる広報の鉄則～

三井 智子 著

合同出版

売れる広報は「巻き込み力」「共感力」「アンテナ力」で仕掛ける！伝説の百貨店・ブラントアン銀座・元広報、福袋ブーム生みの親が、広報で会社を成長させる方法を伝える。仕事を続けながら子を育て奮闘したエピソードも紹介。

産経新聞 2021/12/19

2021:9./ 226p
978-4-7726-6151-5

¥1,650〔税込〕



香港人は本当に敗れたのか

藤本欣也 著

産経新聞出版

「20年前の香港」と「国安法施行の香港」取材した記者が中国支配の恐怖に迫る。ボーン・上田記念国際記者賞受賞講演録も収録。『産経新聞』掲載記事を基に再構成。

産経新聞 2021/12/19

2021:12./ 309p
978-4-8191-1407-3

¥1,650〔税込〕



移民のヨーロッパ史～ドイツ・オーストリア・スイス～

クラウス・J.バーデ 編

増谷 英樹、亀山 洋子、東風谷 太一、前田 直子、藤井 欣子、鈴木 珠美 著

東京外国語大学出版会

近現代ヨーロッパの中心問題でありつづけてきた移民・統合・文化的交流。ドイツ、オーストリア、スイスを舞台に、近代以降の歴史を網羅的に読み解き、多くの事例を通じてさまざまな移民現象を明らかにする。

産経新聞 2021/12/19

2021:9./ 322p,8p
978-4-904575-90-1

¥3,520〔税込〕



ミレニアル・スタートアップ～新しい価値観で動く社会と会社～(BOW BOOKS 002)

裾本 理人 著

中央経済社

若い世代を率いる次世代リーダーの条件とは。ミレニアル世代の起業家が語る、新しい経営論。コロナ前からすでにスタートしていたアフターコロナの起業の仕方、働き方、生き方を伝える。

産経新聞 2021/12/25

2021:10./ 204p
978-4-502-40301-9

¥1,650〔税込〕



ヨーロッパ・コーリング・リターンズ～社会・政治時評クロニクル 2014-2021～(岩波現代文庫 社会 330)

ブレイディ みかこ 著

岩波書店

人か資本か。優先順位を間違えた政治は、希望を奪い、貧困と分断を拡大させる。英国の暮らしと政治を独自の視点で読み解く。パンデミックの影響の推移を捉えた記事を含む、7年半にわたる論考を収録。

産経新聞 2021/12/26

2021:11./ 11p,478p
978-4-00-603330-9

¥1,265〔税込〕





エビはすごいカニもすごい～体のしくみ、行動から食文化まで～(中公新書 2677)

矢野 勲 著

中央公論新社

なぜエビ・カニは茹でると赤くなるのか。なぜエビは跳びはね、カニは爪先で歩くのか。エビ・カニとシャコやヤドカリとの違いとは。多種多彩なエビ・カニの、体のしくみやすごい生き方を紹介する。

産経新聞 2021/12/26

2021:12./ 4p,264p
978-4-12-102677-4

¥990〔税込〕



32歳。いきなり介護がやってきた。～時をかける認知症の父と、がんの母と～

あまのさくや 著

佼成出版社

父が若年性アルツハイマー型認知症と診断された1年半後、母ががん宣告を受け…。30代で介護生活に突入したエッセイストの、切なくも愛おしい家族の記録。cakesのウェブ連載を加筆し単行本化。

産経新聞 2021/12/26

2021:11./ 225p
978-4-333-02858-0

¥1,430〔税込〕



学術出版の来た道(岩波科学ライブラリー 307)

有田 正規 著

岩波書店

学術出版は他の産業とはまったく異なる評価・価値体系を形成してきた。学術誌の価格高騰、オープンアクセス運動、ランキング至上主義、データベースの苦難といった構造的な問題を、歴史的な視点から解き明かす。

朝日新聞 2021/12/04

2021:10./
5p,148p,10p
978-4-00-029707-3

¥1,650〔税込〕



どろどろの聖書(朝日新書 842)

清涼院流水 著

朝日新聞出版

聖書には、実在した歴史人物たちの愛憎劇が無数に描かれている。そんなどろどろの聖書の愛憎劇の中から、51本のエピソードを厳選。それらを通じて聖書の全体像を紹介する。

朝日新聞 2021/12/04

2021:11./ 221p
978-4-02-295148-9

¥869〔税込〕



イップス～魔病を乗り越えたアスリートたち～(角川新書 K-372)

澤宮 優 著

KADOKAWA

大事な場面で手が動かない!「イップス」を体験したプロ野球選手やプロゴルファーが、その症状を公開し、苦労や対処法を語る。指導者が克服のために採った練習方法や、イップスのメカニズムも取り上げる。

朝日新聞 2021/12/04

2021:10./ 273p
978-4-04-082397-3

¥1,056〔税込〕





うんち学入門～生き物にとって「排泄物」とは何か～(ブルーバックス B-2106)

増田 隆一 著

講談社

「うんち」とは何か。その役割とはどのようなものか。仲間やライバルの行動を支配する「うんち」を使った情報戦略とは-。「うんち」から見た生き物のあり方や意義を、会話を交えながらわかりやすく解説する。

朝日新聞 2021/12/04

2021:10./ 238p
978-4-06-517014-4

¥1,100〔税込〕



とにもかくにもごはん

小野寺 史宜 著

講談社

午後5時開店、午後8時閉店。松井波子が開いた「クロード子ども食堂」。お客さんは、デートに向かうおかあさんに置いていかれる小学生や、娘と絶縁し孤独に暮らすおじいさん…。現代社会の生きづらさと希望を描く群像劇。

朝日新聞 2021/12/04

2021:8./ 285p
978-4-06-523714-4

¥1,705〔税込〕



畏れ入谷の彼女の柘榴

舞城 王太郎 著

講談社

もう半年以上も触れていない妻に赤ちゃんができた。どういうことだ!? 「ピー」で光る息子の指。命が落ちたのは夫婦の谷…。全3編を収録したデビュー20周年記念短編集。『群像』掲載に書き下ろしを加えて書籍化。

朝日新聞 2021/12/04

2021:10./ 215p
978-4-06-525147-8

¥1,650〔税込〕



過疎再生～奇跡を起こすまちづくり～

松場 登美 著

小学館

人口400人。鉄道の駅はなく、バスは1日数便。経済成長から取り残された山間の過疎の町、石見銀山はなぜ再生できたのか。「足元の宝」を見つけ、それを事業や町づくりにつなげていった40年間の活動を振り返る。

朝日新聞 2021/12/04

2021:10./ 191p
978-4-09-388830-1

¥1,650〔税込〕



大本営が震えた日 改版(新潮文庫)

吉村 昭 著

新潮社

朝日新聞 2021/12/04

2003:7./ 407p
978-4-10-111711-9

¥737〔税込〕





阿修羅ガール(新潮文庫)

舞城 王太郎 著

新潮社

アイコは金田陽治への想いを抱えて少女的（ガーリッシュ）に悩んでいた。その間に街はカオスの大車輪！ グルグル魔人は暴走してるし、同級生は誘拐されてるし、子供たちはアルマゲドン始めてるし。世界は、そして私の恋はどうなっちゃうんだろ？ 東京と魔界を彷徨いながら、アイコが見つけたものとは??。三島由紀夫賞受賞作。受賞記念として発表された短篇「川を泳いで渡る蛇」を併録。

朝日新聞 2021/12/04

2005:4./ 367p
978-4-10-118631-3

¥693〔税込〕



こどもホスピスの奇跡～短い人生の「最期」をつくる～

石井 光太 著

新潮社

余命少ない子供が治療から離れ、家族と生涯忘れえぬ思い出を作れる場を、との願いから大阪に誕生した「こどもホスピス」。実現に向け立ち上がった人たちのこれまでとこれからを綴る。『小説新潮』連載に加筆修正し単行本化。

朝日新聞 2021/12/04

2020:11./ 269p
978-4-10-305457-3

¥1,705〔税込〕



あの戦争は何だったのか～大人のための歴史教科書～(新潮新書)

保阪 正康 著

新潮社

旧日本軍の構造から説き起こし、どうして戦争を始めなければならなかったのか、なぜ無謀な戦いを続けざるを得なかったのかなど、その実態を炙り出す。単純な善悪二元論を排し、「あの戦争」を歴史に位置づける唯一無二の試み。

朝日新聞 2021/12/04

2005:7./ 251p
978-4-10-610125-0

¥880〔税込〕



平成のヒット曲(新潮新書 929)

柴 那典 著

新潮社

平成とはどんな時代だったのか。1989年の美空ひばり「川の流れのように」から、2018年の米津玄師「Lemon」まで、30のヒット曲を分析。それらの曲が社会に何をもたらしたかを読み解き、時代の実像に迫る。

朝日新聞 2021/12/04

2021:11./ 303p
978-4-10-610929-4

¥946〔税込〕



ツァラトゥストラ 改版(中公文庫 ニ 2-3)

ニーチェ、手塚 富雄 著

中央公論新社

近代の思想と文学に強烈な衝撃を与えたニーチェの主著。神の死でニヒリズムに陥ったヨーロッパ精神を、生をありのままに肯定し自由な境地に生きる超人によって克服する予言の書。三島由紀夫×手塚富雄の対談も収録。

朝日新聞 2021/12/04

2018:5./ 765p
978-4-12-206593-2

¥1,650〔税込〕





つみびと(中公文庫 や65-3)

山田 詠美 著
中央公論新社

灼熱の夏、彼女はなぜ幼な子2人を置き去りにしたのか? 追い詰められた母親、死に行く子どもたち…。虐げられる者の心理に分け入り、痛ましいネグレクト事件の深層を探る。春日武彦との対談も収録。

朝日新聞 2021/12/04

2021:9./ 424p
978-4-12-207117-9

¥792〔税込〕



ポップス歌手の耐えられない軽さ

桑田 佳祐 著
文藝春秋

マイクをペンに持ちかえて、不埒に、真面目に、時に感傷的に。音楽シーンのトップを走り続ける桑田佳祐が、自身の原点、憧れの音楽家、バンドへの情熱を初めて明かす。『週刊文春』連載に加筆修正し単行本化。

朝日新聞 2021/12/04

2021:10./ 429p
978-4-16-391449-7

¥2,500〔税込〕



縄張り

加藤翼 著
朝日出版社

代表作である「The Lighthouses - 11.3 PROJECT」をはじめ、加藤翼が世界各地で制作してきた作品を収録。2021年7月9日に東京オペラシティアートギャラリーにて開催の展覧会の図録。

朝日新聞 2021/12/04

2021:9./ 149p
978-4-255-01251-3

¥3,630〔税込〕



ジーンブライド(F C s w i n g)

高野 ひと深 著
祥伝社

朝日新聞 2021/12/04

2021:11./ 160p
978-4-396-76844-7

¥759〔税込〕



文学部の逆襲～人文知が紡ぎ出す人類の「大きな物語」～(ちくま新書 1603)

波頭 亮 著
筑摩書房

AIが拓く新しい時代、社会はどう構築され、人はどのように幸せな人生を生きるのか。今こそ人文の力=文学部が時代を進める役割を担う時である。近現代の世の中の仕組みと課題を総括し、これからの社会のあるべき姿を考える。

朝日新聞 2021/12/04

2021:10./ 201p
978-4-480-07431-7

¥858〔税込〕





本は読めないものだから心配するな(ちくま文庫 す 28-1)

管 啓次郎 著

筑摩書房

本を読む。忘れる。それは当たり前。内容を覚えてなくても、「読めた」と言えなくても、心配しなくていい。よろこびをもって前に進もう…。本、書店、書評などについて語る読書の實用論。

朝日新聞 2021/12/04

2021:9./ 295p
978-4-480-43766-2

¥990〔税込〕



リスクコミュニケーション～排除の言説から共生の対話へ～

名嶋 義直／太田 奈名子／韓 娥凜／村上 智里／義永 美央子／林 良子／野呂 香代子／西田 光一 著

明石書店

権力の「リスクコミュニケーション」を取り上げ、その管理と排除の実践を批判的に分析・考察。新型コロナ、ヘイトスピーチ、放射能汚染など、多様なリスク視の具体的事例にもとづいて、リスクコミュニケーションの諸相を示す。

朝日新聞 2021/12/04

2021:6./ 354p
978-4-7503-5216-9

¥3,520〔税込〕



新しい時代への歌(竹書房文庫 ぴ 2-1)

サラ・ピンスカー、村山美雪 著

竹書房

感染症とテロによりライブが禁じられた世界。仮想空間のライブのチケットをもらったことで、音楽の新たな魅力を知ったローズマリーは、密に行われているライブからミュージシャンを発掘するスカウトになることを決意し…。

朝日新聞 2021/12/04

2021:9./ 602p
978-4-8019-2792-6

¥1,650〔税込〕



ヤクザ・チルドレン

石井光太 著

大洋図書

暴力団の家族として生まれ育った子供たちは、社会の中でどう生きているのか。差別、貧困、虐待…。社会のあらゆる問題が詰まった暴力団の家庭を 14 人の子供の証言で明らかにする。『実話ナックルズ』連載に加筆修正。

朝日新聞 2021/12/04

2021:11./ 319p
978-4-8130-2286-2

¥1,760〔税込〕



応答せよ!絵画者～中村宏インタビュー～

嶋田 美子 編

中村 宏 著

白順社

ルポルタージュ絵画「砂川五番」で知られる画家・中村宏のインタビュー集。戦後日本史、美術史を研究する欧米の研究者らをインタビュアーに、「現代思潮社・美学校」研究や、50?60 年代を中心にした日本美術について語る。

朝日新聞 2021/12/04

2021:10./ 269p
978-4-8344-0285-8

¥3,960〔税込〕





香港政治危機～圧力と抵抗の 2010 年代～

倉田 徹 著

東京大学出版会

2012 年「愛国教育」の必修化に反対する抗議集会、2014 年民主化を求める「雨傘運動」、2020 年「香港国家安全維持法」の施行…。気鋭の研究者が、この 10 年で大きく変わった香港の軌跡を多角的な視点から分析する。

朝日新聞 2021/12/04、読売新聞 2021/12/05

2021:9./ 5p,417p,31p
978-4-13-033110-4

¥3,520〔税込〕



同志少女よ、敵を撃て

逢坂 冬馬 著

早川書房

独ソ戦が激化する 1942 年、母をドイツ軍に惨殺され、赤軍の女性兵士に救われた少女セラフィマは、復讐のため、訓練学校で一流の狙撃兵になることを決意する。訓練を重ねた彼女は、やがてスターリングラードの前線へ…。

朝日新聞 2021/12/04、読売新聞 2021/12/05、日本経済新聞 2021/12/25

2021:11./ 492p
978-4-15-210064-1

¥2,090〔税込〕



ミルクとコロナ

白岩 玄／山崎 ナオコーラ 著

河出書房新社

白岩玄と山崎ナオコーラが、手紙をやりとりするように綴る往復・育児エッセイ。子育ての日々を通して“これからの世界”を探った 38 編を収録する。『Web 河出』連載に書き下ろしを加えて書籍化。

朝日新聞 2021/12/04、日本経済新聞 2021/12/11

2021:10./ 228p
978-4-309-03000-5

¥1,562〔税込〕



どこからお話ししましょうか～柳家小三治自伝～

柳家 小三治 著

岩波書店

人情の機微を描き出す円熟の古典落語、即興の妙が光るマクラ…。噺家・柳家小三治が、生い立ち、初恋、入門、修業時代、真打昇進、落語論から、バイク、クラシック音楽、俳句、忘れじの人々まで、すべてをたっぷり語り下ろす。

朝日新聞 2021/12/11

2019:12./ 9p,209p
978-4-00-061379-8

¥1,650〔税込〕



N

道尾 秀介 著

集英社

「魔法の鼻を持つ犬」とともに教え子の秘密を探る理科教師、殺人事件の真実を?むべくペット探偵を尾行する女性刑事…。1 章おきに上下逆転して印刷されている全 6 章。読みたい順番で読むことで、720 通りの物語が楽しめる。

朝日新聞 2021/12/11

2021:10./ 359p
978-4-08-771766-2

¥1,870〔税込〕





シリア・サンクション(ハヤカワ文庫 NV 1489)

ドン・ペントレー 著

早川書房

内戦下のシリアで CIA チームが化学兵器の被害に遭い、その兵器を開発した科学者が米国に接触してきた。彼の確保の命令を受けた国防情報局のドレイクはシリアに潜入。さらに大統領選を控えたホワイトハウスで不穏な動きが...

朝日新聞 2021/12/11

2021.11./ 571p
978-4-15-041489-4

¥1,386〔税込〕



殺し屋、続けてます。(文春文庫 い 89-3)

石持 浅海 著

文藝春秋

副業で殺し屋を営む経営コンサルタント・富澤允には、標的の何気ない行動が気になり、その謎を解かずにはいられないという奇妙な癖がある。そんな富澤の前に商売敵が現れて...。日常の謎を殺し屋が解き明かすシリーズ、第2弾。

朝日新聞 2021/12/11

2021.11./ 262p
978-4-16-791783-8

¥814〔税込〕



サヤン、シンガポール〜アルフィアン短編集〜(アジア文学館)

アルフィアン・サアット、幸節 みゆき 著

段々社

公営高層アパートで起きた殺人事件から人のつながりに思いを巡らせる老女。離婚してゲイとしてカミングアウトすることを決心した中年男...。繁栄の国シンガポールでひっそりと不器用に生きる人々の切ない(サヤン)12の物語。

朝日新聞 2021/12/11

2015.2./ 244p
978-4-434-20110-3

¥2,090〔税込〕



アジア主義全史(筑摩選書 0192)

嵯峨 隆 著

筑摩書房

アジア諸国と連帯して西洋列強からのアジア解放を目指したアジア主義。その全史を江戸時代から現在までたどりつつ、今後のアジア共生のために再評価を試みる。

朝日新聞 2021/12/11

2020.7./ 302p
978-4-480-01699-7

¥1,870〔税込〕



頭山満〜アジア主義者の実像〜(ちくま新書 1608)

嵯峨 隆 著

筑摩書房

戦前、多方面に政治的影響力をもったアジア主義者・頭山満。彼の生涯を辿りなおし、アジアとの連帯感と侵略志向とがいかなる形で彼の中で併存していたかをアジア主義との連関で読み解きつつ、近代日本のアジア観を問いなおす。

朝日新聞 2021/12/11

2021.10./ 254p
978-4-480-07433-1

¥924〔税込〕





だから殺せなかった(創元推理文庫 M い 13-1)

一本木 透 著

東京創元社

「おれは首都圏連続殺人事件の真犯人だ」 大手新聞社の社会部記者宛てに届いた一通の手紙を契機にして、新聞記者と連続殺人犯の“紙上戦”が始まる…。劇場型犯罪と報道の行方を緻密に描くミステリ。WOWOW ドラマの原作。

朝日新聞 2021/12/11

2021.11./ 316p
978-4-488-45021-2

¥792〔税込〕



図説クリスマス全史～起源・慣習から世界の祝祭となるまで～

タラ・ムーア 著

原書房

世界で最も影響力をもつ祝祭-。ローマ帝国が冬至とキリストの降誕日を融合したことで誕生したクリスマス。世界各地で独自に発展した祝い方など、クリスマス 2 千年の歴史を、宗教・政治・文化の観点から豊富な図版で解説する。

朝日新聞 2021/12/11

2021.11./ 300p,18p
978-4-562-05943-0

¥3,850〔税込〕



味の台湾

焦桐 著

みすず書房

担仔?、白湯猪脚、爆肉、臭豆腐、豆花、冬瓜茶…。台湾を代表する現代詩人が民間に根づいた食べものを題目に冠し、その味わいを綴る。台湾飲食文学の聖經と評された「味道福爾摩莎」から 60 篇を厳選して収録。

朝日新聞 2021/12/11

2021.10./ 8p,376p
978-4-622-09045-8

¥3,300〔税込〕



美しい純喫茶の写真集

品川亮 著

パイインターナショナル

見れば絶対行きたくなる! 北海道・滝川「ルビアン」、東京都・国分寺「でんえん」、福岡県・福岡「ブル・マーシャン」…。北海道から九州まで、日本全国に現存する貴重な純喫茶 30 軒を写真とともに紹介する。

朝日新聞 2021/12/11

2021.11./ 191p
978-4-7562-5462-7

¥2,090〔税込〕



渡された言葉～わたしの編集手帖から～

井上一夫 著

本の泉社

出版社に勤務すること 40 年、出会いの中で心に刻まれた言葉とは-。岩波書店の元編集者が、本づくりの場で聞き取った言葉をテーマに、魅力的な人々との交流の日々をエピソード豊かに描く。『新潟日報』等連載を基に書籍化。

朝日新聞 2021/12/11

2021.10./ 222p
978-4-7807-1829-4

¥1,500〔税込〕





詩に就いて

谷川 俊太郎 著

思潮社

言葉の餌を奪い合った揚げ句に 檻の中で詩が共食いしている まばらな木立の奥で野生の詩は じっと身をひそめている(「詩よ」より) あらゆるかたちで詩を問いつづけてきた谷川俊太郎による 36 篇を収めた詩集。

朝日新聞 2021/12/11

2015:4./ 91p
978-4-7837-3467-3

¥1,650〔税込〕



価値を否定された人々〜ナチス・ドイツの強制断種と「安楽死」〜

中野智世／木畑和子／梅原秀元／紀愛子 著

新評論

ナチス・ドイツの強制断種政策と「安楽死」の歴史を、最新の研究成果に基づいて明らかにする試み。この事象の計画や実行のプロセス、思想的背景、加害者および犠牲者の姿を描くとともに、現代に投げかけている問題を考える。

朝日新聞 2021/12/11

2021:10./ 330p
978-4-7948-1192-9

¥3,300〔税込〕



マレー素描集

アルフィアン・サアット 著

書肆侃侃房

シンガポールで活動するマレー系作家による短編集。「ふれあわない手」「浅いフォーカス」「誕生日プレゼント」など 48 の掌編のつらなりから、現在のシンガポール社会を描き出す。

朝日新聞 2021/12/11

2021:10./ 244p
978-4-86385-464-2

¥2,200〔税込〕



早すぎた男 南部陽一郎物語〜時代は彼に追いついたか〜(ブルーバックス B-2183)

中嶋 彰 著

講談社

自発的対称性の破れ、質量の起源…。素粒子物理学を根底から塗り替え、絶大な貢献をしたにもかかわらず、50 年近くもノーベル賞受賞を待たされた南部陽一郎。その巨大な功績を、成功と失敗が交錯する人生とともにたどる。

朝日新聞 2021/12/11、日本経済新聞 2021/12/25

2021:10./ 318p
978-4-06-525813-2

¥1,320〔税込〕



虚空へ

谷川 俊太郎 著

新潮社

できるだけ少ない言葉で詩を書いてみたい。誕生の不思議、いま触れている感覚、死の向こう。2020?2021 年に 14 行に凝縮して綴った、軽やかにして豊かな全 88 篇。『新潮』『Web 新小説』掲載に書下ろしを加える。

朝日新聞 2021/12/11、毎日新聞 2021/12/18、日本経済新聞 2021/12/25

2021:9./ 199p
978-4-10-401808-6

¥1,760〔税込〕





江戸の学びと思想家たち(岩波新書 新赤版 1903)

辻本 雅史 著
岩波書店

「教育社会」の到来が、個性豊かな江戸思想を生み出した。学校という近代日本のメディアを意識の片隅におきつつ、江戸の思想とそのメディアの多様な姿を追う。<学び>と<メディア>の視点からみわたす江戸思想史入門。

朝日新聞 2021/12/18

2021:11./ 6p,238p
978-4-00-431903-0

¥968〔税込〕



緑の家の女(角川文庫 お 78-1)

逢坂 剛 著
KADOKAWA

ある女の調査依頼を受けた岡坂神策。周辺を探る最中、その女が住むマンションのベランダから男が落ちて死亡するという不可解な事故が起きて…。表題作ほか全5編を収録。「岡坂神策」シリーズの短編集。

朝日新聞 2021/12/18

2017:2./ 346p
978-4-04-104742-2

¥748〔税込〕



神辺先生の当直ごはん<1>(BRIDGE COMICS)

ちんねん／能一ニエ 著
KADOKAWA
朝日新聞 2021/12/18

2021:12./ 195p
978-4-04-680788-5

¥726〔税込〕



鴨川ランナー

グレゴリー・ケズナジャット 著
講談社

外国から京都に来た青年の日常や、周囲の扱い方に対する違和感、その中で生きる不安や葛藤等を「きみ」という二人称を用いた独特の文章で内省的に描く。日本語を母語としない著者が紡ぐ、新しい感性による越境文学。

朝日新聞 2021/12/18

2021:10./ 173p
978-4-06-524995-6

¥1,650〔税込〕



OTOGIBANASHI

水野 良樹 (HIROBA) / 彩瀬 まる / 宮内 悠介 / 最果 タヒ / 重松 清 / 皆川 博子 著
講談社

小説家とアーティストが出会い、新たな「物語」が生まれる。彩瀬まる×伊藤沙莉×横山裕章「光る野原」、宮内悠介×坂本真綾×江口亮「南極に咲く花へ」…。「歌詞」から生まれた5つの小説を掲載。付属CDに楽曲を収録。

朝日新聞 2021/12/18

2021:10./ 76p
978-4-06-525783-8

¥3,520〔税込〕





暗記しないで化学入門～電子を見れば化学はわかる～ 新訂版(ブルーバック ス B-2185)

平山 令明 著

講談社

暗記をしなくても、電子の動きを理解すれば、化学の原理が見えてくる! さまざまな化学反応、あらゆる化学物質の性質も、電子に注目すれば、するすると紐解ける! 化学の「理屈と面白さ」がわかる、絶好の入門書。

朝日新聞 2021/12/18

2021:11./ 269p,5p
978-4-06-526067-8

¥1,100〔税込〕



喉の奥なら傷ついてもばれない(集英社文庫 み 44-3)

宮木 あや子 著

集英社

20歳で80歳の老人と金のために結婚した麻貴は、彼の息子とも孫とも寝ている。しかし旅先で出逢った清らかな女学生に目を奪われ…。「金色」をはじめ、欠落を抱えた人妻たちを描いた全6編を収録する。

朝日新聞 2021/12/18

2021:11./ 244p
978-4-08-744320-2

¥660〔税込〕



墮落論(新潮文庫)

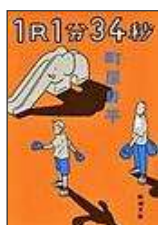
坂口 安吾 著

新潮社

朝日新聞 2021/12/18

2000:5./ 322p
978-4-10-102402-8

¥572〔税込〕



1R1分34秒(新潮文庫 ま-63-1)

町屋 良平 著

新潮社

プロボクサーのぼくは、自分の弱さに、その人生に厭きていた。駆け出しトレーナーの変わり者、ウメキチとの練習の日々が、ぼくを、その心身を、世界を変えていく。若者の葛藤との成長を描く青春小説。

朝日新聞 2021/12/18

2021:12./ 182p
978-4-10-103441-6

¥539〔税込〕



センセイの鞆(新潮文庫)

川上 弘美 著

新潮社

ひとり通いの居酒屋で37歳のツキコさんがたまさか隣あったご老体は、学生時代の国語の恩師だった。カウンターでぼつりぼつりと交わす世間話から始まったセンセイとの日々は、露店めぐりやお花見、ときにささいな喧嘩もはさみながら、ゆたかに四季をめぐる。年齢のはなれた男女の、飄々として、やがて切々と慈しみあう恋情を描き、あらゆる世代をとりこにした谷崎賞受賞の名作。

朝日新聞 2021/12/18

2007:9./ 299p
978-4-10-129235-9

¥649〔税込〕





都会と犬ども

新潮社

腕力と狡猾がものを言う、弱肉強食の士官学校を舞台に、ペルー各地から集まったさまざまな少年たちの抵抗と挫折を重層的に、そして現代社会の墮落と腐敗を圧倒的な筆力で描く。作家自身の体験を昇華した小説。

朝日新聞 2021/12/18

2010:12./ 413p
978-4-10-514508-8

¥3,080〔税込〕



両方になる(CREST BOOKS)

アリ・スミス 著

新潮社

15 世紀イタリアに生きたルネサンスの画家と、母を失ったばかりの 21 世紀のイギリスの少女。2 人の物語は時空を超えて響き合い、男と女、絵と下絵、事実と虚構の境界をも鮮やかに塗り替えていく。

朝日新聞 2021/12/18

2018:9./ 160p,5p
978-4-10-590152-3

¥2,640〔税込〕



ドイツ・ナショナリズム〜「普遍」対「固有」の二千年史〜(中公新書 2666)

今野 元 著

中央公論新社

欧州で主導権を握るドイツ。だが、「普遍」的価値観に照らした「正しさ」を他国にも求める姿勢に対して、英仏など周辺国からの反撥は根強い。二千年にわたる歴史を繙き、ドイツはいかにして「ドイツ」になったのかをさぐる。

朝日新聞 2021/12/18

2021:10./ 7p,336p
978-4-12-102666-8

¥1,056〔税込〕



わたしは「セロ弾きのゴーシュ」〜中村哲が本当に伝えたかったこと〜

中村 哲 著

N H K 出版

アフガニスタンで 65 万人の命をつなぎ、2019 年、凶弾に倒れた医師は、何を語ったのか。1996 年から 2009 年にかけて、NHK「ラジオ深夜便」の 6 番組でインタビューを受けた中村哲の肉声を忠実に書籍化。

朝日新聞 2021/12/18

2021:10./ 232p
978-4-14-081879-4

¥1,760〔税込〕



ルポ死刑〜法務省がひた隠す極刑のリアル〜(幻冬舎新書 さ-24-1)

佐藤大介 著

幻冬舎

法務省によって徹底的に伏せられている死刑の詳細。死刑囚、元死刑囚の遺族、刑務官、検察官、教誨師、元法相、法務官僚など異なる立場の人へのインタビューを通して、密行主義が貫かれる死刑制度の全貌と問題点に迫る。

朝日新聞 2021/12/18

2021:11./ 286p
978-4-344-98638-1

¥1,034〔税込〕





ルース・B・ギンズバーグ名言集～新しい時、新しい日がやってくる～

創元社

ジェンダー平等や多様性の実現のために力を尽くした米国最高裁判事ルース・B・ギンズバーグ。多くの若者の心を動かし、未来に希望をつなげた真摯で聡明な言葉の数々を解説とともに収めた名言集。

朝日新聞 2021/12/18

2021:11./ 94p
978-4-422-32030-4

¥1,650〔税込〕



歩く・知る・対話する琉球学～歴史・社会・文化を体験しよう～

松島 泰勝 著

明石書店

琉球(沖縄)の歴史・社会・文化について Q&A 形式で解説。琉球を「自分事」として考えるために、エコツアーや民泊による生活体験といったフィールドワークも紹介する。主要博物館、施設情報が得られる QR コード付き。

朝日新聞 2021/12/18

2021:11./ 363p,3p
978-4-7503-5279-4

¥2,200〔税込〕



アナキズムを読む～<自由>を生きるためのブックガイド～

田中 ひかる 編

皓星社

国家や資本主義、社会の規範や慣習、身近な人間関係…。「支配がない状態」をつくりだす思考と実践を手がかりに、生きやすい社会を構想し、豊かな生き方を探る読書案内。50 点以上のブックガイド、コラム、エッセイを収録。

朝日新聞 2021/12/18

2021:10./ 181p
978-4-7744-0752-4

¥2,200〔税込〕



ぜんぶ愛。

安藤 桃子 著

集英社インターナショナル

映画のロケをきっかけに、3 秒で移住を決め高知県へ。豊かな自然、心優しき人々、ちょっと“変”な家族の愛…。映画監督・安藤桃子が「七光り八起き」の半生をユーモラスに綴る。『日本経済新聞』連載に加筆修正し単行本化。

朝日新聞 2021/12/18

2021:11./ 183p
978-4-7976-7404-0

¥1,650〔税込〕



ジャズシーン

エリック・ホブズボーム 著

績文堂出版

ジャズは 20 世紀の突出した文化現象である。ジャズを愛した歴史家ホブズボームが、ジャズの歴史、楽器、功績、社会への影響、1957?65 年・1986?89 年のジャズシーンなどを描く。

朝日新聞 2021/12/18

2021:10./ 625p,19p
978-4-88116-137-1

¥4,620〔税込〕





談志の日記 1953 17歳の青春

立川談志 著

d Z E R O

人形町で 100 円小さんに小遣をもらう。しかしその場でなくす。その場で探すのも失礼だからよした。立川談志が入門翌年の 1953 年に綴った日記と、1952 年?1954 年の演目の記録を収載。貴重な写真も収録。

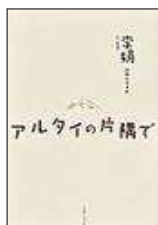
朝日新聞 2021/12/18

2021:11./ 261p 図版

16p

978-4-907623-46-3

¥3,080〔税込〕



アルタイの片隅で

李娟、河崎みゆき 著

インターブックス

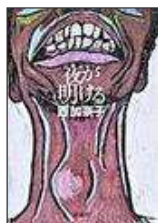
氷点下 30 度を超える冬、緑滴る夏。小さな雑貨店は遊牧民たちの夢の百貨店だった。著者の母親がアルタイの遊牧地域で開いた裁縫店兼雑貨店にやって来る人々や生活を描いた物語。魯迅文学賞受賞作家・李娟の若き日の作品集。

朝日新聞 2021/12/18

2021:9./ 242p

978-4-924914-69-8

¥2,860〔税込〕



夜が明ける

西 加奈子 著

新潮社

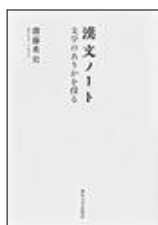
どれだけ傷ついても、夜が深くても、必ず明日はやってくる。思春期から 33 歳になるまでの男同士の友情と成長、そして変わりゆく日々を生きる奇跡を描く。再生と救済の物語。『小説新潮』連載を単行本化。

朝日新聞 2021/12/18、読売新聞 2021/12/27

2021:10./ 407p

978-4-10-307043-6

¥2,035〔税込〕



漢文ノート～文学のありかを探る～

齋藤 希史 著

東京大学出版会

漢詩文やその文脈を共有する小説や文章をめぐる話から、身辺雑記まで、四季折々のことばの森から文学の新たな視界をひらく 24 のエッセイを収録。東京大学出版会の PR 誌『UP』連載を加筆し書籍化。

朝日新聞 2021/12/18、日本経済新聞 2021/12/18

2021:11./ 5p,300p,8p

978-4-13-083083-6

¥2,970〔税込〕



夫婦別姓～家族と多様性の各国事情～(ちくま新書 1613)

栗田 路子、富久岡 ナヲ、プラド 夏樹、田口 理穂、片瀬 ケイ、齋藤 淳子、伊東 順子 著

筑摩書房

夫婦別姓が可能または原則の国々で実体験を持つ筆者達が、各国の歴史や法律から姓と婚姻、家族の事情を考察し「選べる」社会のヒントを探る。そして立法、司法、経済界の視点を交えて、具体的な実現に何が必要かを議論する。

朝日新聞 2021/12/18、日本経済新聞 2021/12/18

2021:11./ 309p,9p

978-4-480-07440-9

¥1,034〔税込〕





ケルト人の夢

マリオ・バルガス＝リョサ 著

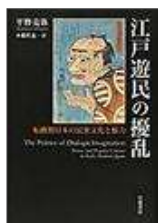
岩波書店

20世紀初頭、コンゴとアマゾンの先住民に対する虐待、植民地主義の罪を告発したアイルランド人がいた。英雄であり、反逆者でもあった100年前の外交官を描きながら、評伝よりも大きなスケールで人間の不思議さに迫る。

朝日新聞 2021/12/18、日本経済新聞 2021/12/18、読売新聞 2021/12/27

2021:10./ 14p,535p
978-4-00-061474-0

¥3,960〔税込〕



江戸遊民の擾乱～転換期日本の民衆文化と権力～

平野 克弥 著

岩波書店

江戸で花開いた民衆文化を躍起になって統制しようと試み続けた徳川幕府。それはなぜなのか。為政者たちが恐れた「跳梁する身体」をめぐる政治的・文化的せめぎあいの諸相を、歌舞伎・戯作などの具体的事例に即して読み解く。

朝日新聞 2021/12/25

2021:8./ 8p,348p,23p
978-4-00-022311-9

¥5,060〔税込〕



チャリティの帝国～もうひとつのイギリス近現代史～(岩波新書 新赤版 1880)

金澤 周作 著

岩波書店

弱者への共感と同情が生んだ無数のチャリティと、それらを組み込む重層的なセーフティネット。長い歴史に立脚し、社会の錨として働き続けるチャリティという現象を軸にしてイギリス近現代史を描く。

朝日新聞 2021/12/25

2021:5./
19p,231p,26p
978-4-00-431880-4

¥946〔税込〕



女が学者になるとき～インドネシア研究奮闘記～ 増補(岩波現代文庫 学術438)

倉沢 愛子 著

岩波書店

体当たりで挑んだジャワのフィールド調査、博士論文執筆と就職…。インドネシア研究の第一人者として知られる著者の原点とも言える日々を描いた半生記。大学を退職し、70代半ばを迎えた今日の心境を綴った補章も収録。

朝日新聞 2021/12/25

2021:8./ 8p,376p
978-4-00-600438-5

¥1,694〔税込〕



インドラネット

桐野 夏生 著

KADOKAWA

美しく聡明なカリスマ性を持つ同級生、空知がカンボジアで消息を絶った。取り柄のないことにコンプレックスを抱いてきた晃は、愛しい友人を追い、東南アジアの混沌に飛び込むが…。『小説野性時代』連載を加筆し単行本化。

朝日新聞 2021/12/25

2021:5./ 373p
978-4-04-105604-2

¥1,980〔税込〕





セカイを科学せよ!(講談社・文学の扉)

安田 夏菜 著

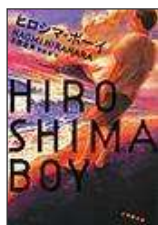
講談社

ルーツが日米の蟲好き女子・葉奈。ルーツが日露のミハイル。葉奈とミハイル、そして科学部の面々は、生物班の存続をかけ、学校に活動の成果を示すことに...!? ミックスルーツの中学生が繰り広げるバイオロジカル・コメディ。

朝日新聞 2021/12/25

2021:10./ 239p
978-4-06-524629-0

¥1,540〔税込〕



ヒロシマ・ボーイ(小学館文庫 ヒ 2-3)

平原直美 著

小学館

親友の遺灰を届けるため、50年ぶりに広島を訪れた日系二世のマス。瀬戸内海の島に到着した彼は少年の遺体を発見し...。「ガサガサ・ガール」などに続く、庭師マス・アライ事件簿シリーズ完結。エドガー賞最優秀賞最終候補作。

朝日新聞 2021/12/25

2021:8./ 313p
978-4-09-406728-6

¥1,034〔税込〕



ひらやすみ(ビッグ コミックス)

真造 圭伍 著

小学館

朝日新聞 2021/12/25

2021:9./ 192p
978-4-09-861118-8

¥650〔税込〕



2021:12./ 176p
978-4-09-861204-8

¥650〔税込〕



どうやら僕の日常生活はまちがっている

岩井 勇気 著

新潮社

あの不敵な笑みを浮かべながら、平凡な毎日に一撃を食らわせる-。ハライチ岩井のエッセイ集第2弾。初小説も収録する。『小説新潮』『Book Bang』連載に書き下ろしを加えて単行本化。

朝日新聞 2021/12/25

2021:9./ 206p
978-4-10-352882-1

¥1,375〔税込〕



やさしい猫

中島 京子 著

中央公論新社

シングルマザーの保育士ミユキさんが心ひかれたのは、8歳年下の自動車整備士クマさん。小さな幸せが突然奪われたのは、彼がスリランカ出身の外国人だったから...。『読売新聞』夕刊連載を単行本化。

朝日新聞 2021/12/25

2021:8./ 410p
978-4-12-005455-6

¥2,090〔税込〕





ばにらさま

山本 文緒 著

文藝春秋

冴えない会社員の広志にできた彼女は色白でとびきり可愛い“ばにらさま”。彼女は、パニラアイスみたいに冷たい…。痛くて、切なくて、引きずり込まれる。日常の向こう側に見える心のあり様を捉えた 6 篇。

朝日新聞 2021/12/25

2021:9./ 218p
978-4-16-391426-8

¥1,540〔税込〕



コロナ後の世界

内田 樹 著

文藝春秋

エビデンスを軽んじ、政治効果を優先させた日本の感染症対策。知的無能が評価される「イデオクラシー」(愚者支配)とは。“母子癒着”する日米関係とディストピア化する社会…。社会の病毒をえぐり、再生への道筋を示す。

朝日新聞 2021/12/25

2021:10./ 286p
978-4-16-391458-9

¥1,650〔税込〕



中野のお父さんの快刀乱麻

北村 薫 著

文藝春秋

菊池寛の将棋小説への疑問、志ん生の CD に隠された秘密、小津映画の原作をめぐる謎…。国語教師の父と編集者の娘が、本と日常の謎に挑む! 『オール讀物』掲載を単行本化。

朝日新聞 2021/12/25

2021:11./ 313p
978-4-16-391461-9

¥1,705〔税込〕



ビジョナリー・カンパニーZERO～ゼロから事業を生み出し、偉大で永続的な企業になる～

ジム・コリンズ／ビル・ラジャー 著

日経 B P 社

誰と一緒に仕事をするか、リーダーシップ・スタイル、戦略、戦術をどうつくるか、パーパスやミッションなどをどう決めて実行するか。スタートアップや中小企業が偉大で永続的な企業になるために必要なことを解説する。

朝日新聞 2021/12/25

2021:8./ 518p
978-4-296-00032-6

¥2,420〔税込〕



学校、行かなきゃいけないの?～これからの不登校ガイド～(14歳の世渡り術)

雨宮 処凛 著

河出書房新社

学校に行かなくても、選択肢は意外にたくさんある。フリースクール、学習支援、心の専門家…。学校から遠ざかった人々、学校のあり方に疑問を持って独自の取り組みを始めた人々にインタビューし、多くの選択肢と実践を紹介。

朝日新聞 2021/12/25

2021:1./ 211p
978-4-309-61728-2

¥1,540〔税込〕





記憶の図書館〜ボルヘス対話集成〜

ホルヘ・ルイス・ボルヘス、オスバルド・フェラーリ 著

国書刊行会

ポー、カフカ、フロベール、ダンテ、幻想文学、推理小説…。偏愛のやまない作家と作品をめぐり、20世紀文学を代表するアルゼンチンの作家ボルヘスが縦横自在に語る。詩人・評論家フェラーリとの対話集。詳しい註、索引付き。

朝日新聞 2021/12/25

2021.9./ 694p
978-4-336-07244-3

¥7,480〔税込〕



寺山修司の<歌>と<うた>

齋藤愼爾、白石征 編

春陽堂書店

短詩型文学の鬼才・寺山修司。その短歌・俳句、「月光仮面」「青い山脈」などの作品のほか、中井英夫、鶴見俊輔、山田太一らのエッセイ&論考、岡本太郎、金子兜太、三島由紀夫、吉本隆明らとの貴重な対談&鼎談を収録する。

朝日新聞 2021/12/25

2021.9./ 279p
978-4-394-90391-8

¥2,640〔税込〕



沖縄観光産業の近現代史

櫻澤誠 著

人文書院

日本のみならず、世界から注目される観光地となった沖縄。主要産業としての観光はどのように発展してきたのか。実証的データをもとに、歴史学の手法により、沖縄がいかに主体的に観光産業に取り組んだのかを仔細に分析する。

朝日新聞 2021/12/25

2021.9./ 304p
978-4-409-52088-8

¥4,950〔税込〕



王さまのお菓子

石井 睦美 著

世界文化社

フランスのお菓子で、新年に家族が集まったときに食べるパイ「王さまのお菓子」。中には小さな陶器の置物が入っていて、当たった人に幸せを運んできます。パイの中の人形ミラーは、自分が誰に当たるのか、ドキドキして…。

朝日新聞 2021/12/25

2021.12./ 1冊(ページ
付なし)

978-4-418-21822-6

¥1,650〔税込〕



「育ちがいい人」だけが知っていること〜今からでも「育ち」は良くなる!〜

諏内 えみ 著

ダイヤモンド社

「育ちの良さ」は、美人を超える一生の武器。「美しいお辞儀の仕方」「雨の日のすれ違い方」「常に新札を準備しておく」など、「育ちがいい人」が身につけている、ふるまいと心遣いを伝授する。

朝日新聞 2021/12/25

2020.2./ 254p
978-4-478-11013-3

¥1,540〔税込〕





ウィリアム・アダムス～家康に愛された男・三浦按針～(ちくま新書 1552)

フレデリック・クレインス 著

筑摩書房

徳川家康の信頼を得て、側近の一人として家康の外交政策に大きな影響を及ぼしたイギリス人航海士ウィリアム・アダムス(三浦按針)。彼は何をなし、どんな晩年を送ったのか。アダムスの生涯から世界史の中の日本史を捉え直す。

朝日新聞 2021/12/25

2021:2./ 300p
978-4-480-07367-9

¥1,012〔税込〕



* 9 7 8 4 4 8 0 0 7 3 6 7 9 *



批評の教室～チョウのように読み、ハチのように書く～(ちくま新書 1600)

北村 紗衣 著

筑摩書房

精読する、分析する、書く。チョウのように軽いフットワークで作品を理解し、ハチのように鋭い視点で読み解くための3つのステップを徹底攻略。作品をたくさんの人と楽しくシェアするための、批評の入門書。

朝日新聞 2021/12/25

2021:9./ 238p
978-4-480-07425-6

¥902〔税込〕



* 9 7 8 4 4 8 0 0 7 4 2 5 6 *



実在とは何か～量子力学に残された究極の問い～

アダム・ベッカー 著

筑摩書房

量子力学の数学の標準的な解釈である「コペンハーゲン解釈」の最大の謎は、世界を構成する基本物質、原子も電子も素粒子も「実在しない」という主張だ。この難問をめぐる科学者たちの壮大な論争をたどる。

朝日新聞 2021/12/25

2021:8./ 478p
978-4-480-86092-7

¥2,750〔税込〕



* 9 7 8 4 4 8 0 8 6 0 9 2 7 *



TIME SMART～お金と時間の科学～

アシュリー・ウィランズ 著

東洋経済新報社

時間を手に入れて有意義に使っている状態=タイム・リッチになるための習慣など、ハーバード・ビジネススクールの心理学者が、健康で幸福になり、生産性が上がる時間戦略を解説する。書き込み式のワークシート等も収録。

朝日新聞 2021/12/25

2021:7./
16p,293p,34p
978-4-492-22400-7

¥1,760〔税込〕



* 9 7 8 4 4 9 2 2 2 4 0 0 7 *



もう死んでいる十二人の女たちと(エクス・リブリス)

パク・ソルメ 著

白水社

光州事件、福島第一原発事故、女性殺人事件などの社会問題に、韓国の新鋭作家が独創的な想像力で対峙し、実感のある言葉で紡いだ短篇集。「海満」「私たちは毎日午後」「愛する犬」など、全8篇を収録。

朝日新聞 2021/12/25

2021:3./ 221p
978-4-560-09066-4

¥2,200〔税込〕



* 9 7 8 4 5 6 0 0 9 0 6 6 4 *



断絶(エクス・リブリス)

リン・マー 著

白水社

中国発の未知の病が世界を襲い、感染者はゾンビ化し、死に至る。無人となったニューヨークから脱出した中国移民のキャンディスは、ある生存者のグループに拾われ、安全な<施設>へと向かうが…。震撼のパンデミック小説。

朝日新聞 2021/12/25

2021:4./ 348p
978-4-560-09067-1

¥3,740〔税込〕



清六の戦争～ある従軍記者の軌跡～

伊藤 絵理子 著

毎日新聞出版

太平洋戦争末期、爆撃下の洞窟で新聞を作り続けた東京日日新聞の従軍記者、伊藤清六。日米激戦のさなか新聞は何を伝え何を伝えなかったか。最期の時まで新聞を作り続けたひとりの記者の足跡を、75年後その子孫がたどる。

朝日新聞 2021/12/25

2021:6./ 190p
978-4-620-32686-3

¥1,650〔税込〕



権力は腐敗する

前川 喜平 著

毎日新聞出版

加計学園問題の真相、安倍政権から国政私物化も継承した菅政権、官邸一強体制と官僚の下僕・私兵化…。政権の「？」を暴き、糾弾し続ける元文部科学事務次官・前川喜平が、権力の腐敗の実態を明らかにする。「面従腹背」続編。

朝日新聞 2021/12/25

2021:9./ 302p
978-4-620-32696-2

¥1,760〔税込〕



台湾、あるいは孤立無援の島の思想～民主主義とナショナリズムのディレンマを越えて～

呉 叡人 著

みすず書房

構造的に<賤民>であることを強いられてきた台湾。多元・民主・平等に基づくナショナリズムを梃子として、孤立無援の境遇からの脱出を探る。政治学者による20年におよぶ思想的格闘の集成。

朝日新聞 2021/12/25

2021:1./ 4p,452p
978-4-622-08974-2

¥4,950〔税込〕



精霊に捕まって倒れる～医療者とモン族の患者、二つの文化の衝突～

アン・ファディマン 著

みすず書房

モン族の子・リアが、てんかんの症状でカリフォルニア州の病院に運ばれてくる。しかしリアを支える両親と病院スタッフの間には、行き違いが積み…。異文化の患者へのケアの意識を塗り変えたノンフィクション。

朝日新聞 2021/12/25

2021:8./
11p,402p,27p
978-4-622-09026-7

¥4,400〔税込〕





モミッリャーノ歴史学を歴史学する

モミッリャーノ、木庭顕 著

みすず書房

20 世紀における古代ギリシャ・ローマ史学の最高峰の一人にして、史学史(歴史学の歴史学)の泰斗、モミッリャーノ。史学史を主題にした精選 9 論文を初訳、随所に周到な訳注を脚注として付す。解説も収録。

朝日新聞 2021/12/25

2021:9./ 8p,283p
978-4-622-09042-7

¥7,150〔税込〕



BOWIE'S BOOKS～デヴィッド・ボウイの人生を変えた 100 冊～

ジョン・オコーネル 著

亜紀書房

本はボウイの音楽と人生の羅針盤だった。2013 年に公開された「デヴィッド・ボウイが選ぶ 100 冊の本のリスト」をもとに、それぞれの本とボウイの人生や作品とのつながりを解き明かす。

朝日新聞 2021/12/25

2021:9./ 374p
978-4-7505-1716-2

¥2,420〔税込〕



北極探検隊の謎を追って～人類で初めて気球で北極点を目指した探検隊はなぜ生還できなかったのか～

ベア・ウースマ 著

青土社

気球での北極横断を計画し、無人島・クヴィット島で全滅したアンドレー探検隊。彼らの死因は何だったのか。これまで見過ごされてきた事実をつきとめ、新たな仮説を立てるに至った、15 年以上にわたる調査研究の成果をまとめる。

朝日新聞 2021/12/25

2021:3./ 305p,11p
978-4-7917-7357-2

¥2,420〔税込〕



ニュージーランド アーダーン首相～世界を動かす共感力～

マデリン・チャップマン 著

集英社インターナショナル

迅速な判断、丁寧な発信でゼロコロナを実現した、ニュージーランドのアーダーン首相。卓抜した判断力、コミュニケーション力、共感力の源は何か。世界が注目する新しいタイプのリーダーに迫る評伝。

朝日新聞 2021/12/25

2021:11./ 319p
978-4-7976-7403-3

¥2,200〔税込〕



戦争障害者の社会史～20 世紀ドイツの経験と福祉国家～

北村 陽子 著

名古屋大学出版会

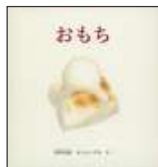
2 度にわたる世界大戦の時期にドイツで急増した戦争障害者は、どのようなその後を生きたのか。公的支援や医療の発達、義肢などの発展と、他方での差別や貧困、ナチへの傾倒など多面的な実態を描き、現代福祉の淵源を示す。

朝日新聞 2021/12/25

2021:3./ 7p,290p,65p
978-4-8158-1017-7

¥5,940〔税込〕





おもち(福音館の幼児絵本)

彦坂有紀／もりといずみ 著

福音館書店

網の上におもちをのせて、さあ焼こう。ちりちりちりり、ぱりぱりぷくり、ぷうーぷくぷく。おもちが焼けたら、磯辺焼き、あんこもち、きなこもちにして…。おもちに焼き色がつき、ふくらむ様子を美しい木版画で描いた絵本。

朝日新聞 2021/12/25

2021.11./ 23p
978-4-8340-8635-5

¥990〔税込〕



どんぐり喰い

エルス・ペルフロム 著

福音館書店

内戦終結から間もないスペイン・アンダルシア地方。少年クロは貧しい家計を助けるため、学校をやめて働きに出る。人々は貧しさや社会の不条理に耐えながらも誇り高く生きぬき、クロもまた、たくましく成長していく。

朝日新聞 2021/12/25

2021.11./ 342p
978-4-8340-8636-2

¥2,310〔税込〕



ベトナム:ドイモイと権力

フイ・ドゥック 著

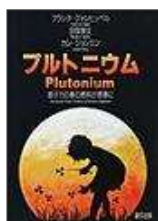
めこん

ホー・チ・ミン亡き後のベトナム共産党を継承した指導者たちの生い立ちや人となり、権力者間の人間関係、政策決定過程、権力闘争のありようなど、現代ベトナムの政治・社会の実相を描く。「ベトナム:勝利の裏側」の続編。

朝日新聞 2021/12/25

2021.5./ 599p
978-4-8396-0324-3

¥5,500〔税込〕



プルトニウム～原子力の夢の燃料が悪夢に～

フランク・フォンヒッペル (Frank von Hippel)／田窪 雅文／カン・ジョンミン (姜政敏) 著

緑風出版

3人の核問題専門家が、夢の燃料として喧伝されたプルトニウムの利用計画が核拡散・テロの危険を引き起こすだけの「悪夢」となっている状況を解説。また民生用燃料サイクルにおけるプルトニウムの分離と使用の禁止を提唱する。

朝日新聞 2021/12/25

2021.10./ 200p
978-4-8461-2116-7

¥2,860〔税込〕



麻薬と人間～100年の物語～

ヨハン・ハリ 著

作品社

「麻薬戦争」とは、米国流の「麻薬撲滅のための戦争」のこと。100年におよぶ「麻薬戦争」の歴史をたどり、「麻薬の危険性」の科学的根拠についても、専門家たちの検証を紹介する。2021年公開映画の原作。

朝日新聞 2021/12/25

2021.2./ 501p
978-4-86182-792-1

¥3,960〔税込〕





表象のベトナム、表象の日本〜ベトナム人実習生の生きる空間〜

塩入 すみ 著

生活書院

ベトナム人実習生と日本人の相互イメージのなかから、それが表象する意識と、2つの異文化という空間の関係のあり方に注目。グローバリゼーションがもたらした空間の変容と、空間の表象に潜む意識を批判的に明らかにする。

朝日新聞 2021/12/25

2021.3./ 217p
978-4-86500-126-6

¥2,750〔税込〕



サステナブルに暮らしたい〜地球とつながる自由な生き方〜

服部雄一郎／服部麻子 著

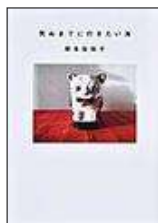
KTC中央出版

ゼロウェイスト、プラスチックフリー、ギフトエコノミー…。高知の山のふもとに暮らす翻訳者とその家族の、持続可能な暮らしのノウハウや生き方を綴ったエッセイ&生活実用書。無理なく楽しく取り組む方法やアイデアが満載。

朝日新聞 2021/12/25

2021.12./ 231p
978-4-87758-827-4

¥1,760〔税込〕



死ぬまでに行きたい海

岸本 佐知子 著

スイッチ・パブリッシング

焚火の思い出、猫の行方、魅かれる山…。出不精を自認する著者が、それでも気になるあれこれに誘われ、気の向くままに出かけて綴った、新しくてどこか懐かしい見聞録。全22篇を収録する。『MONKEY』連載を単行本化。

朝日新聞 2021/12/25

2020.12./ 189p
978-4-88418-543-5

¥1,980〔税込〕



TBSラジオ公式読本〜開局70周年記念〜

武田 砂鉄 著

リトル・モア

「ファスト」全盛時代という逆境の中で、TBSラジオはなぜ元気なのか？ライター・武田砂鉄による人気パーソナリティへのインタビュー、寄稿、現場レポート、対談などで、多角的に「TBSラジオ」を物語る。

朝日新聞 2021/12/25

2021.12./ 360p
978-4-89815-551-6

¥1,760〔税込〕



ジョン・レノンをたたえて〜life as experiment〜

堀内正規 著

小鳥遊書房

ジョン・レノンを聴くことは最後まで彼の life を、要素に分けられない丸ごとのものとして感じるということだった-。ビートルズ解散後にジョン・レノン名義で遺した録音(=テキスト)について、彼の生き方に着目して綴る。

朝日新聞 2021/12/25

2021.12./ 118p
978-4-909812-72-8

¥1,540〔税込〕





いばらき原発県民投票～議会審議を検証する～(読書人ブックレット 02)

佐藤 嘉幸／徳田 太郎 著

読書人

東海第二原発再稼働の可否をめぐる「いばらき原発県民投票の会」が展開した県民投票運動を振り返るとともに、茨城県議会における審議状況を検討し、審議の様々な問題点と「議論」の不条理を批判する。

朝日新聞 2021/12/25

2021:2./ 117p
978-4-924671-47-8

¥1,100〔税込〕



メルケル～世界一の宰相～

カティ・マートン 著

文藝春秋

女性で理系で東独出身。武器は倫理と科学。トランプ、プーチンら独裁者と渡り合い、コロナとの戦いにも勝った。世界で最も権力を持った女性宰相メルケルの想いと人生を描く。ペールに包まれた私生活にも触れる。

朝日新聞 2021/12/25、産経新聞 2021/12/26

2021:11./ 468p
978-4-16-391473-2

¥2,475〔税込〕



嫌われた監督～落合博満は中日をどう変えたのか～

鈴木 忠平 著

文藝春秋

中日監督時代の8年間、落合博満は勝ち続けながらもなぜ嫌われたのか。異端の将の影響で人生を激変させた12人の男たちの目を通して綴られる、落合博満の実像と中日ドラゴンズ変貌の記録。『週刊文春』連載に加筆修正。

朝日新聞 2021/12/25、読売新聞 2021/12/27

2021:9./ 476p
978-4-16-391441-1

¥2,090〔税込〕



東京の生活史

岸政彦 編

筑摩書房

東京で暮らしているいろんな階層、年齢、職業、ジェンダーの人生とは。東京で生きる150人の膨大な語りを一冊に収録した、かつてないスケールで編まれたインタビュー集。

朝日新聞 2021/12/25、読売新聞 2021/12/27

2021:9./ 1211p
978-4-480-81683-2

¥4,620〔税込〕



一度きりの大泉の話

萩尾 望都 著

河出書房新社

約50年前、漫画家・竹宮恵子や彼女のブレインと共同生活をしていた練馬区大泉。当時の“出会いと別れ”を、現在の心境もこめて書き下ろした70年代回想録。未発表スケッチも多数収録。

朝日新聞 2021/12/25、日本経済新聞 2021/12/25

2021:4./ 350p
978-4-309-02962-7

¥1,980〔税込〕





人工島戦記～あるいは、ふしぎとぼくらはなにをしたらいいかのこども百科～

橋本 治 著

ホーム社

橋本治が挑んだ空前絶後・前代未聞の全体小説。「人名地名その他ウソ八百辞典」、別冊「人工島戦記地図」付き。1993?1994年に『小説すばる』に連載された作品に、その後十数年にわたって大幅な加筆修正を加えた大作。

2021:9./ 1370p
978-4-8342-5350-4

¥10,780〔税込〕



朝日新聞 2021/12/25、毎日新聞 2021/12/18



ワクチンの噂～どう広まり、なぜいつまでも消えないのか～

ハイジ・J・ラーソン 著

みすず書房

ワクチンを打つと不妊になる。ワクチンを打つと自閉症になる…。ワクチンをめぐる噂やデマはどう広まり、なぜいつまでも消え去らないのか。国際的研究プロジェクトを率いてきた人類学者が、噂の生態系を明らかにする。

2021:11./
14p,206p,22p
978-4-622-09052-6

¥3,740〔税込〕



朝日新聞 2021/12/25、毎日新聞 2021/12/25



らんたん

柚木 麻子 著

小学館

大正最後の年。一色帋児は、渡辺ゆりにプロポーズした。彼女からの承諾の条件は、シスターフッドの契りを結ぶ河井道と3人で暮らすというもので…。『きらら』『WEB きらら』連載を加筆し、書き下ろしを加えて書籍化。

2021:11./ 497p
978-4-09-386624-8

¥1,980〔税込〕



東京・中日新聞 2021/12/05、日本経済新聞 2021/12/11



安倍晋三と菅直人～非常事態のリーダーシップ～(集英社新書 1087)

尾中 香尚里 著

集英社

3・11とコロナ。この歴史的国難に際して首相は国民に何を語り、国民をどう守ったか？安倍晋三と菅直人の危機の認識、言葉、権力の使い方、補償などを比較・記録し、あるべきリーダーシップを検証する。

2021:10./ 315p
978-4-08-721187-0

¥1,034〔税込〕



東京・中日新聞 2021/12/12



底惚れ

青山文平 著

徳間書店

男は、密かに想いを寄せていたお手つき女中・芳の宿下がり同行。芳は男を刺し、姿を消した。一命をとりとめた男は、人を殺めていないことを芳に伝えるため、岡場所の顔に成り上がり…。『読楽』掲載を加筆修正し単行本化。

2021:11./ 266p
978-4-19-865376-7

¥1,760〔税込〕



東京・中日新聞 2021/12/12



アーサー・マンデヴィルの不合理な冒険

宮田珠己 著

大福書林

教皇の命により、怪異うごめく東方世界に旅立った一行。しかしその情報源は父の遺したデタラメ旅行記だった。待ち受けるのは、羊のなる謎の木や、魚に乗るアマゾネス、犬頭人にマンドラゴラ…。折り込みのイラストあり。

東京・中日新聞 2021/12/12

2021:10./ 367p
978-4-908465-16-1

¥2,750〔税込〕



キャンドルフォード〜ラークライズ 続〜

フローラ・トンプソン 著

朔北社

ラークライズの農村から町に出てきたローラは、誰に会い、誰と生きていくのか？時代の変化に巻き込まれながらも、自分らしさを失うことなく成長していく少女の物語。

東京・中日新聞 2021/12/19

2021:10./ 482p
978-4-86085-139-2

¥2,640〔税込〕



象の旅

ジョゼ・サラマーゴ 著

書肆侃侃房

1551年、ポルトガル国王はオーストリア大公の婚儀への祝いとして象を贈ることを決める。重大な任務を受けた象遣いのスプックロは、象の肩に乗ってリスボンを出発し…。史実に基づく愛と皮肉なユーモアに満ちた作品。

東京・中日新聞 2021/12/19

2021:10./ 215p
978-4-86385-481-9

¥2,200〔税込〕



法廷調書

永山 則夫 著

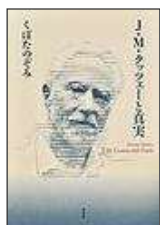
月曜社

法廷で永山則夫本人が事実関係をあきらかにした、唯一の、そして最後の証言とは-。1986年11月から12月にかけて、東京高等裁判所で行われた永山則夫の供述の記録。文芸評論家・井口時男の解説なども収録する。

東京・中日新聞 2021/12/19

2021:11./ 348p
978-4-86503-123-2

¥2,750〔税込〕



J・M・クッツェーと真実

くぼた のぞみ 著

白水社

ノーベル文学賞作家J・M・クッツェーの翻訳を手がけてきた著者が、作品の奥に埋め込まれた「真実」を解き明かし、作家の実像に迫る。年譜・全著作リストも収録。

東京・中日新聞 2021/12/19、朝日新聞 2021/12/25

2021:10./ 327p
978-4-560-09868-4

¥2,970〔税込〕





巨匠とマルガリータ<上>(岩波文庫 32-648-2)

ブルガーコフ、水野 忠夫 著

岩波書店

物語のつづで待つのは何か？ 春のモスクワに降り立つ悪魔、灼熱のゴルゴタと名無しの巨匠。首は転がり、黒猫はしゃべり、ルーブル札は雨と降る…。ブルガーコフが遺した 20 世紀ロシア最大の奇想小説。

読売新聞 2021/12/05

2015.5./ 443p
978-4-00-326482-9

¥1,177〔税込〕



巨匠とマルガリータ<下>(岩波文庫 32-648-3)

ブルガーコフ 著

岩波書店

裸で飛び立つモスクワの夜、アパートではじまる悪魔の大舞踏会。マルガリータの愛に、ユダヤ総督の 2 千年の苦悩に許しは訪れるのか？ ブルガーコフが遺した 20 世紀ロシア最大の奇想小説。

読売新聞 2021/12/05

2015.6./ 403p
978-4-00-326483-6

¥1,122〔税込〕



最澄と徳一～仏教史上最大の対決～(岩波新書 新赤版 1899)

師 茂樹 著

岩波書店

三乗説と一乗説のどちらが方便で、どちらが真実の教えか。仏教史上まれにみる規模におよんだ最澄と徳一の批判の応酬。5 年にわたり濃密な対話を続けたのはなぜか。何をどう語りあったのか。論争を解きほぐして描く。

読売新聞 2021/12/05

2021.10./ 16p,229p
978-4-00-431899-6

¥968〔税込〕



新型コロナと向き合う～「かかりつけ医」からの提言～(岩波新書 新赤版 1900)

横倉 義武 著

岩波書店

医療現場での課題とは何か。医療政策・医療行政のどこが問題なのか。初動の緊迫した半年間、日本医師会会長として、新型コロナ感染症対応にあたった経験から得た教訓と現状を踏まえ、「かかりつけ医」の果たす役割を考える。

読売新聞 2021/12/05

2021.10./ 10p,242p
978-4-00-431900-9

¥946〔税込〕



中国～キッシンジャー回想録～<上>(岩波現代文庫 社会 323)

ヘンリー・A. キッシンジャー 著

岩波書店

1972 年の米中和解の立役者・キッシンジャーが綴った決定的「中国論」。上は、米中和解へと至る道を清末中国の西洋との出会いから語り起こし、周恩来や毛沢東らとの交渉などを当事者自らの手で再構成する。

読売新聞 2021/12/05

2021.1./
13p,346p,35p
978-4-00-603323-1

¥1,694〔税込〕





中国～キッシンジャー回想録～<下>(岩波現代文庫 社会 324)

ヘンリー・A. キッシンジャー 著

岩波書店

1972年の米中和解の立役者・キッシンジャーが綴った決定的「中国論」。下は、中越戦争や台湾問題、天安門事件など時代の変化のなか、アメリカの手によって開かれた協力関係のもとで大国化の道を歩んでいく中国の姿を描く。

読売新聞 2021/12/05

2021:1./ 7p,p347?702

25p

978-4-00-603324-8

¥1,694〔税込〕



ふしぎな話～小池真理子怪奇譚傑作選～(角川ホラー文庫 こ 1-5)

東 雅夫 編

小池 真理子 著

KADOKAWA

死者が見える少女のとまどいと成長を描く「恋慕」に始まる連作3篇などの小説に、日常のふしぎを綴るエッセイを加えた全13篇。恐怖と官能、ノスタルジーに満ちた傑作短編集。

読売新聞 2021/12/05

2021:11./ 269p

978-4-04-111522-0

¥748〔税込〕



教科書名短篇～科学随筆集～(中公文庫 ち 8-10)

中央公論新社 編

寺田 寅彦 著

中央公論新社

中学国語教科書から、科学への扉を開く名随筆を精選。寺田寅彦「科学者とあたま」、湯川秀樹「詩と科学」、岡潔「発見の鋭い喜び」、矢野健太郎「科学的なものの考え方」など、全24篇を収録する。

読売新聞 2021/12/05

2021:9./ 242p

978-4-12-207112-4

¥770〔税込〕



矢印

松尾 スズキ 著

文藝春秋

放送作家見習いの「俺」は、師匠が自殺した日、偶然出会った女・スミレと結婚した。酒浸りの日々を送る中、俺を捉えて離さないのは、師匠が手首に入れていた矢印形の刺青のことだった…。『文学界』掲載を書籍化。

読売新聞 2021/12/05

2021:11./ 174p

978-4-16-391462-6

¥1,540〔税込〕



大作曲家の音符たち～池辺晋一郎の「傑作ア・ラ・カルト」～

池辺 晋一郎 著

音楽之友社

純粋に楽譜の面から歴史的作曲家24人をわかりやすく、楽しく解説。作曲家ならではの鋭い分析を展開し、彼らのすごさと素晴らしさを強い説得力で熱く語る。『音楽の友』2018年4月号?2020年3月号の連載を書籍化。

読売新聞 2021/12/05

2021:10./ 180p

978-4-276-20073-9

¥2,200〔税込〕





万葉の鳥～和歌を通して鳥を愛でる鳥を知って和歌を味わう～

山下 景子 著

誠文堂新光社

万葉集で詠まれた野鳥について、品種ごとに和歌の楽しみ方を読み解く。その周辺の和歌についても紹介。またそれぞれの項の末尾には、「鳥しるべ」として、現在のバードウォッチングにも活用できる様々な情報も収録する。

2021.9./ 255p
978-4-416-61997-1

¥2,750〔税込〕



読売新聞 2021/12/05



命、ギガ長ス

松尾 スズキ 著

白水社

ドキュメンタリー作家志望の女子大生が「8050 問題」の親子を取材する中、認識と記憶の儚さにさらされていき…。松尾スズキが、自身が演出し上演することだけを目的とせず書いた戯曲。切り取って使う上演許可申請書付き。

2019.7./ 139p
978-4-560-09424-2

¥2,200〔税込〕



読売新聞 2021/12/05



月の番人

トム・ゴールド 著

亜紀書房

主人公は月のコロニーの安全を守る警察官。しかし、過疎化が進み、事件らしい事件は起こらない。やがて住人は、彼を残してつぎつぎと地球に戻っていき、あたりは月の静寂に包まれ…。不思議で愛おしくて切ない SF マンガ。

2021.10./ 93p
978-4-7505-1707-0

¥1,650〔税込〕



読売新聞 2021/12/05



ペットが死について知っていること～伴侶動物との別れをめぐる心の科学～

ジェフリー・M・マッソン 著

草思社

ペットは死をどう認識しているのか。飼い主はペットとの別れにどう向き合えばいいのか。動物の心の問題をライフワークとしてきた著者が、動物と人間の交流の様々な事例を通して、死についての感情世界の核心に迫る。

2021.10./ 317p
978-4-7942-2540-5

¥1,980〔税込〕



読売新聞 2021/12/05



奴隷貿易をこえて～西アフリカ・インド綿布・世界経済～

小林 和夫 著

名古屋大学出版会

豊かな消費市場として発展を始めたアフリカが、18・19 世紀の世界経済の興隆に果たした役割とは。西アフリカの消費者とインド綿布の関係に着目し、その世界(経済)史上の意義を再考する。

2021.10./ 7p,315p
978-4-8158-1037-5

¥6,380〔税込〕



読売新聞 2021/12/05



人生の謎について

松尾スズキ 著

マガジンハウス

有史以来、そして、永遠の謎。人生の謎を丸裸にすべく挑んでいたら、おのれが丸裸になっていた…。松尾スズキのエッセイ集。『GINZA』連載を加筆・訂正。

読売新聞 2021/12/05

2021.9./ 189p
978-4-8387-3183-1

¥1,760〔税込〕



* 9 7 8 4 8 3 8 7 3 1 8 3 1 *



インターネットは言葉をどう変えたか〜デジタル時代の<言語>地図〜

グレッチェン・マカロック 著

フィルムアート社

顔文字、絵文字、スラング、ミーム…。インターネットによって、現代の言語は前例のないスピードで進化し続けている。インターネット言語が、インターネットの黎明期から今日に至るまでどう進化してきたのかを克明に描き出す。

読売新聞 2021/12/05

2021.9./ 397p
978-4-8459-2028-0

¥2,420〔税込〕



* 9 7 8 4 8 4 5 9 2 0 2 8 0 *



もう生まれたくない(講談社文庫 な 77-4)

長嶋 有 著

講談社

誰の上にも等しく死は襲いかかるが、日々はまた流れる。しかし春菜、美里、神子の3人の日常は、震災後、偶然もたらされた訃報によって、静かに変わっていくことに。死を見つめることで、生の大切さを描く。

読売新聞 2021/12/05、朝日新聞 2021/12/18

2021.11./ 257p
978-4-06-525056-3

¥715〔税込〕



* 9 7 8 4 0 6 5 2 5 0 5 6 3 *



経済社会の学び方〜健全な懐疑の目を養う〜(中公新書 2659)

猪木 武徳 著

中央公論新社

経済的な関係が深く染みこんだ社会とどうつき合うべきか。データの重要性和限界、理論の功罪、因果推論の効果と弱点、人間心理を扱う難しさなど、経済社会について学ぶためのヒントを紹介。『Web 中公新書』連載を加筆修正。

読売新聞 2021/12/05、毎日新聞 2021/12/11

2021.9./ 3p,257p
978-4-12-102659-0

¥946〔税込〕



* 9 7 8 4 1 2 1 0 2 6 5 9 0 *



ヒュパティア〜後期ローマ帝国の女性知識人〜

エドワード・J・ワッツ 著

白水社

4世紀後半?5世紀初頭のアレクサンドリアの優れた数学者・哲学者で、弟子から政界と宗教界に要人を輩出したヒュパティア。激動の時代の政治的対立に巻き込まれ、非業の死を遂げた女性の伝説と実像に迫る。

読売新聞 2021/12/05、毎日新聞 2021/12/18

2021.11./ 218p,58p
978-4-560-09794-6

¥3,960〔税込〕



* 9 7 8 4 5 6 0 0 9 7 9 4 6 *



1961 アメリカと見た夢

堀田 江理 著

岩波書店

ケネディ政権下、理想に燃えるアメリカをバスで横断した日本の青年たちがいた。彼らは何を見て、何を見なかったのか。その足跡をたどり、光と影の相克する帝国の実像、そして凋落の日米戦後史を見つめなおす。

読売新聞 2021/12/12

2021:11./
11p,277p,3p
978-4-00-061500-6

¥2,970〔税込〕



審判(岩波文庫)

カフカ 著

岩波書店

読売新聞 2021/12/12

1966:5./ 393p
978-4-00-324382-4

¥1,067〔税込〕



どん底～部落差別自作自演事件～(小学館文庫 た 30-1)

高山 文彦 著

小学館

5年にわたって被差別部落出身の男性に送りつけられたおぞましい差別ハガキ 44 通。逮捕された犯人は、涙を流して助けを求めた被害者本人だった。複雑に歪んだ現代の「部落差別」の構造と犯人の正体に迫る。

読売新聞 2021/12/12

2015:6./ 473p
978-4-09-406178-9

¥825〔税込〕



行人 改版(新潮文庫 な-1-12)

夏目 漱石 著

新潮社

学問だけを生きがいとしている一郎は、妻に理解されないばかりでなく、両親や親族からも敬遠されている。孤独に苦しみながらも、我を棄てることができない彼は、妻を愛しながらも、妻を信じることができず、弟・二郎に対する妻の愛情を疑い、弟に自分の妻とひと晩よそで泊まってくれとまで頼む……。『他の心』をつかめなくなった人間の寂寞とした姿を追究して『こころ』につながる作品。

読売新聞 2021/12/12

2011:1./ 501p
978-4-10-101012-0

¥649〔税込〕



常設展示室(新潮文庫 は-63-4)

原田 マハ 著

新潮社

パリ、NY、東京。世界各地の美術館で、人生の岐路に立つ人々が会う、運命を変える一枚。アート小説の第一人者が、美術館の片隅で繰り広げられる人間ドラマを描いた短篇集。

読売新聞 2021/12/12

2021:11./ 237p
978-4-10-125964-2

¥605〔税込〕





冷血(新潮文庫)

トルーマン・カポーティ 著

新潮社

読売新聞 2021/12/12

2006:6./ 623p
978-4-10-209506-5

¥1,100〔税込〕



神曲

川村 元気 著

新潮社

小学生の息子が通り魔事件で刺殺され、犯人は自殺。地獄に突き落とされた父、母、姉の前に不思議な合唱隊がやってくる。訝しむ父をよそに、母と娘は歌うことで次第に心を取り戻していくが…。『週刊新潮』連載を加筆し書籍化。

2021:11./ 294p
978-4-10-354281-0

¥1,705〔税込〕



読売新聞 2021/12/12



おんなのじかん

吉川 トリコ 著

新潮社

女性の身体にまつわるタブーよ、くたばれ! 不妊治療、流産、体型批判への反発、押しへの愛…。世間が用意した言葉からはみ出す感情を余さず綴ったエッセイ。『考える人』掲載に書下ろしを加えて単行本化。

2021:9./ 250p
978-4-10-472503-8

¥1,650〔税込〕



読売新聞 2021/12/12



独身偉人伝(新潮新書 925)

長山 靖生 著

新潮社

エリザベス 1 世、マザー・テレサ、ニュートン、カント、津田梅子、小津安二郎…。直接の子孫こそなくとも、偉大な事績を遺した「おひとりさま」19 人の言行と信念から、本当の意味の「自分らしさ」とは何かを考える。

2021:10./ 205p
978-4-10-610925-6

¥814〔税込〕



読売新聞 2021/12/12



本牧亭の灯は消えず～席亭・石井英子一代記～(中公文庫 い 137-1)

石井 英子 著

中央公論新社

日本最後の講談定席として惜しまれつつ平成 2 年に休場した東京・上野の本牧亭。その席亭を務めた著者が 42 年間の軌跡を振り返った「おかみさん」奮闘記。宝井琴調・神田伯山の対談も収録。

2021:10./ 263p
978-4-12-207122-3

¥924〔税込〕



読売新聞 2021/12/12



死者にこそふさわしいその場所

吉村 萬壺 著

文藝春秋

折口山に暮らすのは、セックスの回数を記録する愛人、徘徊癖のある妻を介護する老人、困った人の面倒を見たがる聖職者…。日常の輪郭がゆがんでとろける、“奇快”な人間植物園。『文藝春秋』掲載を単行本化。

読売新聞 2021/12/12

2021.8./ 218p
978-4-16-391418-3

¥1,870〔税込〕



「つなみ」の子どもたち～作文に書かれなかった物語～(文春文庫 も 30-1)

森 健 著

文藝春秋

平成最大の災害を、子どもたちは「書くこと」でどう乗り越えたのか。そこから何を学べるのか。7つの家族の喪失と再生の物語。「あれから八年間の日々に」を大幅増補。

読売新聞 2021/12/12

2019.3./ 287p
978-4-16-791250-5

¥770〔税込〕



医療民俗学序説～日本人は厄災とどう向き合ってきたか～

畑中 章宏 著

春秋社

21世紀の世界を覆う疫病も災害の一種である。民俗学的視点で疫病や天変地異といった「厄災」と日本人の関係を考察し、その諸相から現代的価値をあぶり出す、災いのフォークロア。

読売新聞 2021/12/12

2021.10./ 3p,234p
978-4-393-29136-8

¥2,200〔税込〕



1941 決意なき開戦～現代日本の起源～

堀田 江理 著

人文書院

誰が、どのような理由で、いわゆる「捨て鉢の戦争」、「勝ち目のない戦争」に日本を導いたのか。指導者たちが「避戦」と「開戦」の間を揺れながら太平洋戦争の開戦決定に至った過程を克明に辿る、緊迫の歴史ドキュメント。

読売新聞 2021/12/12

2016.6./ 414p
978-4-409-52063-5

¥3,850〔税込〕



レストランの誕生～パリと現代グルメ文化～(ちくま学芸文庫 ス 26-1)

レベッカ・L・スパング 著

筑摩書房

フランス革命期に突如パリの町に出現したレストランは、瞬く間に人気のスポットとなった。膨大な史料からレストラン誕生の瞬間を活写し、やがて社会を変える存在になるまでを詳細に描く。

読売新聞 2021/12/12

2021.10./ 584p
978-4-480-51076-1

¥2,090〔税込〕



鍵のかかった部屋(白水Uブックス)

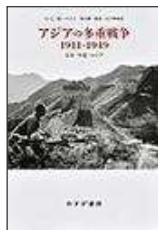
ポール・オースター、柴田元幸 著

白水社

読売新聞 2021/12/12

1993:10./ 232p
978-4-560-07098-7

¥1,320〔税込〕



アジアの多重戦争 1911-1949～日本・中国・ロシア～

S・C・M・ペイン 著

みすず書房

東アジアの戦後秩序はどのように形成されたのか。20世紀前半の東アジアの諸戦争の複雑な相互関係と全体像を、内戦・地域戦争・世界戦争が入れ子式に重なった「多重戦争」という概念を導入して解明。新たな歴史像を提示する。

読売新聞 2021/12/12

2021:11./
8p,402p,84p
978-4-622-09035-9

¥5,940〔税込〕



ドローンの哲学～遠隔テクノロジーと<無人化>する戦争～

グレゴワール・シャマユ、渡名喜 庸哲 著

明石書店

ドローンはどこから来たのか。それは技術的、戦術的にどのような系譜をもっているのか。さらにそこからどのような根本的な定義づけができるのか。軍用ドローンに対して、さまざまな観点から哲学的に考察する。

読売新聞 2021/12/12

2018:7./ 349p
978-4-7503-4692-2

¥2,640〔税込〕



人体実験の哲学～「卑しい体」がつくる医学、技術、権力の歴史～

グレゴワール・シャマユ、加納 由起子 著

明石書店

死刑宣告を受けた者、植民地住民、瀕死の病人…。近代医学の礎となった解剖と生体実験のために供給された「卑しい体」。18?19世紀フランスの、生きた人体の医学実験への供与システムを医学・政治思想史の両面から描く。

読売新聞 2021/12/12

2018:9./ 583p
978-4-7503-4728-8

¥3,960〔税込〕



人間狩り～狩猟権力の歴史と哲学～

グレゴワール・シャマユ 著

明石書店

古来より人は狩りの対象、つまりは捕獲、追放、殺害の対象だった。それは狩猟をモデルとした権力と暴力の歴史であり、補食関係の反転や解放をめぐる闘争の歴史でもある。「フーコーの再来」といわれた著者の異例の哲学。

読売新聞 2021/12/12

2021:9./ 269p
978-4-7503-5232-9

¥2,640〔税込〕





夕暮れに夜明けの歌を〜文学を探しにロシアに行く〜

奈倉有里 著

イースト・プレス

ロシアは今、どうなっているのか。高校卒業後、単身ロシアに渡り、ロシア国立ゴーリキー文学大学日本人初の卒業生となった著者が、テロ・貧富・宗教により分断が進み、状況が激変していくロシアのリアルを活写する。

読売新聞 2021/12/12

2021:10./ 269p
978-4-7816-2012-1

¥1,980〔税込〕



言えそうなのに言わないのはなぜか〜構文の制約と創造性〜(言語学翻訳叢書 第21巻)

アデル・E・ゴールドバーグ 著

ひつじ書房

explain me this のように、言えそうな表現を英語母語話者はなぜ言わないのか。創造的でありながら制約が多い言語を人はどのように学習するのかを、様々な構文の実例や実験研究をわかりやすく解説しながら探る。

読売新聞 2021/12/12

2021:9./ 13p,277p
978-4-8234-1079-6

¥4,180〔税込〕



カミサマホトケサマ国東半島

船尾 修 著

冬青社

奇祭ケベス、両子寺の大岩に絡みつく巨木、宇佐神宮…。神と人間が交歓する地、大分県国東半島に移住して 17 年の写真家・船尾修がとらえた、国東半島の奥深さと僥倖を伝える写真集。

読売新聞 2021/12/12

2017:9./ 131p
978-4-88773-182-0

¥4,070〔税込〕



ジブリの立体建造物展〜図録〜 復刻版

スタジオジブリ 編

トゥーヴァージンズ

2014?2018 年に開催された「ジブリの立体建造物展」の公式図録を完全復刻。ジブリ作品に登場する架空の建造物の背景画、美術ボード、美術設定など、約 380 点の図版を収録。折り込み式の表紙・裏表紙を開くと絵あり。

読売新聞 2021/12/12

2021:11./ 191p
978-4-908406-92-8

¥2,970〔税込〕



哲学の蠅

吉村 萬壺 著

創元社

人間存在の根源的な部分を抉り出し、現実への違和感を物語に託して世に放つ異端の小説家・吉村萬壺が、デビュー 20 年の節目に著す初の自伝的エッセイ。血肉としてきた哲学書を取り上げ、生きることそれ自体の意味を問う。

読売新聞 2021/12/12、毎日新聞 2021/12/18

2021:11./ 295p
978-4-422-93090-9

¥2,200〔税込〕



伝奇集(岩波文庫 赤 792-1)

ボルヘス, J. L. (ホルヘ・ルイス) 著
岩波書店

夢と現実のあわいに浮び上がる「迷宮」としての世界を描いて現代文学の最先端に位置するボルヘス(1899-1986)。われわれ人間の生とは、他者の夢見ている幻に過ぎないのではないかと疑う「円環の廃墟」、宇宙の隠喩である図書館の物語「バベルの図書館」など、東西古今の神話や哲学を題材として精緻に織りなされた魅惑の短篇集。

読売新聞 2021/12/19

1993:11./ 282p
978-4-00-327921-2

¥858〔税込〕



生を祝う

李琴峰 著
朝日新聞出版

出生前に胎児の意思を確認する「合意出生制度」が法制化された近未来の日本。彩華は、同性婚をしたパートナーとの間に人工妊娠手術で子を宿す。彼女が葛藤しながらくだす決断とは-。『小説トリッパー』掲載を単行本化。

読売新聞 2021/12/19

2021:12./ 181p
978-4-02-251803-3

¥1,760〔税込〕



黒牢城〜Arioka Citadel case〜

米澤 穂信 著
KADOKAWA

織田信長に叛旗を翻して有岡城に立て籠もった荒木村重は難事件に翻弄される。村重は、土牢の囚人にして織田方の軍師・黒田官兵衛に謎を解くよう求めた。事件の裏には何が潜むのか-。『カドブンノベル』他掲載に加筆修正。

読売新聞 2021/12/19

2021:6./ 445p
978-4-04-111393-6

¥1,760〔税込〕



氷菓(角川文庫)

米澤 穂信 著
角川書店

何事にも積極的に関わらないことをモットーとする奉太郎は、高校入学と同時に、姉の命令で古典部に入部させられる。さらに、そこで出会った好奇心少女・えるの一言で、彼女の伯父が関わったという三十三年前の事件の真相を推理することになり――。米澤穂信、清冽なデビュー作！

読売新聞 2021/12/19

2001:11./ 217p
978-4-04-427101-5

¥572〔税込〕



歪んだ波紋(講談社文庫 し 104-7)

塩田 武士 著
講談社

地方紙記者の沢村は、調査報道チームのデスクから一枚の写真を見せられる。同僚記者がひき逃げ事件の犯行車両とスクープしたものだ。沢村は取材へ急行するが-。「誤報」を通じて現代社会の虚と実と迫る。NHK ドラマの原作。

読売新聞 2021/12/19

2021:11./ 365p
978-4-06-526035-7

¥858〔税込〕





サラバ!<上>(小学館文庫 に 17-6)

西 加奈子 著
小学館

1977 年、歩は父の海外赴任先のイランで生まれた。イラン革命のあと、小学生になった彼は、父の新たな赴任先であるエジプトへ向かう。そこで、ヤコブというエジプト人の少年と出会い…。

読売新聞 2021/12/19

2017:10./ 331p
978-4-09-406442-1

¥792〔税込〕



サラバ!<中>(小学館文庫 に 17-7)

西 加奈子 著
小学館

両親の離婚、帰国。次第にバラバラになっていく母子 3 人。そんな中、阪神神戸大震災が起こり、歩は逃げるように東京へ。学生生活を経てライターになった彼は、ある取材を依頼される。そこには変わり果てた姉が絡んでいて…。

読売新聞 2021/12/19

2017:10./ 317p
978-4-09-406443-8

¥770〔税込〕



サラバ!<下>(小学館文庫 に 17-8)

西 加奈子 著
小学館

ビッグニュースを伴って海外放浪の旅から帰国した姉。美しくなった姉とは反対に、大人になった歩にはよくないことが起こり続ける。大きなダメージを受けた歩だったが、衝動に駆られ、ある行動を起こすことに…。

読売新聞 2021/12/19

2017:10./ 295p
978-4-09-406444-5

¥748〔税込〕



満願(新潮文庫 よ-33-4)

米澤 穂信 著
新潮社

人を殺め、静かに刑期を終えた妻の本当の動機とは-。表題作をはじめ、交番勤務の警官や在外ビジネスマンなどが遭遇する 6 つの奇妙な事件を描いたミステリ短編集。

読売新聞 2021/12/19

2017:8./ 422p
978-4-10-128784-3

¥781〔税込〕



国造〜大和政権と地方豪族〜(中公新書 2673)

篠川 賢 著
中央公論新社

古墳時代から飛鳥時代にかけて地方行政のトップにあった「国造」。稻荷山鉄剣銘に刻まれた「ヲワケ」の名や、筑紫の磐井など国造と関連する豪族や、記紀の記述を紹介しながら、国造制の成立から終焉までを描きだす。

読売新聞 2021/12/19

2021:11./ 3p,249p
978-4-12-102673-6

¥946〔税込〕





米澤屋書店

米澤 穂信 著

文藝春秋

ミステリ作家・米澤穂信を形作った本たちとは？米澤穂信が初めて小説を世に出してから 20 年の間に書いてきた本にまつわる文章をまとめる。有栖川有栖らとの対談も収録。

読売新聞 2021/12/19

2021.11./ 377p
978-4-16-391452-7

¥1,870〔税込〕



高倉健、その愛。(文春文庫 お 79-1)

小田 貴月 著

文藝春秋

孤高の映画俳優・高倉健が最後に愛した女性による手記。今も心に刻まれる言葉を振り返りながら、出逢い、人知れず 2 人で暮らした 17 年の日々、撮影秘話などを綴る。

読売新聞 2021/12/19

2021.11./ 364p
978-4-16-791785-2

¥924〔税込〕



なぜ中学受験するのか?(光文社新書 1166)

おおたとしまさ 著

光文社

中学受験はやり方次第で良薬にも毒にもなる。膨大な取材経験を背景に、歴史を遡り、海外にまで視野を広げ、さまざまなジャンルの参考文献に触れながら、中学受験をする意味とそこから得られるものの正体を総括する。

読売新聞 2021/12/19

2021.11./ 201p
978-4-334-04573-9

¥858〔税込〕



ボクもたまにはがんになる

三谷 幸喜／頼川 晋 著

幻冬舎

50 代の働き盛りに前立腺がんが発覚。大河ドラマの執筆も控えていた脚本家が、信頼できる主治医と出会い、全く不安を感じずに手術を受けた。術後 5 年、がんのイメージを変えるべく、マジメに明るく、縦横無尽に語り合う。

読売新聞 2021/12/19

2021.10./ 220p
978-4-344-03854-7

¥1,430〔税込〕



異言語間コミュニケーションの方法～媒介言語をめぐる議論と実際～

木村護郎クリストフ 著

大修館書店

異言語間コミュニケーションの諸手段を体系的・網羅的に考察。「共通語としての英語」やエスペラントも含め、多様な方略の特色と長所・短所を公平に考察するほか、ドイツ・ポーランド国境の諸方略の実際の使用実態を報告する。

読売新聞 2021/12/19

2021.8./ 8p,248p
978-4-469-21385-0

¥2,860〔税込〕





野呂邦暢古本屋写真集(ちくま文庫 の16-2)

岡崎 武志、古本屋ツアー・イン・ジャパン 編

野呂 邦暢 著

筑摩書房

夭折の芥川賞作家・野呂邦暢が密かに撮りためていた古本屋写真。遺族から託されたこの1970年代の貴重な写真をまとめるとともに、野呂邦暢の古本にまつわるエッセイ、編者対談を収録。

読売新聞 2021/12/19

2021.11./ 201p
978-4-480-43777-8

¥1,100〔税込〕



折れた竜骨<上>(創元推理文庫 Mよ1-7)

米澤 穂信 著

東京創元社

ソロン諸島の領主を父に持つアミーナは、放浪の旅を続ける騎士ファルク・フィッツジョンと従士の少年ニコラに出会う。ファルクはアミーナの父が、恐るべき魔術の使い手である暗殺騎士に命を狙われていると言い...

読売新聞 2021/12/19

2013.7./ 290p
978-4-488-45107-3

¥682〔税込〕



折れた竜骨<下>(創元推理文庫 Mよ1-8)

米澤 穂信 著

東京創元社

ソロンの領主は暗殺騎士の卑劣な魔術に斃れた。「走狗」候補の8人の容疑者、沈められた封印の鐘、密室から忽然と消えた不死の青年、呪われたデーン人の襲来...。魔術や呪いが跋扈する世界で、推理の力は犯人に辿り着けるのか？

読売新聞 2021/12/19

2013.7./ 264p
978-4-488-45108-0

¥682〔税込〕



ナチ・ドイツの終焉〜1944-45〜

イアン・カーショウ 著

白水社

敗戦必至の第三帝国はなぜ降伏せず、全面的に破壊されるまで戦い続けたのか。ナチズム研究の世界的権威イアン・カーショウが、体制断末魔の10カ月間、ヒトラーを頂点とする支配の構造と人々のメンタリティーを究明する。

読売新聞 2021/12/19

2021.11./ 543p,153p
図版 16p

978-4-560-09874-5

¥6,820〔税込〕



エッセンシャル仏教〜教理・歴史・多様化〜

デール・S・ライト 著

みすず書房

「ブッダ(釈迦)にはじまり2500年におよぶ歴史」「上座説と大乘、密教、禅などさまざまな教えと思想の展開」「マインドフルネス瞑想」...。現代人が知っておくべき仏教の核心を、一問一答形式で的確かつ簡潔に説く。

読売新聞 2021/12/19

2021.10./
12p,244p,9p
978-4-622-09036-6

¥4,180〔税込〕





極北の動物誌(ヤマケイ文庫)

ウィリアム・ブルーイット、岩本 正恵 著

山と溪谷社

カリブー、ムース、オオカミらが危ういバランスの上で織りなす極寒の地の生態系。アラスカの大地を核実験場開発計画から守り、故国アメリカを追われた著者が、極北の大自然と生命の営みを描いた古典。

読売新聞 2021/12/19

2021.12./ 252p
978-4-635-04928-3

¥990〔税込〕



水系都市京都〜水インフラと都市拡張〜

小野 芳朗 著

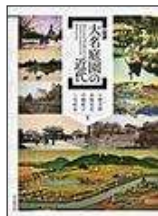
思文閣出版

近代京都の都市史を水量・水質・水利権に着目して水インフラという視点から論じるとともに、同一水系に属する伏見が一度は独立市制を志しながら京都市へ合併される？末を明らかにする。

読売新聞 2021/12/19

2015.9./ 11p,290p,4p
978-4-7842-1815-8

¥5,940〔税込〕



図説大名庭園の近代

小野芳朗／本康宏史／中嶋節子／三宅拓也 編

思文閣出版

観光客のために近世らしい演出をしてきた、近代の大名庭園。現代の大名庭園からは失われてしまった近代における変化の痕跡を、絵図・地図・古写真・絵葉書を中心に紹介。現在の庭園空間に近代が与えた影響を明らかにする。

読売新聞 2021/12/19

2021.10./ 18p,176p
978-4-7842-2001-4

¥6,600〔税込〕



生き物の死にざま(草思社文庫 い 5-2)

稲垣 栄洋 著

草思社

生き物たちは、晩年をどう生き、どのようにこの世を去るのか。子に身を捧ぐハサミムシ、海と陸の危険に満ちた一生をおくるウミガメ…。生命の最後の輝きを描く、哀切と感動の 29 話を収録。生き物イラストも掲載する。

読売新聞 2021/12/19

2021.12./ 248p
978-4-7942-2550-4

¥825〔税込〕



大学で何を学ぶか(幻冬舎文庫)

浅羽 通明 著

幻冬舎

読売新聞 2021/12/19

1999.4./ 242p
978-4-87728-705-4

¥544〔税込〕





「墓じまい」で心の荷を下ろす～「無縁墓」社会をどう生きるか～(詩想社新書 37)

島田裕巳 著

詩想社

墓じまいの実際とともに、日本人にとっての墓の歴史、先祖供養のあり方、死生観の変化などを検証。日本人が墓に執着する理由を説き明かし、「無縁墓」が増えていく時代の、新たな墓のあり方を考察する。

読売新聞 2021/12/19

2021.9./ 228p
978-4-908170-32-4

¥1,100〔税込〕



星新一の思想～予見・冷笑・賢慮のひと～(筑摩選書 0220)

浅羽 通明 著

筑摩書房

星新一とは何か。シニカルにきらめく千余のショートショート。高度に知的なエッセイ。戦後日本をはるか遠方から問い直し、近代の人間観を解体しつつした SF 小説群。SF 作家にして懐疑的思索者、星新一の全仕事を読み解く。

読売新聞 2021/12/19、朝日新聞 2021/12/25

2021.10./ 445p
978-4-480-01738-3

¥2,200〔税込〕



彼岸花が咲く島

李 琴峰 著

文藝春秋

記憶を失くした少女・宇実が流れ着いたのは、ノロと呼ばれる指導者が統治し、男女が違う言葉を学ぶ島だった。宇実が島の少女・游娜と少年・拓慈と、この島の深い歴史に導かれていき。『文学界』掲載を単行本化。

読売新聞 2021/12/19、日本経済新聞 2021/12/25

2021.6./ 188p
978-4-16-391390-2

¥1,925〔税込〕



素晴らしきお菓子缶の世界

中田ぶう 著

光文社

工業用品でありながら、美しさと緻密さで人の心を奪うお菓子の缶。レアなお菓子缶からアート缶、定番缶、憧れの外国のお菓子の缶まで、そのひとつひとつが持つ歴史とストーリーを深掘りした、「缶マニア」による偏愛カタログ。

読売新聞 2021/12/19、毎日新聞 2021/12/25

2021.10./ 143p
978-4-334-95275-4

¥1,760〔税込〕



評伝福田赳夫～戦後日本の繁栄と安定を求めて～

岩波書店

「平和大国」をめざした外交活動を展開、抜群の政策能力で経済危機を抑え込み、戦後社会を繁栄と安定へと導いた福田赳夫元総理。未公開の「福田メモ」や日記、外交文書などを活用し、その実像に迫った本格評伝。

読売新聞 2021/12/27

2021.6./ 22p,680p
978-4-00-024544-9

¥5,280〔税込〕





死者の力～津波被災地「霊的体験」の死生学～

高橋 原／堀江 宗正 著

岩波書店

私たちは、死者とどう生きてきたのか。東日本大震災の津波被災地で語られる「霊」体験。物語の力、宗教伝統や儀礼の役割、死者による生者のケア…。被災地住民と宗教者への聴き取りに基づき、「死者の力」に迫る。

読売新聞 2021/12/27

2021:9/
20p,277p,51p
978-4-00-061489-4

¥2,640〔税込〕



都鄙大乱～「源平合戦」の真実～

高橋 昌明 著

岩波書店

「平家物語」等に華々しく描かれる<源平合戦>の真の姿は、全国の田畠を荒廃させ、多数の死者を出した苛烈な<内乱>だった。物語の背後に消えた中下級武士や民衆の痕跡を同時代史料に求め、<内乱>の実像を克明に描出する。

読売新聞 2021/12/27

2021:9/
18p,322p,13p
978-4-00-061491-7

¥3,080〔税込〕



日本列島四万年のディープヒストリー～先史考古学からみた現代～(朝日選書 1024)

森先一貴 著

朝日新聞出版

大陸とは異なる文化的進化をとげた日本列島の先史時代。4万年にわたる人と自然との関係史を読み解き、環境問題など現代社会に生じている諸問題の解決のヒントを探る。

読売新聞 2021/12/27

2021:8./ 212p
978-4-02-263111-4

¥1,540〔税込〕



ぜんしゅの甞(あしおと)(角川ホラー文庫 さ 4-5)

澤村伊智 著

KADOKAWA

真琴と野崎の結婚式。琴子は祝いに駆け付けるが誤って真琴に怪我をさせてしまう。猛省する琴子は真琴に代わって、通行人を襲い建造物を破壊すると噂の「見えない通り魔」の調査に乗り出し…。表題作ほか全5編を収録。

読売新聞 2021/12/27

2021:1./ 303p
978-4-04-109956-8

¥704〔税込〕



倭国～古代国家への道～(講談社現代新書 2634)

古市 晃 著

講談社

ゆるやかな連合から「天皇専制」へ。倭と称された日本の列島社会における国家の形成過程を、5・6世紀を中心に新たな史料をもとに検討し、その特徴を明らかにする。

読売新聞 2021/12/27

2021:9./ 273p
978-4-06-525791-3

¥1,210〔税込〕





100万回死んだねこ〜覚え違いタイトル集〜

福井県立図書館 著

講談社

「衝撃の巨人」→「進撃の巨人」、「100万回死んだねこ」→「100万回生きたねこ」...。図書館の利用者がうっかり覚え違った本のタイトルから、司書が正しいタイトルを導き出した事例集。本の情報、司書の仕事も紹介。

読売新聞 2021/12/27

2021:10./ 189p
978-4-06-525892-7

¥1,320〔税込〕



寂聴辻説法(集英社文庫 せ 1-42)

瀬戸内 寂聴 著

集英社

10?60代の男女から寄せられたさまざまな相談事。どんな悩みも寂聴さんが親身になって考え、ときに厳しく回答する。ストレスの多い社会で暮らす日本人に贈る人生指南書。

読売新聞 2021/12/27

2013:6./ 273p
978-4-08-745084-2

¥715〔税込〕



マザリング〜現代の母なる場所〜

中村 佑子 著

集英社

子のいる人もいない人も、世代や性別を超え、他者の揺らぐ命に寄り添うことができたなら-。妊娠出産期の経験をすくいあげ、ケアをめぐる普遍的思考を紡ぐ。『すばる』連載を改題・加筆し書籍化。

読売新聞 2021/12/27

2020:12./ 309p
978-4-08-771734-1

¥2,420〔税込〕



プカプカ〜西岡恭蔵伝〜

中部 博 著

小学館

愛用のギター、ギブソン J-50 をかついで日本各地を歌って旅した西岡恭蔵。名曲「プカプカ」「サーカスにはピエロが」「アフリカの月」...。1999年、50歳の若さで世を去った不世出のシンガーソングライターの本格評価。

読売新聞 2021/12/27

2021:11./ 446p
978-4-09-388835-6

¥1,980〔税込〕



九十八歳。戦いやまず日は暮れず

佐藤 愛子 著

小学館

「戦いすんで日が暮れて」から52年。いまだ戦いやまず日は暮れず...。「算数バカの冒険」「小さなマスク」「釈然としない話」など、愛子節がたっぷりのエッセイを全21編収録。『女性セブン』連載を書籍化。

読売新聞 2021/12/27

2021:8./ 197p
978-4-09-396552-1

¥1,320〔税込〕





正欲

朝井 リョウ 著

新潮社

生き延びるために、手を組みませんか。いびつで孤独な魂が奇跡のように巡り遭い...。共感を呼ぶ傑作か？目を背けたくなる問題作か？朝井リョウの作家生活 10 周年を記念した書下ろし長篇小説。

読売新聞 2021/12/27

2021:3./ 379p
978-4-10-333063-9

¥1,870〔税込〕



* 9 7 8 4 1 0 3 3 0 6 3 9 *



ここに物語が

梨木 香歩 著

新潮社

どんな本をどんなふう読んできたか。何を、どんなふう考えながら生きてきたか。本は、その時々自分を観察する記録でもある。物語を発見する日常を辿るエッセイ集。新聞、雑誌掲載を書籍化。

読売新聞 2021/12/27

2021:10./ 279p
978-4-10-429913-3

¥1,760〔税込〕



* 9 7 8 4 1 0 4 2 9 9 1 3 3 *



文明の庫～近代日本比較文化史研究～<1> 静止から運動へ

芳賀 徹 著

中央公論新社

平賀源内、杉田玄白、司馬江漢...。徳川日本の知的戦士たちによって時代は静かに目覚め始める。比較文学・比較文化の泰斗、芳賀徹による近代日本比較文化史研究の集大成。「十八世紀後半における西欧世界と日本」などを収録。

読売新聞 2021/12/27

2021:2./ 426p
978-4-12-005390-0

¥3,850〔税込〕



* 9 7 8 4 1 2 0 0 5 3 9 0 0 *



つながり続けるこども食堂

湯浅 誠 著

中央公論新社

誰にでも開かれたこども食堂は、コロナ禍にも負けず全国に爆発的に増え続ける。人びとの生きづらさをやわらげるこども食堂の現在とその可能性を問う。『Yahoo!ニュース個人』連載をもとに書き下ろし等を加えて単行本化。

読売新聞 2021/12/27

2021:6./ 261p
978-4-12-005438-9

¥1,760〔税込〕



* 9 7 8 4 1 2 0 0 5 4 3 8 9 *



米中対立～アメリカの戦略転換と分断される世界～(中公新書 2650)

佐橋 亮 著

中央公論新社

貿易戦争、科学技術開発競争、香港・台湾問題...。米国の対中姿勢は関与・支援から対立へとなぜ一変したのか。国交回復から現在まで、50年にわたる米中関係をたどり、米国の戦略が根本的に転換された背景を解説する。

読売新聞 2021/12/27

2021:7./ 8p,308p
978-4-12-102650-7

¥1,034〔税込〕



* 9 7 8 4 1 2 1 0 2 6 5 0 7 *



国家の解体～ペレストロイカとソ連の最期～

塩川 伸明 著

東京大学出版会

1991年12月、ソ連の消滅。冷戦の中心であった特異な大国が、ペレストロイカと呼ばれる改革を経て、国家解体に行き着くこの重大事件を歴史的に解明する。15の共和国の独立にいたる紆余曲折の局面を詳細に分析し、複雑な相互関係がもたらした終焉の総合的な分析を試みる。現代史研究の第一人者による集大成。

読売新聞 2021/12/27

2021:3./ 2394p
978-4-13-036282-5

¥41,800〔税込〕



木曜殺人クラブ(HAYAKAWA POCKET MYSTERY BOOKS 1971)

リチャード・オスマン 著

早川書房

引退者用の高級施設で、未解決事件の調査を趣味とする老人が集まる<木曜殺人クラブ>。彼らは、施設の共同経営者のひとりが何者かに殺されたのをきっかけに、事件の真相究明に乗り出すが…。謎解きミステリ。

読売新聞 2021/12/27

2021:9./ 494p
978-4-15-001971-6

¥2,310〔税込〕



消失の惑星(ほし)

ジュリア・フィリップス 著

早川書房

8月のある午後、ロシア極東の街で幼い姉妹が行方不明になった。この事件が、ばらばらに生きる女たちを結びつけ…。カムチャッカの美しい情景、そこに生きる女たちの痛みと希望を克明に描く、新鋭米国作家による文芸作品。

読売新聞 2021/12/27

2021:2./ 397p
978-4-15-210003-0

¥2,420〔税込〕



わからないまま考える

山内 志朗 著

文藝春秋

哲学は人生の答えなんて教えてくれない。けれども先人たちの苦悩と葛藤と情念をばらばらで、こんなにも熱く脈打つ。セカイや人生のあらゆる一瞬を哲学的にひもとく、縦横無尽の思索の書。『文藝春秋』連載に書下ろしを加え書籍化。

読売新聞 2021/12/27

2021:10./ 253p
978-4-16-391455-8

¥1,980〔税込〕



父の詫び状(文春文庫)

向田 邦子 著

文芸春秋

宴会帰りの父の赤い顔、母に威張り散らす父の高声、朝の食卓で父が広げた新聞……。だれの胸の中にもある父のいる懐かしい家庭の息遣いをユーモアを交じえて見事に描き出し、“真打ち”と絶賛されたエッセイの最高傑作。また、生活人の昭和史としても評価が高い。航空機事故で急逝した著者の第一エッセイ集。解説・沢木耕太郎

読売新聞 2021/12/27

2006:2./ 300p
978-4-16-727721-5

¥693〔税込〕





世阿弥最後の花

藤沢 周 著

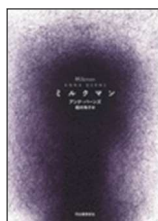
河出書房新社

永享6年、幽玄の美で室町の世を瞠目させた72歳の世阿弥元清が、咎なくして佐渡へと流された。彼の地でどう生き、何を見つけたのか。最晩年に到達した至高の舞いと、秘められた「まことの花」の謎と真実に迫る物語。

読売新聞 2021/12/27

2021:6./ 353p
978-4-309-02968-9

¥2,200〔税込〕



ミルクマン

アンナ・バーンズ 著

河出書房新社

政治、宗教、暴力で分断された70年代終わりの北アイルランド。ペルファストに住む名前の無い主人公が、18歳のときに「ミルクマン」なる男の目にとまり、つきまといられて心身ともに壊れそうになる約2か月間の物語。

読売新聞 2021/12/27

2020:11./ 391p
978-4-309-20813-8

¥3,740〔税込〕



レストラン「ドイツ亭」

アネッテ・ヘス 著

河出書房新社

フランクフルトでレストラン「ドイツ亭」を営む両親や家族とともに暮らす24歳のエーファは、ある偶然から、アウシュヴィッツ裁判でホロコーストの被害者の証言を通訳するよう依頼される。それは彼女の運命を大きく変え...

読売新聞 2021/12/27

2021:1./ 378p
978-4-309-20816-9

¥3,190〔税込〕



JR 上野駅公園口(河出文庫 ゆ 3-3)

柳 美里 著

河出書房新社

東京オリンピックの前年、男は出稼ぎのため、上野駅に降り立った。そして男は彷徨い続ける、生者と死者が共存するこの国を...。福島県に生まれた一人の男の生涯を通じて<日本>を描く。

読売新聞 2021/12/27

2017:2./ 181p
978-4-309-41508-6

¥660〔税込〕



ニュースの未来(光文社新書 1151)

石戸諭 著

光文社

テレビ、新聞、出版...。ニュースを巡る環境が悪化するなか、これらのメディアに未来はないのか? 気鋭のノンフィクションライターが、ニュースの本質とその未来に迫る、新時代のメディア論。

読売新聞 2021/12/27

2021:8./ 285p
978-4-334-04559-3

¥946〔税込〕





「女性天皇」の成立(幻冬舎新書 た-8-3)

高森明勅 著

幻冬舎

皇室典範改正は停滞、女性・女系天皇の議論すらせず、安定的な皇位継承の実現を放棄している政府。「女性天皇」を阻むものは何か。「皇位の安定継承」をめぐる主な論点について、平易明快に解説する。

読売新聞 2021/12/27

2021:9./ 228p
978-4-344-98633-6

¥946〔税込〕



「現成公按」を現成する〜『正法眼蔵』を開く鍵〜

奥村正博、宮川敬之 著

春秋社

道元禅師の「正法眼蔵」の中で最もよく知られた巻のひとつ「現成公按」。長年アメリカで坐禅の実践と指導を行ってきた曹洞宗僧侶が、道元禅師の教えの基本構造を解き明かす。英語による解説書の全訳。「現成公按」の英訳付き。

読売新聞 2021/12/27

2021:9./ 6p,318p,14p
978-4-393-15230-0

¥3,520〔税込〕



旅する少年

黒川創 著

春陽堂書店

消えゆく蒸気機関車を追いかける旅の中で、少年は「忘れえぬ人びと」「忘れえぬ風景」と出会った-。少年時代の旅を振り返る、著者初の回想記。著者撮影の写真、当時の切符類なども多数掲載。『Web 新小説』連載を単行本化。

読売新聞 2021/12/27

2021:10./ 16p,397p
978-4-394-19023-3

¥2,860〔税込〕



羊は安らかに草を食み

宇佐美まこと 著

祥伝社

認知症を患い、日ごと記憶が失われてゆく老女には、それでも消せない「秘密の絆」があった-。86年の人生を遡る最後の旅が、図らずも浮かび上がらせる壮絶な真実とは。

読売新聞 2021/12/27

2021:1./ 358p
978-4-396-63603-6

¥1,870〔税込〕



板目・柾目・木口がわかる木の図鑑〜日本の有用種 101〜

西川 栄明 著

創元社

日本の有用種である木 101 種の「板目材」「柾目材」「丸太を輪切りにした状態の木口面」「樹皮」等の写真を掲載。木の特徴や用途、木口面にみられる道管の大きさや並び方、材面に現れる空などを解説する。

読売新聞 2021/12/27

2021:9./ 224p
978-4-422-44032-3

¥3,740〔税込〕





きみの体は何者か〜なぜ思い通りにならないのか?〜(ちくま Q ブックス)

伊藤亜紗 著

筑摩書房

背の高さ、性別、老い、死…。体は思い通りにならない。でも体だって言い分はある。体の声に耳をすませば、思いがけない発見が待っている! きっと体が好きになる
14 歳からの身体論。おすすめの本も紹介する。

読売新聞 2021/12/27

2021:9./ 95p
978-4-480-25114-5

¥1,210〔税込〕



ギリシア哲学史

納富 信留 著

筑摩書房

古代ギリシアにおいて哲学はどのように始まったのか? そこで哲学者たちはどのような問いを問い、思索を展開したか? 最新の研究成果に目配りをし、これまでと大きく異なる枠組みと視点で、ギリシア哲学史の全体を俯瞰する。

読売新聞 2021/12/27

2021:3./ 698p,52p
978-4-480-84752-2

¥4,840〔税込〕



ネオ・ヒューマン〜究極の自由を得る未来〜

ピーター・スコット・モーガン 著

東洋経済新報社

運動ニューロン疾患でありながら、ただ「生き延びる」だけでなく「より良く」生きるために、人類初のフルサイボーグとなった著者。「人として生きること」の定義はどう変わるのか。AI と人類の関係を根本から問い直す。

読売新聞 2021/12/27

2021:6./ 10p,464p
978-4-492-04690-6

¥1,870〔税込〕



弟子・藤井聡太の学び方(PHP 文庫 す 24-1)

杉本 昌隆 著

P H P 研究所

将棋に強くなるために要する「思考力」「集中力」「忍耐力」「想像力」「平常心」は、ビジネスパーソンにも必要な学び。藤井聡太という才能、兄弟弟子との交流などから「真に学ぶこと」とは何かを明らかにする。

読売新聞 2021/12/27

2019:4./ 301p
978-4-569-76889-2

¥836〔税込〕



描かれた器〜絵画と文学のヨーロッパ陶磁〜

大平 雅巳 著

平凡社

ブリューゲルやフェルメールの絵、モンテーニュや森?外の日記…。ヨーロッパ陶磁の研究家が、有名な絵画や文学に登場するヨーロッパ陶磁の「器」を巡り、ときに愉快的、ときに奇怪で不思議なエピソードを綴る。

読売新聞 2021/12/27

2021:9./ 307p
978-4-582-24738-1

¥3,080〔税込〕





社会主義の理念～現代化の試み～(叢書・ユニベルシタス 1132)

アクセル・ホネット 著

法政大学出版局

ユートピアを提起し、明るい未来像も提供した社会主義は、かつての輝きを失ってしまった。承認論の第一人者が、社会主義を産業主義の枠組みから引き?がし、新たな社会理論として、現代の実際の現実に見合うよう再構成する。

読売新聞 2021/12/27

2021:8./ 8p,224p,6p
978-4-588-01132-0

¥3,520〔税込〕



感情史の始まり

ヤン・プランパー 著

みすず書房

感情とは、感情史とは何か。感情をめぐる社会構築主義と普遍主義を架橋し、グランドセオリーを描く試論。歴史学における感情の扱い方の手法と重要性を説く。用語解説や主要文献目録も収録。

読売新聞 2021/12/27

2020:11./
432p,144p,13p
978-4-622-08953-7

¥6,930〔税込〕



私たちはどこから来たのか 私たちは何者か 私たちはどこへ行くのか～三酔人文明究極問答～

木村 伊量 著

ミネルヴァ書房

偶然に出会った、万学の王・如月、進歩肯定派の脳神経外科医・サチコ、南方熊楠を崇拜する精霊の森の隠者・りゅう。再会を果たした3人と元政治記者が、ゴーギャンの画の答えを求めて繰り広げる知の饗宴の行方とは。

読売新聞 2021/12/27

2021:9./ 7p,511p,25p
978-4-623-09166-9

¥4,620〔税込〕



空鉄～諸国鉄道空撮記～

吉永 陽一 著

山と溪谷社

日本初の鉄道開業から150年後の新橋・品川・横浜。東と西の環状線比較、路面電車、ちょっと個性的な新幹線駅…。高度1000?7000フィートから高精細カメラで捉えた鉄道風景を収録した写真集。

読売新聞 2021/12/27

2021:10./ 141p
978-4-635-82341-8

¥2,200〔税込〕



戦争とバスタオル

安田 浩一／金井 真紀 著

亜紀書房

ジャングルの露天風呂、お寺の寸胴風呂、無人島の大浴場…。至福の時間が流れる癒しのむこう側には、かつて日本が遺した戦争の爪痕と過酷な歴史があった。戦争で加害と被害の交差点となった温泉や銭湯を訪ねた社会派ゆる紀行。

読売新聞 2021/12/27

2021:9./ 373p
978-4-7505-1710-0

¥1,870〔税込〕





歴史認識を問う

天日隆彦 著

晃洋書房

歴史は複雑であり、過去の出来事を単純な「善」「悪」で論じることはいできない。かつて新聞論説委員として歴史問題や論壇に携わってきた著者が、立場や思想など様々な要素でからみあう「歴史認識問題」の論争を解きほぐす。

読売新聞 2021/12/27

2021:9./ 7p,174p,11p
978-4-7710-3537-9

¥2,640〔税込〕



東京ヴァナキュラー〜モニュメントなき都市の歴史と記憶〜

ジョルダン・サンド 著

新曜社

日常にありふれたモノや生活空間<ヴァナキュラーなもの>が、その都市の歴史を語り出す。広場、地域雑誌、路上の<逸脱する財産>などから読み解く新たな都市論、反モニュメンタリズム実践の記録集。

読売新聞 2021/12/27

2021:9./ 8p,281p
978-4-7885-1738-7

¥3,960〔税込〕



頁をめくる音で息をする

藤井基二 著

本の雑誌社

古本を買い取り、古本を売り、なんとか生きている。学生時代に願ってやまなかった暮らしをそれなりに謳歌してしまっている-。尾道の路地で古本屋を営む店主による随筆集。『Web 本の雑誌』連載に書き下ろしを加えて書籍化。

読売新聞 2021/12/27

2021:11./ 203p
978-4-86011-464-0

¥1,540〔税込〕



葛原妙子歌集

川野里子 編

葛原妙子 著

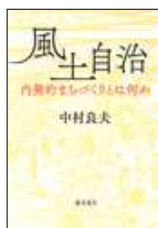
書肆侃侃房

わがうたにわれの紋章のいまだあらずたそがれのごとくかなしみきたる 川上未映子、穂村弘らが絶賛する戦後短歌の最重要歌人・葛原妙子。全歌集から代表歌 1500 首を厳選して収録する。伝説の歌人の人生が香り立つ一冊。

読売新聞 2021/12/27

2021:11./ 295p
978-4-86385-491-8

¥2,200〔税込〕



風土自治〜内発的まちづくりとは何か〜

中村 良夫 著

藤原書店

「風景学」の提唱者にして第一人者による、「まちづくり」の原論であり、実践への導きの書。風土に根差した民衆の文化から生み出された日本型の自治の特性を見出し、風土そのものを豊かに育む都市論を提唱する。

読売新聞 2021/12/27

2021:4./ 446p
978-4-86578-309-4

¥3,630〔税込〕





中村桂子コレクション～いのち愛づる生命誌～<7> 宮沢賢治で生命誌を読む

中村 桂子 著

藤原書店

生命科学をやさしく語り、美しく表現する思想を“生命誌研究館”として実現した中村桂子の多岐にわたる仕事を集成。7 は、宮沢賢治の童話の力を借りて、生命誌による自然の理解を深めた文章などを収録する。

読売新聞 2021/12/27

2021.8./ 279p
978-4-86578-322-3

¥2,420〔税込〕



ぼくが歌う場所～フォーク・ソングを追い求めて 50 年～

中川 五郎 著

平凡社

時にパンク・ロッカーへ、音楽評論家へ、小説家・翻訳家へと揺れながらもプロテスト・ソングの極北を目指した中川五郎が、日本のフォーク・ソングを追い求めた 50 年の記録。『雲遊天下』『街から』連載に加筆・再構成。

読売新聞 2021/12/27、東京・中日新聞 2021/12/12

2021.10./ 285p
978-4-582-83876-3

¥3,080〔税込〕



江戸の旅行の裏事情～大名・将軍・庶民それぞれのお楽しみ～(朝日新書 837)

安藤優一郎 著

朝日新聞出版

土産物好きのワケ、関所通過の裏技、男も宿場も喜ばず飯盛女、漬物石まで運んだ大名行列…。江戸時代中期、元禄年間からわき起こった観光ブームの知られざる実態と背景を詳述する。

日本経済新聞 2021/12/04

2021.10./ 244p
978-4-02-295142-7

¥891〔税込〕



風街とデラシネ～作詞家・松本隆の 50 年～

田家 秀樹 著

KADOKAWA

フォーク/ロックと歌謡曲の間に橋を架け、多彩で抒情的な作詞スタイルを確立した松本隆。細野晴臣、大瀧詠一、松田聖子らとのエピソードなど、本人と関係者の証言をもとに、日本語ポップス史をたどる。『熱風』連載に加筆。

日本経済新聞 2021/12/04

2021.10./ 525p
978-4-04-111884-9

¥2,860〔税込〕



ミチクサ先生<上>

伊集院 静 著

講談社

夏目家の「恥かきっ子」金之助は、父親にガラクタ扱いされながらも、学校では異例の飛び級で頭角をあらわす。東京大学予備門に合格した金之助は、正岡子規と出会い…。夏目漱石の青春を描く。『日本経済新聞』連載を書籍化。

日本経済新聞 2021/12/04

2021.11./ 301p
978-4-06-525722-7

¥1,870〔税込〕





ミチクサ先生<下>

伊集院 静 著

講談社

英語教師として赴任した熊本で鏡子を迎え、新婚生活を始めた金之助。英国留学の後、帝国大学の教師になり、高浜虚子の依頼で書いた「吾輩は猫である」が大評判となり…。夏目漱石の青春を描く。『日本経済新聞』連載を書籍化。

日本経済新聞 2021/12/04

2021:11./ 291p
978-4-06-525743-2

¥1,870〔税込〕



中世の秋<上> 改版(中公文庫 ホ 1-5)

ホイジンガ 著

中央公論新社

20世紀を代表する歴史家ホイジンガによる不朽の名著。フランスとネーデルラントにおける14、5世紀の人々の実証的調査から、中世人の意識と中世文化の全像を精細に描きあげる。

日本経済新聞 2021/12/04

2018:11./ 460p
978-4-12-206666-3

¥1,320〔税込〕



中世の秋<下> 改版(中公文庫 ホ 1-6)

ホイジンガ 著

中央公論新社

歴史家ホイジンガが、14、5世紀をルネサンスの告知とはみなさず、中世の終末とみて、中世人の意識と中世文化の全像を精細に描きあげた不朽の名著。史料紹介、ホイジンガ年譜、参考文献、索引も収録。

日本経済新聞 2021/12/04

2018:11./ 472p
978-4-12-206667-0

¥1,320〔税込〕



推しエコノミー～「仮想一等地」が変えるエンタメの未来～

中山 淳雄 著

日経BP社

「萌え」から「推し」へと変容した、キャラクターやタレントのファンの行動を基軸に、「鬼滅の刃」「ウマ娘」などを取り上げてアニメ・ゲームなどオタク経済圏の最新動向を解説し、マーケティングの新しい視点を提示する。

日本経済新聞 2021/12/04

2021:10./ 277p
978-4-296-00035-7

¥1,980〔税込〕



世界を読み解く科学本～科学者 25 人の 100 冊～(河出文庫 や 44-1)

山本 貴光 編

河出書房新社

人類はどこまで宇宙を理解したか？心はどこにあるのだろうか？未来の医療はどうなるだろうか？古典の名著から科学絵本まで、サイエンスに関わる各方面の専門家たちによる、刺激に満ちたブックレビュー。

日本経済新聞 2021/12/04

2021:11./ 285p
978-4-309-41852-0

¥1,034〔税込〕





世界標準の経営理論

入山 章栄 著

ダイヤモンド社

知の探索・知の進化の理論、取引費用理論、センスメイキング理論…。「ビジネスの真理に肉薄している可能性が高い」として生き残ってきた、世界の主要な経済理論 30 を体系化し、わかりやすく解説する。

日本経済新聞 2021/12/04

2019:12./ 3p,820p
978-4-478-10957-1

¥3,190〔税込〕



生命の網のなかの資本主義

ジェイソン・W・ムーア 著

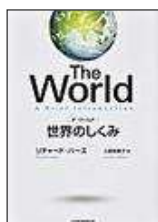
東洋経済新報社

人新世か、資本新世か。気鋭の米環境史学者ジェイソン・W.ムーアが、資本主義の発展史のみならず、ポスト・デカルト的な一元論にもとづいて資本主義のもとでの人間と自然の関係性などを明らかにする。斎藤幸平の解説付き。

日本経済新聞 2021/12/04

2021:10./
35p,592p,75p
978-4-492-31537-8

¥4,180〔税込〕



The World～世界のしくみ～

リチャード・ハース 著

日本経済新聞出版社

国々の成り立ち、地域の歴史、地政学、気候変動、医療、移民、核拡散、通貨・金融、経済開発、政治体制、戦争などのグローバルな問題と、今後の見通しについてわかりやすく解説。

日本経済新聞 2021/12/04

2021:10./ 457p
978-4-532-17712-6

¥2,420〔税込〕



アルバイトの誕生～学生と労働の社会史～(平凡社新書 988)

岩田 弘三 著

平凡社

「学生の労働」を意味することばとなった「アルバイト」は、学費を稼ぐ苦学生のためのものだった。やがて多くの学生が従事する時代を迎え…。戦後日本の社会・経済の変化を反映してきた学生たちの労働の実情を描き出す。

日本経済新聞 2021/12/04

2021:10./ 223p
978-4-582-85988-1

¥924〔税込〕



美しき闘争

タナハシ・コーツ、奥田 暁代 著

慶應義塾大学出版会

現代の黒人社会を代表する知識人と目される、タナハシ・コーツの自叙伝。ブラック・ナショナリストの父ポールと、自らの身を守って生きる息子タナハシ。アメリカ社会の容赦ない現実を力強く生き抜く父と息子を描く。

日本経済新聞 2021/12/04

2017:6./ 6p,235p
978-4-7664-2437-9

¥2,970〔税込〕





立ちどまらない少女たち～<少女マンガ>的想像力のゆくえ～

大串尚代 著

松柏社

アメリカ文学と日本の少女マンガの接点を探りつつ、「アメリカ」という場所が、日本の少女マンガでどのように表象されてきたかをたどる。また、個別の作品を取り上げ、少女マンガが文化受容の重要な媒体であることを考察する。

日本経済新聞 2021/12/04

2021:10./ 259p
978-4-7754-0282-5

¥2,750〔税込〕



マルクスとアソシエーション～マルクス再読の試み～ 増補新版

田畑 稔 著

新泉社

「各人の自由な展開が万人の自由な展開の条件であるような、ひとつの共同社会」＝「アソシエーション」。「アソシエーション」にマルクスが込めた解放論的構想を精緻に読み解き、彼の思想を未来社会へと再架橋する。

日本経済新聞 2021/12/04

2015:6./ 371p
978-4-7877-1500-5

¥2,970〔税込〕



Michi michi

junaida 著

福音館書店

背中を向け、足を踏ん張って立つ子ども。小さな一歩を踏み出したその行く手には、まっ白な道がどこまでものびて…。繊細なタッチで描かれた町のすみずみに目をこらし、自分だけの物語を見つけてみましょう。文字のない絵本。

日本経済新聞 2021/12/04

2018:11./ 46p
978-4-8340-8437-5

¥2,530〔税込〕



怪物園

junaida 著

福音館書店

怪物園は怪物たちをのせて、長い旅を続けています。ある夜、怪物園から抜け出した怪物たちは、街の通りを行進し始めたのです。外で遊べなくなり、すっかり退屈した子どもたちは、空想の旅に出かけることに…。

日本経済新聞 2021/12/04

2020:12./ 40p
978-4-8340-8586-0

¥1,980〔税込〕



街どろぼう

junaida 著

福音館書店

大きな山のとっぺんに巨人がひとりきりで住んでいました。さびしくなった巨人はある晩、ふもとの街におりていき、一軒の家をこっそり持ち帰ります。それから何度も家やお店を山のとっぺんに持ち帰りますが…。

日本経済新聞 2021/12/04

2021:7./ 31p
978-4-8340-8622-5

¥1,650〔税込〕





南風

宮内 勝典 著

石風社

辺境の噴火湾が小宇宙となって、ひとの世の死と生を映しだす。夕暮れ時になると、その男は裸形になって、港の町を時計回りに、駆け抜けた。40年ぶりに甦った著者幻の処女作。

日本経済新聞 2021/12/04

2019:8./ 188p
978-4-88344-288-1

¥1,650〔税込〕



人新世の「資本論」(集英社新書 1035)

斎藤 幸平 著

集英社

気候変動、コロナ禍…。人類の経済活動が地球を破壊する「人新世」=環境危機の時代。唯一の解決策は、潤沢な脱成長経済である。晩期マルクスの思想をヒントに、危機の解決策と豊かな未来社会への道筋を具体的に描きだす。

日本経済新聞 2021/12/04、朝日新聞 2021/12/25

2020:9./ 375p
978-4-08-721135-1

¥1,122〔税込〕



ウォーターダンサー(CREST BOOKS)

タナハシ・コーツ 著

新潮社

奴隷制という「戦争」から如何に生き延びるか。19世紀中盤のアメリカ・ヴァージニア州を舞台に、神秘的な力を持った黒人奴隷ハイラムの半生を描きだした長篇小説。

日本経済新聞 2021/12/04、朝日新聞 2021/12/25

2021:9./ 484p
978-4-10-590174-5

¥3,080〔税込〕



諜報・謀略の中国現代史～国家安全省の指導者にみる権力闘争～(朝日選書 1025)

柴田哲雄 著

朝日新聞出版

中国共産党の情報機関は、毛沢東から習近平に至るまで、最高指導者の政敵を追い落とすことを主たる活動の一つとしてきた。国家安全省の指導者たちの歩みから、中国現代史のもう一つの側面を描き出す。

日本経済新聞 2021/12/04、東京・中日新聞 2021/12/05

2021:10./ 307p,42p
978-4-02-263113-8

¥1,980〔税込〕



世界は「関係」でできている～美しくも過激な量子論～

カルロ・ロヴェッリ 著

NHK出版

世界は実体ではなく、関係に基づいて構成されている。科学界最大の発見であり、最大の謎とされる量子論。はたして量子論の核心とは何か、それはどんな新しい世界像をもたらしたのかを、研ぎ澄まされた言葉で明快に綴る。

日本経済新聞 2021/12/04、読売新聞 2021/12/05

2021:10./ 238p
978-4-14-081881-7

¥2,200〔税込〕





聖子〜新宿の文壇 BAR「風紋」の女主人〜

森 まゆみ 著

亜紀書房

アナキストの画家の娘として生まれ、太宰治の「メロイクリスマス」のモデルとなり、生き抜くためにバーを切り盛りする。文学者、思想家、映画人、どんな人をも受け入れる酒場は、戦後文学史を支えた…。林聖子の 93 年の記録。

日本経済新聞 2021/12/04、読売新聞 2021/12/27

2021:10./ 301p
978-4-7505-1709-4

¥1,980〔税込〕



水道、再び公営化!〜欧州・水の闘いから日本が学ぶこと〜(集英社新書 1013)

岸本 聡子 著

集英社

民営化から再公営化に転じつつある欧州の水道事業。日本の各自治体において民営化をストップさせるにはどうすればいいのか。日本人でありながら、欧州・民主主義の最前線に立つ著者が、日本再生のためのカギを明かす。

日本経済新聞 2021/12/11

2020:3./ 216p
978-4-08-721113-9

¥902〔税込〕



マジョリティ男性にとってまっとうさとは何か〜#MeToo に加われない男たち〜(集英社新書 1082)

杉田 俊介 著

集英社

#MeToo 運動など、女性の性別に伴う差別や不平等への意識が高まっている。他方、多くの男性は男性性や既得権、異性との向き合い方に戸惑っているのではないかな。そんな男性たちに応え、性差を超えた運動の可能性を提示。

日本経済新聞 2021/12/11

2021:9./ 293p
978-4-08-721182-5

¥1,012〔税込〕



臆病な詩人、街へ出る。(新潮文庫 ふ-60-1)

文月 悠光 著

新潮社

「早熟」「天才」と騒がれた女子高生も、今や臆病で夢見がちな冴えない女。ないない尽くしの私は、現実に向き合うことができるのか-。JK 詩人からの脱却を図った体当たりエッセイ集。谷川俊太郎との対談も収録。

日本経済新聞 2021/12/11

2021:11./ 331p
978-4-10-103361-7

¥737〔税込〕



パンツを脱いじゃう子どもたち〜発達と放課後の性〜(中公新書ラクレ 745)

坂爪 真吾 著

中央公論新社

放課後等デイサービスの現場で起こっている障害のある子どもの性の問題を分析し、その背景にある問題構造や社会課題を明らかにするとともに、障害のある子どもの性をどのように社会的に支援していくかを考える。

日本経済新聞 2021/12/11

2021:11./ 266p
978-4-12-150745-7

¥990〔税込〕





「家族する」男性たち～おとなの発達とジェンダー規範からの脱却～

大野 祥子 著

東京大学出版会

男は働いて家族を養わなければならないという男性ジェンダー規範からの脱却は可能か。育児期男性を対象とした実証的調査に基づき、規範的な性別役割分業モデルとは異なる新しい家族観を、生涯発達心理学の視点から提言する。

日本経済新聞 2021/12/11

2016:4./ 10p,242p
978-4-13-011143-0

¥4,180〔税込〕



約束してくれないか、父さん～希望、苦難、そして決意の日々～

ジョー・バイデン 著

早川書房

2015年、オバマ政権の副大統領バイデンは、私生活では脳腫瘍で余命宣告を受けた息子を抱え、公務では国内の人種問題や東欧の紛争の調停に迫られていた。「人間」バイデンの原点に迫る、家族の絆と再生の物語。

日本経済新聞 2021/12/11

2021:9./ 309p
978-4-15-210046-7

¥2,420〔税込〕



終点のあの子(文春文庫 ゆ 9-1)

柚木 麻子 著

文藝春秋

私立女子高校の入学式の日、内部進学希望の希代子は、高校から入学した奥沢朱里に声をかけられた。希代子は風変わりな朱里が気になって仕方がない。朱里と一緒に昼食を食べる仲になった矢先、希代子にある変化が…。全4篇を収録。

日本経済新聞 2021/12/11

2012:4./ 254p
978-4-16-783201-8

¥627〔税込〕



ナイルパーチの女子会(文春文庫 ゆ 9-3)

柚木 麻子 著

文藝春秋

商社で働く栄利子は、主婦ブロガーの翔子と意気投合。だが他人との距離感をうまくつかめない栄利子はやがて翔子に拒否され、悩みを相談した同僚の男と寝たことが彼の婚約者にばれてしまう。一方、翔子も実家に問題を抱え…。

日本経済新聞 2021/12/11

2018:2./ 403p
978-4-16-791012-9

¥825〔税込〕



私たちはいつまで危険な場所に住み続けるのか～自然災害が突き付けるニッポンの超難問～

日経アーキテクチュア 編

真鍋 政彦／荒川 尚美／木村 駿 著

日経 B P 社

被災地取材してきた専門記者が、現場の様子を綿密にリポート。気候変動の世紀を生き抜くための最新知識を提供しつつ、防災対策や街づくりの在り方を考察する。

『日経アーキテクチュア』ほか掲載に書き下ろしを加えて書籍化。

日本経済新聞 2021/12/11

2021:10./ 399p
978-4-296-11085-8

¥1,980〔税込〕





介護する息子たち～男性性の死角とケアのジェンダー分析～

平山 亮 著

勁草書房

息子としての男性とはどのような存在か、また、どのような存在として理解されているのか。親を介護する男性(息子介護者)の経験を通して考察する。「男性性」の謎を解き明かす、スリリングな探求の書。

日本経済新聞 2021/12/11

2017:2./ 5p,262p,10p
978-4-326-65405-5

¥2,750〔税込〕



毛～生命と進化の立役者～(光文社新書 1167)

稲葉一男 著

光文社

生き物や自然、そして人間の命を支える「細胞の毛」。研究のスペシャリストが、1ミリメートルの100万分の1スケールの繊細な毛の世界をわかりやすく解説する。

日本経済新聞 2021/12/11

2021:11./ 273p
978-4-334-04574-6

¥1,034〔税込〕



マリメッコの救世主～キルスティ・パーッカネンの物語～

ウッラーマイヤ・パーヴィライネン 著

祥伝社

1960年代半ば、前代未聞の「女だけの広告代理店」を立ち上げる。次々とヒット商品を生み出した我が子のような会社を売却したあと、倒産の憂き目にあったマリメッコを、私財を投じて買い取った…。女性経営者の成功物語。

日本経済新聞 2021/12/11

2021:11./ 452p
978-4-396-61768-4

¥2,420〔税込〕



ドライブイン探訪

橋本 倫史 著

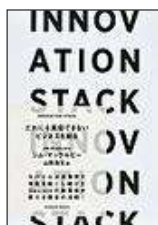
筑摩書房

道路沿いにひっそりと佇むドライブイン。クルマ社会、外食産業の激変を受けながら、ドライバーたちに食事を提供し続けた人々の人生と思いに迫る。『月刊ドライブイン』連載を加筆し書籍化。

日本経済新聞 2021/12/11

2019:1./ 315p
978-4-480-81850-8

¥1,870〔税込〕



INNOVATION STACK～だれにも真似できないビジネスを創る～

ジム・マッケルヴィー 著

東洋館出版社

ビジネスを成功させるためには、いくつものイノベーションの積み重ね-イノベーションスタックが鍵になる。モバイル決済業界で革命を起こし続けたスクエア創業者が、自社やイケアなどの例をあげながら、勝者の法則を語る。

日本経済新聞 2021/12/11

2021:10./ 318p
978-4-491-04548-1

¥2,090〔税込〕





FC バイエルの軌跡～ナチズムと戦ったサッカーの歴史～

ディートリヒ・シュルツェ＝マルメリング 著

白水社

ドイツを代表する強豪チーム FC バイエレン・ミュンヘンに関わったユダヤ人の歴史を概観し、ナチス時代におけるサッカー界の実情を描く。「ホロコーストの記憶」を刻印する現代史の一級資料。

日本経済新聞 2021/12/11

2021:11./ 484p,28p
978-4-560-09872-1

¥5,280〔税込〕



手塚治虫は「ジャングル大帝」にどんな思いを込めたのか～「ストーリーマンガ」の展開～

竹内 オサム 著

ミネルヴァ書房

ギャグマンガに代表される笑いを取るためのマンガではなく、喜怒哀楽のみならず悲劇性をストーリーマンガに吹き込んだ手塚治虫。戦後マンガ史の記念碑的名作「ジャングル大帝」を取り上げ、その成立過程を詳述する。

日本経済新聞 2021/12/11

2021:10./
11p,317p,9p
978-4-623-09273-4

¥3,850〔税込〕



郊外の記憶～文学とともに東京の縁を歩く～

鈴木 智之 著

青弓社

多和田葉子、三浦しをん、北村薫…。東京の郊外を舞台とする小説を読み解きながら、そのテキストを手がかりとして町を歩き、それぞれの地域に眠る戦争の残痕や失われた伝統、開発の記憶、人々の生活史をよみがえらせる試み。

日本経済新聞 2021/12/11

2021:9./ 289p
978-4-7872-3495-7

¥3,300〔税込〕



捨てられる男たち～劣化した「男社会」の裏で起きていること～(SB 新書 545)

奥田祥子 著

S B クリエイティブ

中年男性たちが職場が抱える課題に果敢に立ち向かいながらも、パワハラやセクハラなどの告発を受けるに至ったのはなぜか。長年男性の生きづらさ取材してきた著者が、劣化した「男社会」の実態に迫る。

日本経済新聞 2021/12/11

2021:6./ 230p
978-4-8156-0772-2

¥990〔税込〕



東京の古本屋

橋本倫史 著

本の雑誌社

開発、オリンピック、感染症-。揺れ動く東京で商いを続ける 10 軒の古本屋に 3 日間密着し、その仕事と暮らしを記録するルポルタージュ。WEB『本の雑誌』連載を書籍化。

日本経済新聞 2021/12/11

2021:10./ 343p 図版
8 枚

978-4-86011-462-6

¥2,200〔税込〕





その農地、私が買います〜高橋さん家の次女の乱〜

高橋久美子 著

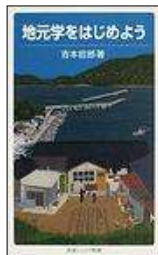
ミシマ社

実家の畑が太陽光パネルに!? 農地は負の遺産と考える父親世代や足並みを揃えることを最優先する町の雰囲気と闘いを挑んだ、高橋家の次女の乱を綴る。『みんなのミシママガジン』連載に加筆修正、再構成して単行本化。

日本経済新聞 2021/12/11

2021:10./ 230p
978-4-909394-58-3

¥1,870〔税込〕



地元学をはじめよう(岩波ジュニア新書)

吉本 哲郎 著

岩波書店

いきいきした地域をつくるための手法「地元学」は、いま全国各地で取り組まれ、若い人たちも活発に動いている。調べ方から活かし方まで、自ら行動して地域のことを深く知るのに役立つ一冊。

日本経済新聞 2021/12/18

2008:11./ 213p
978-4-00-500609-0

¥924〔税込〕



黄色いマンション黒い猫(新潮文庫 こ-72-1)

小泉 今日子 著

新潮社

私は原宿を歩きながら、過去や、未来や、自分の心の中を旅した。今だから書けること、今しか書けないことを綴った、小泉今日子のエッセイ集。「和田さんの今日子ちゃん」など2編を追加し文庫化。

日本経済新聞 2021/12/18

2021:12./ 199p
978-4-10-103421-8

¥572〔税込〕



日本企業の復活力〜コロナショックを超えて〜(文春新書 1296)

伊丹 敬之 著

文藝春秋

日本企業には明るい発展のシナリオがある! 「共同体への配慮」や、何事につけても「一配慮・一手間」の労を惜しまない日本人特有の意識を武器として、ポストコロナ時代に日本の産業が飛躍していく戦略を多面的に検証する。

日本経済新聞 2021/12/18

2021:1./ 286p
978-4-16-661296-3

¥1,045〔税込〕



小津安二郎晩秋の味

尾形 敏朗 著

河出書房新社

従軍体験と夭折の映画監督・山中貞雄。ふたつの影を背負って戦後を生きた小津安二郎。作品と発言、日記、証言からその晩年の実像に迫る。『キネマ旬報』連載を加筆し書籍化。

日本経済新聞 2021/12/18

2021:11./ 203p
978-4-309-29170-3

¥2,475〔税込〕





人生を変えた韓国ドラマ〜2016?2021〜(光文社新書 1169)

藤脇邦夫 著

光文社

Kコンテンツはなぜ世界を夢中にさせるのか。第1次ブームの「冬のソナタ」から、第4次ブーム「愛の不時着」「梨泰院クラス」まで、80作品を厳選し、韓国ドラマの魅力を徹底解説する。

日本経済新聞 2021/12/18

2021:11./ 468p
978-4-334-04576-0

¥1,320〔税込〕



スノーボードの誕生〜なぜひとは横向きに滑るのか〜(春陽堂ライブラリー 005)

田嶋リサ 著

春陽堂書店

世界中に愛好者を持つスノーボードは、どのように創生されたのか。横乗りスポーツであるサーフィン・スケートボードの歴史から関係を探り、普及と発展の軌跡をたどり、スノーボードと人間の関係を紐解く。

日本経済新聞 2021/12/18

2021:11./ 215p
978-4-394-19504-7

¥2,420〔税込〕



シリコンバレーは日本企業を求めている〜世界が羨む最強のパートナーシップ〜

米倉誠一郎 編

アニス・ウッザマン 著

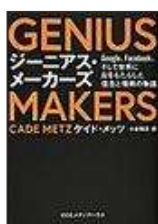
ダイヤモンド社

世界トップクラスのスタートアップやベンチャーと最強のパートナーシップを築くには。日本のCVCの弱点を克服した新たな仕組み「CVC4.0」を徹底解説。日本企業が再び世界で輝くための方法について再考する。

日本経済新聞 2021/12/18

2021:10./ 293p
978-4-478-11342-4

¥1,760〔税込〕



GENIUS MAKERS〜Google、Facebook、そして世界にAIをもたらした信念と情熱の物語〜

ケイド・メッツ 著

C C Cメディアハウス

AI技術者ジェフリー・ヒントンの従業員わずか3人の彼の会社を、Google、マイクロソフト、百度が大金をかけて奪い合う…。個性的な研究者と野心的な事業家たちを追ったノンフィクション。

日本経済新聞 2021/12/18

2021:10./ 455p
978-4-484-21110-7

¥2,200〔税込〕





おいしいニッポン～投資のプロが読む 2040 年のビジネス～

藤野 英人 著

日本経済新聞出版社

きわめてアナログな国で課題が山積しているからこそ、おいしいチャンスがゴロゴロ転がっているニッポン。DX、アフターコロナ、ダイバーシティ、地方創生など、ニッポンの成長産業と起業家の勃興を見通す。

日本経済新聞 2021/12/18

2021:11./ 222p
978-4-532-35907-2

¥1,650〔税込〕



黒人と白人の世界史～「人種」はいかにつくられてきたか～(世界人権問題叢書 104)

オレリア・ミシェル 著

明石書店

科学的には無効であっても、政治的、社会的現実として人種は存在する。大西洋奴隷貿易、奴隷制、植民地主義とともに、「人種」がどのように生み出され、正当化されていったのかを歴史的に解明する。

日本経済新聞 2021/12/18

2021:10./ 373p
978-4-7503-5230-5

¥2,970〔税込〕



あしたの火山学～地球のタイムスケールで考える～

神沼克伊 著

青土社

火山列島と呼ばれる日本。火山とどう対峙し、そしてその恵みをどのように受け取ればいいのか。火山とよりよく共生するための正しい知識を紹介する。日本列島の主な噴火をまとめた年表を付す。

日本経済新聞 2021/12/18

2021:10./ 270p
978-4-7917-7425-8

¥2,200〔税込〕



見捨てられる<いのち>を考える～京都 ALS 囑託殺人と人工呼吸器トリアージから～

安藤泰至／島蘭進／川口有美子／太谷いづみ／児玉真美 著

晶文社

ALS 患者の「死ぬ権利」、いのちの選別、家族に「殺させる」社会…。死生学や生命倫理に長く携わってきた著者たちが、安楽死・尊厳死、そして優生思想をめぐり、先走っていく世論に警鐘を鳴らす。セミナーをもとに単行本化。

日本経済新聞 2021/12/18

2021:10./ 260p
978-4-7949-7280-4

¥1,980〔税込〕



庭仕事の真髄～老い・病・トラウマ・孤独を癒す庭～

スー・スチュアート・スミス 著

築地書館

世界的ガーデン・デザイナーを夫に持つ精神科医がガーデニングにめざめ、自然と庭と人間の精神のつながりに気づいていき…。心理学・神経科学等の最新知見や様々な実例、著者の個人的体験をもとに、庭仕事の深層を描き出す。

日本経済新聞 2021/12/18

2021:11./ 368p,30p
978-4-8067-1626-6

¥3,520〔税込〕





ほんのこども

町屋 良平 著

講談社

元同級生あべくんからのメールをもとに、作家はあべくんの人生を小説にしようとする。両親が殺し殺されていたあべくんは、やさしく他の人体を壊す。やがてふたりの境界は曖昧になり…。『群像』掲載連作を大幅に加筆・改稿。

日本経済新聞 2021/12/18、毎日新聞 2021/12/25

2021:11./ 317p
978-4-06-526036-4

¥1,980〔税込〕



大岡信〜架橋する詩人〜(岩波新書 新赤版 1889)

大井 浩一 著

岩波書店

自在に「越境」を体現した、戦後日本を代表する詩人・大岡信。のびやかな感受性と偏りのない知性で展開した多彩な仕事を通し、戦後日本の文学、芸術、社会状況全般を俯瞰する。『毎日新聞』連載をもとに大幅に加筆・修正。

日本経済新聞 2021/12/25

2021:7./
10p,239p,18p
978-4-00-431889-7

¥968〔税込〕



ジョブ型雇用社会とは何か〜正社員体制の矛盾と転機〜(岩波新書 新赤版 1894)

濱口 桂一郎 著

岩波書店

間違いだらけのジョブ型論を一刀両断! ジョブ型とは何かを改めて説明した上で、ジョブ型とメンバーシップ型の対比を用いて、日本の雇用システムの隠された問題点に切り込む。

日本経済新聞 2021/12/25

2021:9./ 10p,293p
978-4-00-431894-1

¥1,122〔税込〕



カード師

中村文則 著

朝日新聞出版

占いを信じていない占い師、そして客を翻弄する違法カジノのディーラーでもある「僕」はある組織から依頼され、正体を隠して奇妙な資産家の顧問占い師になるが…。『朝日新聞』連載に加筆して単行本化。

日本経済新聞 2021/12/25

2021:5./ 457p
978-4-02-251758-6

¥1,980〔税込〕



植物忌

星野智幸 著

朝日新聞出版

アイビーを体に生やして着飾るうちに植物化した人間たちの幸福な未来を描いた「スキン・プランツ」、蜂起する植物たちと特殊作業員ネオ・ガーデナーが対峙する「始祖ダチュラ」…。書きおろしを含む全 11 編の植物小説集。

日本経済新聞 2021/12/25

2021:5./ 222p
978-4-02-251760-9

¥1,760〔税込〕





詩とは何か(講談社現代新書 2641)

吉増 剛造 著

講談社

現代における「詩」の本質とは何か。詩のほんとうの「しぐさ」とは。現代最高峰の詩人のひとり、吉増剛造が60年の詩業の果てに辿り着いた境地を、縦横無尽に語り尽くす。Q&Aも収録。

日本経済新聞 2021/12/25

2021:11./ 315p
978-4-06-518827-9

¥1,210〔税込〕



定額制夫のこづかい万歳 月額2万千円の金欠ライフ (1) (モーニング KC)

吉本 浩二 著

講談社

漫画家・吉本浩二(46歳)二児の父。はじめて明かすが、月の「こづかい」は2万円だ。生来の計画性のなさのおかげで金欠に悩む日々。世の人々は限られた「こづかい」と、どう向き合っているのか。「定額制」のプロ庶民から学ぶ“やりくり&お楽しみ術”。どこまでもセコく、どこまでも貪欲な大人たちの「こづかいドキュメント」開幕!

日本経済新聞 2021/12/25

2020:7./ 176p
978-4-06-519052-4

¥704〔税込〕



高瀬庄左衛門御留書

砂原 浩太郎 著

講談社

神山藩で、郡方を務める高瀬庄左衛門。50を前にして妻子を失い、息子の嫁とともに、寂寥と悔恨の中に生きていた。しかし、藩の政争の嵐が庄左衛門を襲い…。人生の苦渋と生きる喜びを丁寧に描く。

日本経済新聞 2021/12/25

2021:1./ 335p
978-4-06-519273-3

¥1,870〔税込〕



定額制夫のこづかい万歳 月額2万千円の金欠ライフ (2) (モーニング KC)

吉本 浩二 著

講談社

日本経済新聞 2021/12/25

2021:1./ 176p
978-4-06-521898-3

¥715〔税込〕



定額制夫のこづかい万歳 月額2万千円の金欠ライフ (3) (モーニング KC)

吉本 浩二 著

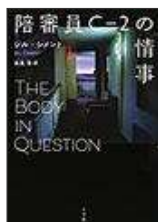
講談社

日本経済新聞 2021/12/25

2021:8./ 176p
978-4-06-524219-3

¥715〔税込〕





陪審員 C-2 の情事

ジル・シメント 著

小学館

フロリダ州で起きた乳児焼死事件で、陪審員として7名の男女が集められる。老齢の夫のいる52歳の写真家「C-2」は、裁判に忠誠を誓いながらも、年下の陪審員と“人生最後の火遊び”に溺れていき…。

日本経済新聞 2021/12/25

2021.10./ 286p
978-4-09-356725-1

¥2,310〔税込〕



ダンプ松本『ザ・ヒール』

平塚 雅人 著

小学館

1980年代、全日本女子プロレスで「極悪同盟」を率いたダンプ松本。当時の裏話や、本人が抱えてきた心の葛藤、父親との確執など、過酷な状況下での思いを、秘蔵写真も折り込みながら伝える。

日本経済新聞 2021/12/25

2021.2./ 183p
978-4-09-388793-9

¥1,540〔税込〕



アメリカひじき・火垂るの墓 改版(新潮文庫)

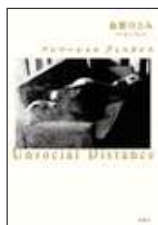
野坂 昭如 著

新潮社

日本経済新聞 2021/12/25

2003.7./ 272p
978-4-10-111203-9

¥605〔税込〕



アンソールシャルディスタンス

金原 ひとみ 著

新潮社

コロナ禍の世界を逃れ心中の旅に出る若い男女を描く表題作をはじめ、ウイルスを恐れるあまり孤独を深め暴走する「テクノブレイク」など、生きる苦しみに彩られた作品全5編を収録。『新潮』掲載を書籍化。

日本経済新聞 2021/12/25

2021.5./ 284p
978-4-10-304535-9

¥1,870〔税込〕



ジャックポット

筒井 康隆 著

新潮社

嗤え、歌え、踊れ、狂え。今日も世界中が「大当たり(ジャックポット)」！コロナ、戦争、文学、ジャズ、映画、芝居、青春、老い、嫌民主主義、そして息子の死-。かつてなく「筒井康隆の成り立ち方」を明かした私小説。

日本経済新聞 2021/12/25

2021.2./ 281p
978-4-10-314534-9

¥1,760〔税込〕





小島

小山田 浩子 著

新潮社

当たり前の風景、繰り返される日々の営み。それがたしかに世界をかすかに震わせる。
-。さまざまな場所で出会う何気ない出来事をつぶさに描いた中短篇の他、広島カープ
と広島の人々の特別な関わりをテーマにした奇談連作も収録。

日本経済新聞 2021/12/25

2021:4./ 345p
978-4-10-333644-0

¥2,090〔税込〕



小説 8050

林 真理子 著

新潮社

完璧な人生を送っているように見える大澤正樹には秘密がある。彼の長男・翔太は7
年間も自宅に引きこもっていた。娘が相手家族に結婚を反対されたことから正樹は息
子と向き合う決意をするが…。『週刊新潮』連載を加筆・改稿。

日本経済新聞 2021/12/25

2021:4./ 397p
978-4-10-363111-8

¥1,980〔税込〕



チャイニーズ・タイプライター〜漢字と技術の近代史〜

トーマス・S・マラニー 著

中央公論新社

中国語タイプライターの<不可能性>から繙く、近代中国の情報技術史。漢字について
の発想の転換や戦時中の日中関係、入力や予測変換といった技術の起源など、波瀾と
苦渋に満ちた中国語タイプライター開発の軌跡を辿る。

日本経済新聞 2021/12/25

2021:5./ 390p
978-4-12-005437-2

¥4,950〔税込〕



残像に口紅を(中公文庫)

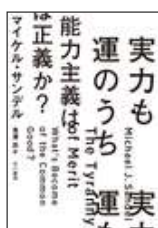
筒井 康隆 著

中央公論新社

日本経済新聞 2021/12/25

1995:4./ 337p
978-4-12-202287-4

¥817〔税込〕



実力も運のうち〜能力主義は正義か?〜

マイケル・サンデル 著

早川書房

努力と才能で、人は誰でも成功できる-能力主義の夢は残酷な自己責任論と表裏一体で
あり、勝者と敗者の間に未曾有の分断をもたらしている。この難題に解決策はあるの
か? ハーバード大学哲学教授が能力主義の闇を暴く。

日本経済新聞 2021/12/25

2021:4./ 376p
978-4-15-210016-0

¥2,420〔税込〕





まぜるな危険

高野 史緒 著

早川書房

「屍者の帝国」の世界観に「白痴」から「アルジャーノンに花束を」「ブレードランナー」までを投入した「小ねずみと童貞と復活した女」など、ロシア文学+SF のリミックス全 6 篇を収録する。

日本経済新聞 2021/12/25

2021:7./ 270p
978-4-15-210038-2

¥1,870〔税込〕



機龍警察白骨街道(ハヤカワ・ミステリワールド)

月村 了衛 著

早川書房

国際指名手配犯・君島の身柄引取役としてミャンマー入りした警視庁特捜部突入班の 3 人を襲う罠。沖津特捜部長は事案の背後にあるものを察知するが、それは特捜部を崩壊へと導くもので…。『ミステリマガジン』連載を加筆修正。

日本経済新聞 2021/12/25

2021:8./ 437p
978-4-15-210045-0

¥2,090〔税込〕



本心

平野 啓一郎 著

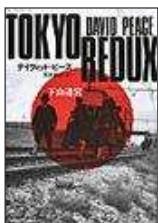
文藝春秋

ロスジェネ世代に生まれ、シングルマザーとして生きてきた母が、生涯隠し続けた事実とは-。急逝した母を、AI/VR 技術で再生させ、その死の真実を追う青年が経験する魂の遍歴。『北海道新聞』他連載を単行本化。

日本経済新聞 2021/12/25

2021:5./ 449p
978-4-16-391373-5

¥1,980〔税込〕



TOKYO REDUX～下山迷宮～([TOKYO YEAR ZERO] [3])

デイヴィッド・ピース 著

文藝春秋

1949 年 7 月、国鉄総裁が姿を消し、深夜、線路上の轢断死体で発見された。GHQ の少将から捜査を命じられたスウィーニーは、東京の暗部へと潜ってゆくが…。戦後最大の怪事件「下山事件」を描く。「東京 3 部作」完結編。

日本経済新聞 2021/12/25

2021:8./ 437p
978-4-16-391423-7

¥2,750〔税込〕



海坂藩に吹く風～藤沢周平を読む～

湯川 豊 著

文藝春秋

「?しぐれ」「三屋清左衛門残日録」「橋ものがたり」など、数々の名作を残した藤沢周平。いまなお多くの人々をひきつけるその魅力に迫る。藤沢周平年譜・作品リストも掲載。

日本経済新聞 2021/12/25

2021:12./ 286p
978-4-16-391478-7

¥1,980〔税込〕





二千億の果実

宮内 勝典 著

河出書房新社

見つけて、わたしを見つけて! いま、二千億の魂が、地球誕生の歴史とともに甦る…。人類誕生から現在、そして未来の「生命」を照射する「宮内文学」飛躍の作品集。『文藝』連載に「コロナの日々」を書き加えて書籍化。

日本経済新聞 2021/12/25

2021:10./ 289p
978-4-309-02993-1

¥2,475〔税込〕



大相撲と鉄道～きっぷも座席も行司が仕切る!?～(交通新聞社新書 150)

木村銀治郎 著

交通新聞社

年間を通じて日本全国をめぐる大相撲。列車の手配、車両割り、力士の座席指定は「行司」の仕事のひとつだ。幕内格行司にして鉄道ファンである著者が、大相撲と鉄道の関係性がうかがえる歴史や雑学などを披露する。

日本経済新聞 2021/12/25

2021:2./ 191p
978-4-330-00821-9

¥990〔税込〕



「探偵小説(ディテクティブ・ノベル)」の考古学～セレンディップの三人の王子たちからシャーロック・ホームズまで～

レジス・メサック 著

国書刊行会

「探偵小説」は、どこに起源を持ち、どのような紆余曲折を経て、ジャンルとしての結晶を見るに至ったのか。古代に始まる膨大な文献を博捜し、通常の推理小説論では見られない人名を援用しつつ、その成り立ちの歴史を描く。

日本経済新聞 2021/12/25

2021:7./ 767p,29p
978-4-336-07090-6

¥9,680〔税込〕



プロセスエコノミー～あなたの物語が価値になる～

尾原和啓 著

幻冬舎

良いモノだけでは稼げない時代には、完成品ではなく「制作過程」を売る! 人がプロセスに共感するメカニズムを解説し、プロセス自体を売る新しい稼ぎ方「プロセスエコノミー」の考え方、実践方法や実例などを紹介。

日本経済新聞 2021/12/25

2021:7./ 182p
978-4-344-03833-2

¥1,650〔税込〕



世界史は化学でできている～絶対に面白い化学入門～

左巻 健男 著

ダイヤモンド社

火の発見とエネルギー革命、歴史を変えたビール・ワイン・蒸留酒、金・銀への欲望、石油に浮かぶ文明、ドラッグの魔力、化学兵器と核兵器…。化学の成果がどのように歴史に影響を与えてきたのか、その光と闇を紹介する。

日本経済新聞 2021/12/25

2021:2./ 390p
978-4-478-11272-4

¥1,870〔税込〕





ナラティブ経済学～経済予測の全く新しい考え方～

ロバート・J・シラー 著

東洋経済新報社

謎めいたビットコイン物語は人々をどう踊らせた？ 新技術への恐怖からラッダイト運動は繰り返される？ 人々が紡ぎ出す「ナラティブ」(物語)が経済を動かす様子をビビットに描き出す。

日本経済新聞 2021/12/25

2021:7./
15p,410p,68p
978-4-492-31533-0

¥3,080〔税込〕



監視資本主義～人類の未来を賭けた闘い～

ショシャナ・ズボフ 著

東洋経済新報社

人間の経験を、密かな抽出・予測・販売からなる商業的慣行のための無料の原材料として要求する新たな経済秩序、監視資本主義。ハーバード・ビジネススクール名誉教授が、監視資本主義の起源や発展などについて解説する。

日本経済新聞 2021/12/25

2021:6./
12p,606p,148p
978-4-492-50331-7

¥6,160〔税込〕



子育て支援の経済学

山口慎太郎 著

日本評論社

人への投資は最良の成長戦略！ 多くの人が働き方や家族のあり方を模索するいま、未来への投資である「子育て支援のための政策」が重要。科学的根拠に基づき、効果的な政策を見極め、よりよい社会を創るための指針を提示する。

日本経済新聞 2021/12/25

2021:1./ 12p,260p
978-4-535-55903-5

¥1,870〔税込〕



問題の女～本荘幽蘭伝～

平山 亜佐子 著

平凡社

新聞記者、保険外交員、ホテルオーナー、女優、日本語教師、講師…。転職 50 回以上、50 人近い夫と 120 人以上の交際相手を持ち、アジア各地に神出鬼没。明治・大正・昭和を駆け抜けた女傑、本荘幽蘭の生涯を追う。

日本経済新聞 2021/12/25

2021:10./ 342p
978-4-582-83864-0

¥3,080〔税込〕



数学ゴールデン 1(ヤングアニマルコミックス)

藏丸 竜彦 著

白泉社

日本経済新聞 2021/12/25

2020:6./ 200p
978-4-592-16491-3

¥715〔税込〕



数学ゴールデン 2(ヤングアニマルコミックス)

藏丸 竜彦 著

白泉社

日本経済新聞 2021/12/25

2021:3./ 192p
978-4-592-16492-0

¥715〔税込〕



数学ゴールデン 3(ヤングアニマルコミックス)

藏丸 竜彦 著

白泉社

日本経済新聞 2021/12/25

2021:9./ 192p
978-4-592-16493-7

¥715〔税込〕



ブラック・チェンバー・ミュージック

阿部 和重 著

毎日新聞出版

1冊の映画雑誌を手に入れるという謎の「極秘任務」。40を前にキャリアを失った横口健二は、北朝鮮の女密使とともに、国家を揺るがす<禁断の事実>を追うことになり...。『毎日新聞』連載を加筆し単行本化。

日本経済新聞 2021/12/25

2021:6./ 478p
978-4-620-10854-4

¥2,200〔税込〕



資本主義だけ残った～世界を制するシステムの未来～

ブランコ・ミラノヴィッチ 著

みすず書房

21世紀のグローバル化した資本主義の特徴が、格差と腐敗の拡大にあることを喝破。また、その拡大のメカニズムを、米国に代表されるリベラル能力資本主義と、中国に代表される政治的資本主義の2つの体制ごとに解き明かす。

日本経済新聞 2021/12/25

2021:6./ 289p,49p
978-4-622-09003-8

¥3,960〔税込〕



ディエゴを探して

藤坂ガルシア千鶴 著

イースト・プレス

マラドーナは神様なんかじゃない。貧民街で生まれ、世界規模のスターとなった天才のサッカー選手ディエゴ・マラドーナ。彼の影響力を間近で感じ取った様々な人々の体験や証言を紹介しながら、「素顔のディエゴ」を紐解く。

日本経済新聞 2021/12/25

2021:7./ 221p
978-4-7816-1996-5

¥1,870〔税込〕



古い家

池井 昌樹 著

思潮社

つきかげもれて ひがくれて よみせのあかりともころろ いろとりどりのゆかたきた きんぎょみたいなこどもらで まちはすっかり みなそこになり(「いつかみた夢」より) 詩集。

日本経済新聞 2021/12/25

2021:3./ 143p
978-4-7837-3741-4

¥3,080〔税込〕





時の鍾り。

須永紀子 著

思潮社

レビヤタンに追われたきみが 神話をくぐって帰還する島 平坦に過ぎる丘と疎林があり 以前は友人もいたが 長い無音が新しい川を呼びこむと 簡易ボートで向こうへ渡ってしまった(「きみの島に川が流れ」より) 詩集。

日本経済新聞 2021/12/25

2021:5./ 93p
978-4-7837-3746-9

¥2,420〔税込〕



妖精 DIZZY 全2巻

野村喜和夫 著

思潮社

「眩暈原論」と「絵本「眩暈」のために」から成る、陶酔と狂気の言語スパイラル。野村喜和夫の詩を山本浩貴+hが編集・レイアウトした BOOK1 と、レイアウト前の詩を提示した BOOK2 で構成。背表紙なし糸綴じ。

日本経済新聞 2021/12/25

2021:5./ 416p
978-4-7837-3748-3

¥5,500〔税込〕



ソ連のおばさん

野崎有以 著

思潮社

女の亭主が膨らんだ餅が食いたいと朝からぼやいていた 女は知らん顔をしていたが 亭主が七輪を買いに行こうとしたところで 「七輪がなければU字溝を使え」とやっと 女が声を発した(「U字溝」より) 詩集。

日本経済新聞 2021/12/25

2021:7./ 99p
978-4-7837-3753-7

¥2,420〔税込〕



ふたりであるもの

吉田文憲 著

思潮社

薄く裂けた、薄く裂けて、絶句したままの顔を残し、見えない飛跡を描いている。この世にはいない人の文字の残光。離れながら、遠くから返信することだけがいまは可能だ。ときどき空が緑色に見えた(「前世」より) 詩集。

日本経済新聞 2021/12/25

2021:9./ 84p
978-4-7837-3754-4

¥2,640〔税込〕



やがて魔女の森になる

川口晴美 著

思潮社

斜めに吊られた紗幕のように細かな雪が降っている 朝の窓の外で町は静かに蒼白く はじめてなのに知っている気がするのは きのう山脈を越えてきたせい(「つつむ」より) 詩集。

日本経済新聞 2021/12/25

2021:10./ 107p
978-4-7837-3764-3

¥2,640〔税込〕





無限抱擁

倉橋健一 著

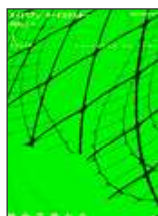
思潮社

宵闇、猪が出たとの報があつて 一目算、猟銃をもったものたち、山裾に駆けつけた (「わが敗走」より) 遠い過去とともに幾多の物語を辿り、なお迫りくる現在を根柢から見据える詩集。

日本経済新聞 2021/12/25

2021:9./ 123p
978-4-7837-3771-1

¥2,860〔税込〕



時の子供たち<上>(竹書房文庫 ち 1-1)

エイドリアン・チャイコフスキー 著

竹書房

地球の終わりを予測した人類は、惑星を改造し、地球の生物とその知能強化をうながすナノウイルスを送りこむ計画を進めるが…。惑星上で進化を遂げる蜘蛛たちの世界と、地球からやってきた人類最後の生存者たちの苦闘を描く。

日本経済新聞 2021/12/25

2021:7./ 382p
978-4-8019-2739-1

¥990〔税込〕



時の子供たち<下>(竹書房文庫 ち 1-2)

エイドリアン・チャイコフスキー 著

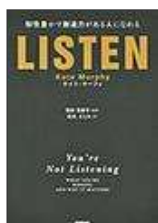
竹書房

蜘蛛たちは文明を紡ぎ、<理解>を伝達していく。一方の人類は、移住先を手に入れて、種の絶滅をまぬがれることができるのか？ 惑星上で進化を遂げる蜘蛛たちの世界と、地球からやってきた人類最後の生存者たちの苦闘を描く。

日本経済新聞 2021/12/25

2021:7./ 367p
978-4-8019-2740-7

¥990〔税込〕



LISTEN〜知性豊かで創造力がある人になれる〜

ケイト・マーフィ／篠田 真貴子 著

日経B P社

耳を傾けることは、話すことよりもずっと大切である。カウンセラーから人質交渉人まで、聞くことの重要性を明らかにし、聞く姿勢とスキルを身につけることが多種多様な課題の解決に役立つことなどを解説する。

日本経済新聞 2021/12/25

2021:8./ 503p
978-4-8222-8900-3

¥2,420〔税込〕



スニーカーの文化史〜いかにスニーカーはポップカルチャーのアイコンとなったか〜

ニコラス・スミス 著

フィルムアート社

競技場からストリートへ、ストリートから SNS へ。スニーカーはいかにして独自の地位を築き上げたのか？ ライフスタイルとカルチャーの変革を見つめ、スニーカーの誕生から現在までをたどる。

日本経済新聞 2021/12/25

2021:4./ 349p,32p
978-4-8459-2017-4

¥2,200〔税込〕





日々翻訳ざんげ〜エンタメ翻訳この四十年〜

田口俊樹 著

本の雑誌社

訳書 200 冊の名翻訳家が、自身の訳書を読み直し、翻訳人生最大の危機からチャンドラー新訳での大発見まで、40 年におよぶ翻訳稼業を振り返る。翻訳者ネットワーク『アメリア』連載を書籍化。

日本経済新聞 2021/12/25

2021:3./ 213p
978-4-86011-455-8

¥1,760〔税込〕



踊る自由

大崎 清夏 著

左右社

喋っているうちに 私は どうしてもその人に触りたくなったのですが それは法律で禁じられている行為だったので かわりにその人を じっと見ました(「触って」より) 中原中也受賞詩人による詩集。

日本経済新聞 2021/12/25

2021:6./ 109p
978-4-86528-030-2

¥1,980〔税込〕



「海の民」の日本神話〜古代ヤポネシア表通りをゆく〜(新潮選書)

三浦 佑之 著

新潮社

出雲、筑紫、若狭、能登、そして諏訪。「古事記」「日本書紀」等の文献や考古学・人類学なども含めた最新の研究から、ヤマトに制圧される以前の「ヤポネシア」の表通りに息づいていた人々の姿を追う。

毎日新聞 2021/12/04

2021:9./ 253p
978-4-10-603872-3

¥1,595〔税込〕



ヌマヌマ〜はまったら抜けだせない現代ロシア小説傑作選〜

ミハイル・シーシキン 著

河出書房新社

英雄ガガーリンの母が<地球の心臓部>に突き進む「空のかなたの坊や」、謎の作家が体験する鏡の中の世界を描く「トロヤの空の眺め」...。ユニークかつオリジナルな 12 編を収録した、現代ロシア小説のアンソロジー。

毎日新聞 2021/12/04

2021:10./ 339p
978-4-309-20840-4

¥3,520〔税込〕



漫画サピエンス全史<人類の誕生編>

ユヴァル・ノア・ハラリ／ダヴィッド・ヴァンデルムーレン／ダニエル・カザナヴ 著
河出書房新社

かつて地上には何種ものヒトがいた。アフリカの片隅でやっと生きていたホモ・サピエンスだけがなぜ繁栄したのか。人類をまったく新しいかたちで描き出したベストセラーをフルカラーで漫画化。

毎日新聞 2021/12/04

2020:11./ 245p
978-4-309-29301-1

¥2,090〔税込〕





漫画サピエンス全史<文明の正体編>

ユヴァル・ノア・ハラリ／ダヴィッド・ヴァンデルムーレン／ダニエル・カザナヴ 著
河出書房新社
農耕民になったホモ・サピエンスを待ち受けていたものは？ サピエンスが大規模な社会・国家・文明を築きあげることを可能にしたものとは？ 人類をまったく新しいかたちで描き出した「サピエンス全史」をフルカラーで漫画化。

毎日新聞 2021/12/04

2021:11./ 252p
978-4-309-29302-8

¥2,640〔税込〕



陸軍将校の教育社会史～立身出世と天皇制～<上>(ちくま学芸文庫 ヒ 19-1)

広田 照幸 著
筑摩書房

天皇制イデオロギーの「内面化」が、戦時体制を積極的に担う陸軍将校を生み出したというのは真実か。旧軍文書や文学評論、生徒の日記など膨大な史料を渉猟し、近代日本の天皇制と教育との関わりを浮かび上がらせる。

毎日新聞 2021/12/04

2021:7./ 350p
978-4-480-51053-2

¥1,320〔税込〕



陸軍将校の教育社会史～立身出世と天皇制～<下>(ちくま学芸文庫 ヒ 19-2)

広田 照幸 著
筑摩書房

天皇制イデオロギーの「内面化」が、戦時体制を積極的に担う陸軍将校を生み出したというのは真実か。旧軍文書や文学評論、生徒の日記など膨大な史料を渉猟し、近代日本の天皇制と教育との関わりを浮かび上がらせる。

毎日新聞 2021/12/04

2021:7./ 344p
978-4-480-51054-9

¥1,320〔税込〕



たぬき

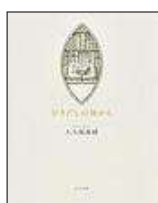
いせ ひでこ 著
平凡社

2011年の春、絵描きの家の庭にたぬきの一家があらわれた。産み、育てるといいうのちの絆の物語は、やがて別れと旅立ちへ。小さなからだ全身で<生きる>たぬき一家との日々を、スケッチでつづった絵本。

毎日新聞 2021/12/04

2021:11./ 43p
978-4-582-83880-0

¥1,760〔税込〕



ひきだしの奥から

大久保喬樹 著
ふらんす堂

幼少期の記憶や海外生活の体験を通して、人間に、文化に思いを巡らす。比較文学者・大久保喬樹が、74年の生涯の最後に綴った24篇のエッセイ。俳誌『香雨』連載を単行本化。

毎日新聞 2021/12/04

2021:10./ 153p
978-4-7814-1422-5

¥2,750〔税込〕





NFTの教科書～ビジネス・ブロックチェーン・法律・会計までデジタルデータが資産になる未来～

天羽健介／増田雅史 著

朝日新聞出版

NFT(ノン・ファンジブル・トークン)にまつわるビジネスや技術といった社会実態から、法律・会計・税務上の取り扱いなどの制度面まで、幅広くカバーしたテキスト。各ジャンルで活躍する執筆陣が最前線を解説する。

毎日新聞 2021/12/04、朝日新聞 2021/12/11

2021:10./ 319p
978-4-02-251797-5

¥1,980〔税込〕



天路

リービ 英雄 著

講談社

アメリカを捨て日本に移り住んだ作家は、故国に残した母の死を抱えて中国の最果て、チベット高原へと赴き…。異質な言葉との出会いを通して再生の旅を描く。『群像』他掲載を書籍化。

毎日新聞 2021/12/04、朝日新聞 2021/12/25、日本経済新聞 2021/12/25

2021:8./ 189p
978-4-06-524375-6

¥1,870〔税込〕



パラソルでパラシュート

一穂 ミチ 著

講談社

大阪の一流企業の受付で契約社員として働く 29 歳の美雨は、売れない芸人の亨と出会う。?みどころのない亨と仲間の芸人たちとの交流を通して、退屈だった美雨の人生は輝きはじめるが、やがてひとつの嵐が訪れ…。

毎日新聞 2021/12/05

2021:11./ 335p
978-4-06-526074-6

¥1,760〔税込〕



山川静夫の歌舞伎思い出ばなし

山川 静夫 著

岩波書店

振り返れば 70 年、わが人生に歌舞伎という畏友あり-。若き日の回想から、忘れじの名優、名舞台まで、様々な紙面で綴った「名調子」34 編を収めた米寿記念エッセイ集。加藤武、澤村田之助との 2013 年の鼎談も収録。

毎日新聞 2021/12/11

2021:8./ 9p,207p
978-4-00-025359-8

¥1,980〔税込〕



世界のおすもうさん

和田 静香／金井 真紀 著

岩波書店

女相撲の大横綱、沖縄角力の猛者、モンゴル相撲の闘う人類学者…。相撲を愛するスー女(相撲女子)2 人が出会った、世界の「おすもうさん」を紹介する。イラストも掲載。『web 岩波たねをまく』連載を元に加筆修正し書籍化。

毎日新聞 2021/12/11

2021:3./ 8p,277p
978-4-00-061457-3

¥1,980〔税込〕





葉山嘉樹短篇集(岩波文庫 緑 072-3)

道旗 泰三 著

岩波書店

長篇「海に生くる人々」で知られる葉山嘉樹。下級船員、工場底辺労働者ら最下層の人たちに共感の眼を向け、自らも貧しい農夫として戦争の混乱のなかに倒れた特異なプロレタリア文学者の短篇を精選して収録する。

毎日新聞 2021/12/11

2021:5./ 359p
978-4-00-310723-2

¥891〔税込〕



ヒトラー～虚像の独裁者～(岩波新書 新赤版 1895)

芝 健介 著

岩波書店

ヒトラーとは何者だったのか。生い立ちから、ホロコーストへと至る時代背景、死後の歴史修正主義や再生産される「ヒトラー現象」までを視野に入れながら、最新の史料を踏まえて「ヒトラー神話」を解き明かす。

毎日新聞 2021/12/11

2021:9./ 8p,362p,8p
978-4-00-431895-8

¥1,276〔税込〕



ドストエフスキーとの旅～遍歴する魂の記録～(岩波現代文庫 文芸 340)

亀山 郁夫 著

岩波書店

ドストエフスキー文学の翻訳・研究者として名高い著者の自伝的エッセイ。自らの人生のエピソードと葛藤に、ドストエフスキーの作品世界を重ね合わせつつ語る。『図書』連載と書き下ろしを増補。

毎日新聞 2021/12/11

2021:10./ 15p,362p
978-4-00-602340-9

¥1,452〔税込〕



馬場あき子全歌集

馬場 あき子 著

KADOKAWA

『早笛』から『あさげゆふげ』まで、現代短歌を代表する歌人・馬場あき子の全二十七歌集、約1万首を完全収録。半生をたどる口絵に加え、手帳メモも丹念にひろった詳細年譜や画期的な下句索引、上句索引を収載。

毎日新聞 2021/12/11

2021:9./ 1248p
978-4-04-884300-3

¥9,900〔税込〕



今こそマルクスを読み返す(講談社現代新書)

廣松 渉 著

講談社

毎日新聞 2021/12/11

1990:6./ 270p
978-4-06-149001-7

¥1,100〔税込〕





「顔」の進化～あなたの顔はどこからきたのか～(ブルーバックス B-2159)

馬場 悠男 著

講談社

顔とは何か。なぜそこに「部品」が集まっているのか。ヒトの顔はなぜ違うのか。どう進化したのか。ヒトの白眼はなぜ目立つのか。人類学の第一人者が、顔のあらゆる疑問を読み解く。顔に関する不思議が満載。

毎日新聞 2021/12/11

2021:1./ 270p
978-4-06-522231-7

¥1,100〔税込〕



<世界史>の哲学<近代篇 1> <主体>の誕生

大澤 真幸 著

講談社

貨幣経済の下に生きる現在のわれわれの価値観をなす概念はもとより、感受性すらも作られた近代。資本主義という宗教の二面性を、近代科学と小説という2つの言説から照らし出す。『群像』連載を単行本化。

毎日新聞 2021/12/11

2021:5./ 593p
978-4-06-522708-4

¥3,520〔税込〕



日本の構造～50の統計データで読む国のかたち～(講談社現代新書 2609)

橘木 俊昭 著

講談社

数字をおさえれば、今の日本の経済・社会が見えてくる! 労働時間の変化、役職者と一般社員の賃金格差、男女の賃金格差、通塾率と学力差など、50のトピックで、日本の「今」を総点検する。

毎日新聞 2021/12/11

2021:3./ 253p
978-4-06-523099-2

¥990〔税込〕



<世界史>の哲学<近代篇 2> 資本主義の父殺し

大澤 真幸 著

講談社

近代は、言わば自分自身を否定するのであり、その否定を含めてなお近代なのだ。19世紀の西洋で起きた精神の根本的変容を意味づけ、その普遍性を把握する試み。『群像』連載を単行本化。

毎日新聞 2021/12/11

2021:6./ 443p
978-4-06-523550-8

¥3,080〔税込〕



ハロー、ユーラシア～21世紀「中華」圏の政治思想～

福嶋 亮大 著

講談社

なぜ今、ユーラシアなのか? 帝国化する中国、香港の苦境、深刻な国家対立、ウイグル弾圧…。政治・思想・文学の地平から激動の根源を探る東アジア論。『群像』掲載に書き下ろしを加えて単行本化。

毎日新聞 2021/12/11

2021:9./ 286p
978-4-06-524523-1

¥2,200〔税込〕





医療崩壊真犯人は誰だ(講談社現代新書 2642)

鈴木 亘 著

講談社

いざという時に働かない一部の開業医、旧態依然の保健所、現場を把握できない厚生労働省、緊急事態宣言しか提言できない日本医師会…。世界有数の医療大国・日本が、医療提供体制の崩壊、危機的状況に陥った謎に迫る。

毎日新聞 2021/12/11

2021:11./ 187p
978-4-06-526417-1

¥946〔税込〕



ドストエフスキー黒い言葉(集英社新書 1075)

亀山 郁夫 著

集英社

激動の時代を生き、コレラ蔓延なども経験した作家ドストエフスキーの言葉には、現代へのヒントが含まれているのではないかと。予言のようにも響く作家の言葉を、第一人者が解説と共に紹介する。『すばる』連載を新書化。

毎日新聞 2021/12/11

2021:7./ 365p
978-4-08-721175-7

¥1,122〔税込〕



神よ憐れみたまえ

小池 真理子 著

新潮社

昭和38年11月、三井三池炭鉱の爆発と国鉄の事故が同じ日に発生した夜、12歳の黒沢百々子は何者かに両親を惨殺された。音楽家を目指す美貌の彼女の行く手に、事件が重く立ちはだかり…。生と死の意味を問う長篇小説。

毎日新聞 2021/12/11

2021:6./ 570p
978-4-10-603810-1

¥2,420〔税込〕



謎ときサリンジャー〜「自殺」したのは誰なのか〜(新潮選書)

竹内 康浩／朴 舜起 著

新潮社

サリンジャーの「バナナフィッシュにうってつけの日」は主人公シーモアの拳銃自殺というラストで知られる。だがそれは本当に「自殺」だったのか？ 気鋭の米文学者が弟子とともに天才作家の謎を綿密なロジックで解き明かす。

毎日新聞 2021/12/11

2021:8./ 269p
978-4-10-603870-9

¥1,650〔税込〕



「敦煌」と日本人〜シルクロードにたどる戦後の日中関係〜(中公選書 117)

榎本 泰子 著

中央公論新社

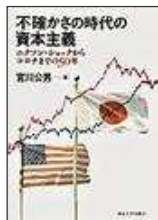
1980年代にわき起こった空前のシルクロードブーム。日本人が大陸に寄せたロマンとは何か。あの熱狂はなぜ生まれ、なぜ消えたのか。日本人の心の中の中国をあぶりだし、日中関係のこれからを考える。

毎日新聞 2021/12/11

2021:3./ 7p,324p
978-4-12-110117-4

¥2,090〔税込〕





不確かさの時代の資本主義～ニクソン・ショックからコロナまでの 50 年～

宮川 公男 著

東京大学出版会

中流階級の縮小、貧富の二極化など現代の資本主義が抱える課題は、50 年前からその萌芽があった。高度成長の時代からすでに迷走が始まっていた経済社会の軌跡を日米を比較しながら辿り、未来への道しるべを浮き上がらせる。

毎日新聞 2021/12/11

2021:8./ 15p,340p
978-4-13-040299-6

¥4,620〔税込〕



野生性と人類の論理～ポスト・ドメスティケーションを捉える 4 つの思考～

卯田 宗平 編

東京大学出版会

人類にとって動植物の野生性とは何か。養蜂や鷹狩り、鶺鴒飼、イヌ、タケ、水田植物など、動植物の家畜化や栽培化を 4 つに類型化し、人類にとっての動植物の野生性と自然と人間とのかかわりをあらたに問い直す。

毎日新聞 2021/12/11

2021:4./ 13p,369p,9p
978-4-13-056312-3

¥8,580〔税込〕



「木」から辿る人類史～ヒトの進化と繁栄の秘密に迫る～

ローランド・エノス、水谷 淳 著

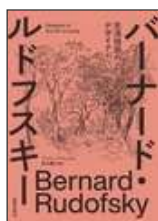
NHK 出版

「木」こそが歴史をつくった最も重要な鍵である。人類学・建築学・生体力学など幅広い研究をもとに、構造的な特殊性をもつ木と創意工夫に長けた人類の 700 万年にわたる関係を、斬新な視点で解き明かす。

毎日新聞 2021/12/11

2021:9./ 365p
978-4-14-081874-9

¥2,530〔税込〕



バーナード・ルドフスキー～生活技術のデザイナー～

多木陽介 編

アンドレア・ボッコ 著

鹿島出版会

圧倒的な蒐集力と論考で知られ、都市、住宅、衣服、食...生活のすべてを観察し、関連づけ、デザインしたルドフスキー。その生涯と、150 点以上の未発表図版を含むすべてのプロジェクトを紹介する。

毎日新聞 2021/12/11

2021:9./ 8p,313p,12p
978-4-306-04688-7

¥4,180〔税込〕



今日でなくてもいい～佐野洋子エッセイコレクション～

佐野 洋子 著

河出書房新社

いまもなお心に響く、佐野洋子のパワフルな死生観。幼少期の家族の死から、自身が余命宣告を受けたのちに書いたものまで、「生・老・死」をテーマにしたエッセイ 35 篇を収録。

毎日新聞 2021/12/11

2021:8./ 236p
978-4-309-02981-8

¥1,870〔税込〕





あなたに安全な人

木村 紅美 著

河出書房新社

教え子をいじめ自殺に追いやってしまったかもしれない元教師の女と、デモの警備中に参加者を事故で死なせてしまったかもしれない男。ふたりは「感染者第一号」となることを誰もが恐れる地で出会い…。『文藝』掲載を書籍化。

毎日新聞 2021/12/11

2021:10./ 149p
978-4-309-02997-9

¥1,837〔税込〕



シブヤで目覚めて

アンナ・ツィマ 著

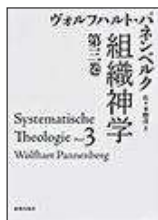
河出書房新社

プラハの大学で日本文学を専攻するヤナは、謎の作家・川下清丸の小説にのめり込んでいる。そのとき渋谷では「分裂」した17歳のヤナが、幽霊となって街に閉じ込められていた。鍵を握る謎の作家の秘密とは？

毎日新聞 2021/12/11

2021:4./ 377p
978-4-309-20826-8

¥2,970〔税込〕



組織神学<第3巻>

Wolfhart Pannenberg 著

新教出版社

組織神学とは何か。キリスト教の真理要求を保持しつつ、歴史的省察と体系的省察を結合する批判的・方法的意識を貫いた「組織神学」のテキスト。第3巻は終末論的賜物としての霊に関する教理のなかで教会論を展開する。

毎日新聞 2021/12/11

2021:5./
665p,201p,26p
978-4-400-31040-2

¥13,200〔税込〕



9条入門(「戦後再発見」双書 8)

加藤 典洋 著

創元社

戦後日本の象徴として、多くの日本人から熱烈に支持されてきた憲法9条。多くの異説や混乱が存在するなか、あらゆる政治的立場から離れ、憲法9条の「出生の秘密」から「昭和天皇」「日米安保」との相克までを描き出す。

毎日新聞 2021/12/11

2019:4./ 345p
978-4-422-30058-0

¥1,650〔税込〕



経済はロックに学べ!

アラン・B・クルーガー 著

ダイヤモンド社

なぜ、人々を熱狂させるビジネスは、音楽から生まれるのか。「ロックを支える人的資本」「バンドマンの契約理論」「中国で進む音楽革命」などをテーマに、「ビジネスとマネー」の本質を明かす。

毎日新聞 2021/12/11

2021:6./ 440p
978-4-478-10271-8

¥2,420〔税込〕





9条の戦後史(ちくま新書 1569)

加藤 典洋 著

筑摩書房

憲法9条をどのように使うことがいま必要なのか。日米安保条約締結から、冷戦終結後、対米従属を深め混迷にいたる現在まで。戦後史の深層を丹念に掘り起こし、ゼロからの問いを提起する。「9条入門」の続篇。

毎日新聞 2021/12/11

2021:5./ 555p
978-4-480-07402-7

¥1,430〔税込〕



無と意識の人類史～私たちはどこへ向かうのか～

広井 良典 著

東洋経済新報社

新型コロナウイルスの出現、大規模災害をもたらす気候の激変と温暖化、グローバル資本主義による格差と分断...。「定常化」に向かう今、人類が「無」をどう捉えてきたかを遡りつつ、世界観、生命観、死生観のあり方を問い直す。

毎日新聞 2021/12/11

2021:5./ 279p
978-4-492-22398-7

¥1,980〔税込〕



めいたんていサムくんとなぞの地図(だいすき絵童話)

那須 正幹 著

童心社

サムくんが拾った古い地図。そこに書かれていたのは、不思議な記号と漢字。サムくんたち、子どもたんてい団は、地図のなぞを解き明かすことができるのか!? 「めいたんていサムくん」シリーズ第3弾。

毎日新聞 2021/12/11

2021:10./ 86p
978-4-494-02073-7

¥1,210〔税込〕



アメリカの<周縁>をあるく～旅する人類学～

中村 寛／松尾 眞 著

平凡社

広大なアメリカ大陸の辺境の町で、文化人類学者と映像作家が行き当たりばったりの旅をしながら住民と語らうフィールドワークの記録。分断と社会的痛苦の痕跡を見てとったアメリカの現代社会を抉る。

毎日新聞 2021/12/11

2021:7./ 358p
978-4-582-83873-2

¥2,970〔税込〕



鉄幹晶子全集<1> 東西南北 天地玄黄 鉄幹子

与謝野 寛、与謝野 晶子 著

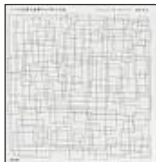
勉誠出版

毎日新聞 2021/12/11

2001:12./ 408p
978-4-585-01054-8

¥6,600〔税込〕





1つの定理を証明する99の方法

フィリップ・オーディング 著

森北出版

ある何の変哲もない定理を、中世ヨーロッパ時代の証明、現代数学を駆使した証明、言葉を使わない証明、音楽による証明、映画のシナリオ風の証明、手話による証明など、99通りもの方法で「証明」する。

毎日新聞 2021/12/11

2021.2./ 9p,274p
978-4-627-06261-0

¥3,520〔税込〕



教養としてのグローバル経済～新しい時代を生き抜く力を培うために～

齊藤 誠 著

有斐閣

商業高校向けの社会科科目「グローバル経済」の教科書。豊かな未来のためにグローバル化と向き合うことの意義を、図表や写真、イラストを豊富に交えながら、やさしく丁寧に解説する。

毎日新聞 2021/12/11

2021.5./ 10p,261p
978-4-641-16582-3

¥2,200〔税込〕



お人形の家 寿

いがらし みきお 著

太田出版

毎日新聞 2021/12/11

2021.8./ 287p
978-4-7783-2310-3

¥1,760〔税込〕



仲人の近代～見合い結婚の歴史社会学～(青弓社ライブラリー 104)

阪井 裕一郎 著

青弓社

「結婚」や「家」と密接な関わりがあった仲人は、どのように広まり定着して、なぜ衰退に至ったのか。明治期から戦後に至る仲人の役割や見合い結婚のありようをたどり、近代日本の家族や結婚をめぐる価値観の変容を照射する。

毎日新聞 2021/12/11

2021.10./ 205p
978-4-7872-3499-5

¥1,760〔税込〕



土偶を読む～130年間解かれなかった縄文神話の謎～

竹倉 史人 著

晶文社

130年以上も研究されながら、いまだ詳細不明の縄文土偶。土偶の形態を具体的に分析するイコノロジー研究の手法と、環境文化史・民族植物学を含む最新の考古研究の実証データを用いて、土偶の「真実」を明らかにする。

毎日新聞 2021/12/11

2021.4./ 347p 図版9
枚

978-4-7949-7261-3

¥1,870〔税込〕





メディアの未来〜歴史を学ぶことで、新聞、雑誌、ラジオ、テレビ、SNSの将来は導き出せる〜

ジャック・アタリ、林昌宏 著
プレジデント社

2050年、2100年、ジャーナリストという職業はこれまで以上に重要になる。欧州最高峰の知性による、メディアに関する文明論と未来論。数千年の歴史から「メディアの法則」を導き出し、数十年後の未来を予測する。

毎日新聞 2021/12/11

2021.9./ 544p, 38p
978-4-8334-2429-5

¥3,630〔税込〕



ニュー・アソシエーションист宣言

柄谷 行人 著
作品社

「資本=ネーション=国家」への対抗運動は、3・11を経て、コロナ禍に直面し、より現実的なものとなってきた。自由かつ平等な社会を実現するためのアソシエーション運動を検証し、その可能性をあらためて示す。

毎日新聞 2021/12/11

2021.1./ 293p
978-4-86182-835-5

¥2,640〔税込〕



二人旅 上海からパリへ〜金子光晴・森三千代の海外体験と異郷文学〜(関西学院大学研究叢書 第224編)

趙?怡 著
関西学院大学出版会

詩人金子光晴と妻の森三千代。ふたりのDNAの二重らせんのような生き方と交流、そこから紡ぎだされた作品群。遺族や関係者の協力により未発表作品と新事実を発掘し、数奇な作家夫婦の関係を考察する。

毎日新聞 2021/12/11

2021.4./ 16p, 574p
978-4-86283-319-8

¥6,380〔税込〕



芭蕉の風景<上>(澤俳句叢書 第30篇)

小澤實 著
ウェッジ

故郷・伊賀上野から出た芭蕉は江戸で自らの俳諧を確立。そして「野ざらし紀行」の旅へ…。芭蕉の吟行をなぞり、その句について考える。俳人・小澤實のライフワーク。自作句も収録。『ひととき』等連載を加筆・修正。

毎日新聞 2021/12/11

2021.10./ 309p
978-4-86310-242-2

¥3,300〔税込〕



芭蕉の風景<下>(澤俳句叢書 第30篇)

小澤實 著
ウェッジ

いよいよ円熟する芭蕉の俳諧。旅もクライマックスの「おくのほそ道」から終焉の地・大阪へ…。芭蕉の吟行をなぞり、その句について考える。俳人・小澤實のライフワーク。自作句も収録。『ひととき』等連載を加筆・修正。

毎日新聞 2021/12/11

2021.10./ 370p, 58p, 7p
978-4-86310-243-9

¥3,300〔税込〕





金子兜太～俳句を生きた表現者～

井口 時男 著

藤原書店

過酷な戦場体験を原点として、前衛俳句の追求から、「衆」の世界へ、そして晩年にはアニミズムに軸足を据えた金子兜太。戦後精神史に屹立する比類なき「存在者」の根源に迫る。『兜太 TOTA』連載を改題、加筆し単行本化。

毎日新聞 2021/12/11

2021:1./ 237p
978-4-86578-298-1

¥2,420〔税込〕



政治家の責任～政治・官僚・メディアを考える～

老川 祥一 著

藤原書店

1990年代以来の「政治改革」により、政治のあり方が大きく変貌した中で、劣化・変質してしまったものは何か？政治家や官僚たちの戦後政治史の中での言動の軌跡を辿りながら、政治の世界の変容ぶりとその問題点を考察。

毎日新聞 2021/12/11

2021:3./ 281p
978-4-86578-304-9

¥2,860〔税込〕



演劇で<世界>を変える～鈴木忠志論～

菅孝行 著

航思社

「世界水準」に達している日本の演出家は、鈴木忠志だけだ。同世代の評論家・劇作家として併走してきた著者が、鈴木忠志のこれまでの活動と独創的な作品を時代背景とともに精緻に分析。『テアトロ』連載に加筆して単行本化。

毎日新聞 2021/12/11

2021:9./ 300p
978-4-906738-45-8

¥2,970〔税込〕



彼は早稲田で死んだ～大学構内リンチ殺人事件の永遠～

樋田 毅 著

文藝春秋

1972年、早稲田大学構内で1人の学生が虐殺された。その事件をきっかけに蜂起した一般学生の「自由」獲得への闘い。その時、キャンパスでは何が起こっていたのか。渦中で理不尽な暴力と対峙し続けた著者による渾身のルポ。

毎日新聞 2021/12/11、産経新聞 2021/12/12

2021:11./ 261p
978-4-16-391445-9

¥1,980〔税込〕



旅する練習

乗代 雄介 著

講談社

中学入学を前にしたサッカー少女と、小説家の叔父。ふたりは、コロナ禍で予定がなくなった2020年の春休み、利根川沿いに徒歩で千葉の我孫子から鹿島アントラーズの本拠地を目指す旅に出て…。『群像』掲載を単行本化。

毎日新聞 2021/12/11、朝日新聞 2021/12/25

2021:1./ 170p
978-4-06-522163-1

¥1,705〔税込〕





まともな言葉を生きる

荒井 裕樹 著

柏書房

言葉が「降り積もる」とすれば、どんな言葉が降り積もった社会を次の世代に引き継ぎたいですか。「言葉の壊れ」を考え、抗い、息苦しさをそっと弛めるエッセイ集。『WEB asta*』連載に書き下ろしを加えて書籍化。

2021.5./ 254p
978-4-7601-5349-7

¥1,980〔税込〕



毎日新聞 2021/12/11、読売新聞 2021/12/27



姉の島

村田喜代子 著

朝日新聞出版

85歳超えの退役海女たちは、後進の若者のために潜った海の家図作成に余念がない。天皇海山列、春の七草海山、海底につきささる潜水艦…。老女と潜水艦の異色冒険小説。『小説トリッパー』連載を改題、加筆修正し単行本化。

2021.6./ 242p
978-4-02-251762-3

¥1,980〔税込〕



毎日新聞 2021/12/11、日本経済新聞 2021/12/25



ジュリアン・バトラーの真実の生涯

川本 直 著

河出書房新社

アメリカを代表する作家、ジュリアン・バトラーの生涯は長きにわたって夥しい伝説的なゴシップの霧に包まれていた。しかし、2017年、覆面作家による回想録が刊行され…。スキャンダラスに生きた恋人たちの生涯を描く。

2021.9./ 396p
978-4-309-02983-2

¥2,475〔税込〕



毎日新聞 2021/12/11、日本経済新聞 2021/12/25



平成金融危機～初代金融再生委員長の回顧～

柳澤 伯夫 著

日本経済新聞出版社

日本を震撼させた経済危機の真相とは？日銀窓口指導廃止の誤算、金融監督庁誕生の攻防戦、破綻長銀譲渡の経緯、金融再生スキームの制度設計…。初代金融再生委員長・柳澤伯夫が、危機対応と再生戦略の舞台裏を語る。

2021.3./ 367p
978-4-532-35880-8

¥2,750〔税込〕



毎日新聞 2021/12/11、日本経済新聞 2021/12/25



テスカトリポカ

佐藤 究 著

KADOKAWA

メキシコの麻薬密売人バルミロと臓器売買コーディネーターの末永は、新たな闇ビジネスを実現させるため日本へ向かう。少年コシモは知らぬ間に彼らの犯罪に巻き込まれ…。『カドブンノベル』掲載に書き下ろしを加えて単行本化。

2021.2./ 553p
978-4-04-109698-7

¥2,310〔税込〕



毎日新聞 2021/12/11、日本経済新聞 2021/12/25、読売新聞 2021/12/27



大人問題(講談社文庫)

五味 太郎 著

講談社

子どもにとって大人は有害である！ ー大人は有害である。いじめ、閉じこもり、不登校.....子供問題は、世間を気にし、教えたがり、試したがる大人に問題がある。子供は、大人の充足のためのものではない。新人、ルーキーだ。「これから何をするんだろう」「いつ化けるかな」と、大人は緊張し、楽しみに見守るサポーターになろう！ 心がほぐれ、元気の出るユニークな子供論。

毎日新聞 2021/12/18

2001:5./ 209p
978-4-06-273161-4

¥660〔税込〕



人間であることをやめるな

半藤 一利 著

講談社

明治人のリアリズム、石橋湛山が示す理想の力、昭和天皇の懊悩、そして宮崎駿の問い-。「昭和史の語り部」が言い残した、軽妙にみえて重い教訓のことばをまとめる。

毎日新聞 2021/12/18

2021:4./ 153p
978-4-06-523552-2

¥1,430〔税込〕



ワンオペ JOKER (1) (モーニング KC)

宮川 サトシ／後藤 慶介 著

講談社

正義の象徴・バットマンと、その永遠の敵役・ジョーカー...。ゴッサムシティを舞台に戦いを繰り広げる2人だったが、ある日、不慮の事故からバットマンが赤ちゃんに変貌してしまう...！悪を証明するために正義をくじく必要があるジョーカーは赤ちゃんを正義のスーパーヒーロー＝バットマンに育て上げることを決意する...！DCコミックス公認の極悪育児コメディ開幕...！

毎日新聞 2021/12/18

2021:6./ 144p
978-4-06-523678-9

¥748〔税込〕



スタジオジブリの想像力～地平線とは何か～

三浦 雅士 著

講談社

なぜ宮崎アニメの作中人物は空を飛び、火と接吻するのか？西洋ルネサンスとアニメ・ルネサンスを雁行する視覚芸術史上の事件として眺め、スタジオジブリを人類史のなかに位置づける。『熱風』連載を改稿し単行本化。

毎日新聞 2021/12/18

2021:8./ 381p
978-4-06-524132-5

¥2,750〔税込〕



ケアの倫理とエンパワメント

小川 公代 著

講談社

自己と他者の関係性としての<ケア>とは何か。ヴァージニア・ウルフ、オスカー・ワイルド、三島由紀夫、平野啓一郎などの作品をふまえ<ケアすること>の意味を新たな文脈で探る論考。『群像』掲載に書き下ろしを加え書籍化。

毎日新聞 2021/12/18

2021:8./ 221p
978-4-06-524539-2

¥1,650〔税込〕





泡

松家 仁之 著

集英社

男子校の2年に上がってまもなく学校に行けなくなった薫は、復員後、知り合いのいない土地でジャズ喫茶をはじめた大叔父のもとで過ごすことに。店を手伝ううち、薫は何かを?みはじめ…。青春小説。『すばる』掲載を単行本化。

毎日新聞 2021/12/18

2021:4./ 193p
978-4-08-771736-5

¥1,650〔税込〕



リングサイド

林 育徳 著

小学館

毎晩ケーブルテレビで三沢光晴を応援する、ばあちゃんと俺。ある日俺はとんでもないことを知ってしまい…。第18回台北文学賞小説部門大賞受賞作「ばあちゃんのエメラルド」など全10編を収録。台湾発のプロレス連作短編集。

毎日新聞 2021/12/18

2021:2./ 318p
978-4-09-386588-3

¥1,980〔税込〕



ハムレット!ハムレット!!

太宰 治／小林 秀雄／ランボオ／谷川 俊太郎／芥川比呂志／志賀 直哉／大岡 昇平／福田恆存／小栗虫太郎／久生 十蘭／中原 中也／ラフォルク・ジュール 著

小学館

大作家たちが競演する「異聞ハムレット」8篇のほか、ハムレット役者の名エッセイ、ランボオの詩「オフエリヤ」、谷川俊太郎の詩「初夏のハムレット」などを収録。山本容子の美しい銅版画を付したアンソロジー。

毎日新聞 2021/12/18

2021:11./ 334p
978-4-09-386623-1

¥3,080〔税込〕



新九郎、奔る!<1>(BIG SPIRITS COMICS SPECIAL)

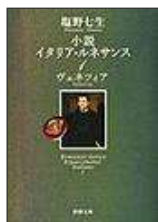
ゆうき まさみ 著

小学館

毎日新聞 2021/12/18

2018:8./ 209p
978-4-09-860001-4

¥693〔税込〕



小説イタリア・ルネサンス<1> ヴェネツィア(新潮文庫 し-12-21)

塩野 七生 著

新潮社

時は16世紀。ヴェネツィア共和国の若き外交官マルコは、スペインとトルコに挟撃される国難打開の密命を託される。だが、トルコでマルコを出迎えた旧友で元首の庶子アルヴィーゼの瞳には暗い光が灯り…。

毎日新聞 2021/12/18

2020:10./ 385p 図版

6枚

978-4-10-118121-9

¥1,210〔税込〕





計算する生命

森田 真生 著

新潮社

計算は、生命の可能性を拡張していくのか。機械と生命の対立を越え、計算との新たな関係が形作る未来とは-。先人たちが築いた壮大な計算の成立史に吹き込まれた生命の本質に迫る画期的論考。『新潮』連載をベースに書籍化。

毎日新聞 2021/12/18

2021:4./ 239p
978-4-10-339652-9

¥1,870〔税込〕



わたしが行ったさびしい町

松浦 寿輝 著

新潮社

最高の旅とはさびしい旅にほかなるまい-。ペスカーラ、名瀬、台南、コネマラ、タクナ、中軽井沢...。過去に通った町のあれこれから人生の記憶に思いを馳せる、活字で旅する極上の 20 篇。『新潮』連載を単行本化。

毎日新聞 2021/12/18

2021:2./ 264p
978-4-10-471704-0

¥1,980〔税込〕



スマホ脳(新潮新書 882)

アンデシュ・ハンセン 著

新潮社

睡眠障害、うつ、記憶力や集中力、学力の低下、依存...。スウェーデンで注目されるメンタルヘルスのインフルエンサーが、スマホや iPad が人間、特に子供や若者に与える影響を最新研究をもとに明らかにする。

毎日新聞 2021/12/18

2020:11./ 255p
978-4-10-610882-2

¥1,078〔税込〕



少女たちの戦争

中央公論新社 編

中央公論新社

若い兵士に言えなかった「サヨナラ」の一言、東京大空襲の翌日に食べた<最後の昼餐>...。瀬戸内寂聴から佐野洋子まで、太平洋戦争開戦時に 20 歳未満だった女性たち 27 名が、非常時の日常を綴る。

毎日新聞 2021/12/18

2021:11./ 219p
978-4-12-005476-1

¥1,430〔税込〕



ポスト・ヒューマニズム〜テクノロジー時代の哲学入門〜(NHK 出版新書 664)

岡本 裕一郎 著

N H K 出版

なぜいま、哲学で「人間」が大きな問題となっているのか。「思弁的實在論」「加速主義」「新實在論」といった現代哲学を解説しながら、論点をわかりやすく整理。起こりつつある思想の地殻変動を描き出す。

毎日新聞 2021/12/18

2021:10./ 238p
978-4-14-088664-9

¥968〔税込〕





円～劉慈欣短篇集～

劉慈欣 著

早川書房

10 万桁まで円周率を求めよという秦の始皇帝の命により、学者の?軻は始皇帝の 300 万の軍隊を用いた驚異の人間計算機を編みだすが…。「円」をはじめ、デビュー作「鯨歌」など、全 13 篇を収録した中国 SF 短篇集。

2021:11./ 383p
978-4-15-210062-7

¥2,090〔税込〕



毎日新聞 2021/12/18



婆娑羅大名佐々木道誉(文春新書 1310)

寺田 英視 著

文藝春秋

華道、香道、茶道、連歌、そして能・狂言まで、現代日本人の美意識の源流は、この男にあった! 足利幕府草創期の不動の重臣であり、歴戦の強者でもあった佐々木道誉の鮮やかな生涯をたどる。

2021:4./ 206p
978-4-16-661310-6

¥935〔税込〕



毎日新聞 2021/12/18



立花隆の最終講義～東大生と語り尽くした 6 時間～(文春新書 1335)

立花 隆 著

文藝春秋

死、自身の 20 歳の頃、物理、宗教、スーパーコンピュータ、デカルト…。70 歳の師が、20 歳の徒に残したかった一字一句は、いつの日の若者にも必要なことばかりだった-。2010 年 6 月、東大生に向けて行った講義録。

2021:10./ 282p
978-4-16-661335-9

¥990〔税込〕



毎日新聞 2021/12/18



生命海流～GALAPAGOS～

福岡伸一 著

朝日出版社

「生命」「進化」とは何か。生物学者・福岡伸一がダーウィンの足跡をたどり、生命の本質に迫るガラパゴス航海記。絶海の孤島で繰り上げられる大自然の営みと進化の不思議を、ユーモア溢れる文章と美しい写真で描き出す。

2021:6./ 253p
978-4-255-01241-4

¥2,090〔税込〕



毎日新聞 2021/12/18



ケア宣言～相互依存の政治へ～

ケア・コレクティブ 著

大月書店

ケア実践やケア労働の重要性と、それを疎かにしてきた社会のあり方をあらわにしたコロナ禍。家族、コミュニティ、国家、経済、そして世界と地球環境の危機を解明し、ケアを中心に据えた対案を構想する。

2021:7./ 215p
978-4-272-35048-3

¥2,420〔税込〕



毎日新聞 2021/12/18



愛に始まり、愛に終わる～瀬戸内寂聴 108 の言葉～

瀬戸内 寂聴 著

宝島社

想像力こそが思いやりであり、思いやりは愛である。愛と苦しみは陸続きなのだ。
「愛」「生」「業」「老」などをテーマに、瀬戸内寂聴の珠玉の言葉を厳選し、まとめた名言集。人生の歩みを振り返る貴重な写真も収録。

毎日新聞 2021/12/18

2021:4./ 246p
978-4-299-01469-6

¥1,540〔税込〕



あまりに人間的なウイルス～COVID-19 の哲学～

ジャン=リュック・ナンシー 著

勁草書房

グローバル化の産物であるコロナウイルスは、現在の技術・経済構造の脆さを明らかにし、私たちの生を土台のない状態へとひとしく直面させている。この状況に哲学者はどう反応したのか。ナンシーによるコロナ時代の証言。

毎日新聞 2021/12/18

2021:8./ 11p,129p
978-4-326-15478-4

¥2,420〔税込〕



リスク、不確実性、利潤

フランク・H・ナイト 著

筑摩書房

20 世紀の社会科学に大きな影響を与えた経済学者ナイト。「リスク」と「不確実性」を峻別し、現実の経済に存在する「不確実性」こそが企業経営における利潤の源泉であると説明する名著の新訳。索引も掲載。

毎日新聞 2021/12/18

2021:7./ 503p,4p
978-4-480-86733-9

¥4,950〔税込〕



近代日本の美術思想～美術批評家・岩村透とその時代～<上>

今橋 映子 著

白水社

1910 年代、100 年後を見据えていた美術批評家・岩村透。言論統制下に美術行政を論じながら早逝した仕事の全貌と、多分野の人々との共闘の足跡を辿る。上は、感興と挑戦をモットーに美術界を牽引した若き姿を掘り起こす。

毎日新聞 2021/12/18

2021:4./ 715p
978-4-560-09818-9

¥24,200〔税込〕



近代日本の美術思想～美術批評家・岩村透とその時代～<下>

今橋 映子 著

白水社

1910 年代、100 年後を見据えていた美術批評家・岩村透。言論統制下に美術行政を論じながら早逝した仕事の全貌と、多分野の人々との共闘の足跡を辿る。下は、『日本美術年鑑』の発刊、教授復職却下事件の真相など収録。

毎日新聞 2021/12/18

2021:4./ 612p,176p
978-4-560-09819-6

¥24,200〔税込〕





ドイツ史 1800-1866～市民世界と強力な国家～<上>

トーマス・ニッパードイ 著

白水社

19世紀の幕開けから普墺戦争まで、ナポレオンからビスマルクまでのドイツ近代の歴史を幅広く叙述。各分野の研究成果を採り入れ、総合的・全体的に把握する。図表も多数収録。

毎日新聞 2021/12/18

2021:2./ 500p
978-4-560-09829-5

¥7,150〔税込〕



ドイツ史 1800-1866～市民世界と強力な国家～<下>

トーマス・ニッパードイ 著

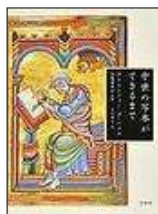
白水社

19世紀の幕開けから普墺戦争まで、ナポレオンからビスマルクまでのドイツ近代の歴史を幅広く叙述。各分野の研究成果を採り入れ、総合的・全体的に把握する。図表も多数収録。

毎日新聞 2021/12/18

2021:3./ 532p,34p
978-4-560-09833-2

¥7,700〔税込〕



中世の写本ができるまで

クリストファー・デ・ハメル 著

白水社

中世の修道士はどうやって羽根ペンを握っていたのか？書き間違えたらどう対処したのか？中世写本の制作にまつわる実践的技法の数々を、オックスフォード大学ボドリアン図書館所蔵の写本のカラー図版 79 点とともに解説。

毎日新聞 2021/12/18

2021:7./ 196p,8p
978-4-560-09845-5

¥4,950〔税込〕



じい散歩

藤野 千夜 著

双葉社

明石家は夫婦あわせてもうすぐ 180 歳。3 人の息子は全員独身で…。家族の可笑しみ、さりげない優しさを描き出した、現代家族小説。『小説推理』『文藝界』掲載を単行本化。

毎日新聞 2021/12/18

2020:12./ 269p
978-4-575-24357-4

¥1,760〔税込〕



墨子よみがえる～“非戦”への奮闘努力のために～(平凡社ライブラリー 919)

半藤 一利 著

平凡社

2500 年前、中国で「義」を重んじ、「兼愛」と「非攻」を説いた墨子。古今東西のさまざまな事象や逸話をユーモラスに駆使し、今こそ読まれるべき墨子の思想を紹介する。中村哲との対話も収録。

毎日新聞 2021/12/18

2021:5./ 279p
978-4-582-76919-7

¥1,540〔税込〕





堂々と老いる

田原 総一郎 著

毎日新聞出版

健康維持のための日課、脳の活性化のために実践している方法、リタイア後の社会とのつながり方…。後半生を迎え、不安や迷いを抱く人に向けて、87歳の現役ジャーナリストが「老い」に対する心構えを指南する。

毎日新聞 2021/12/18

2021.11./ 235p
978-4-620-32711-2

¥1,430〔税込〕



* 9 7 8 4 6 2 0 3 2 7 1 1 2 *



エルサレム<以前>のアイヒマン～大量殺戮者の平穏な生活～

ベッティナ・シュタングネト 著

みすず書房

アドルフ・アイヒマンは本当に「悪の陳腐さ」を体現する人物なのか？ 放置されていたアイヒマン自身の文章や音声録音といった膨大な史料に初めて取り組み、これまでの通念を覆した重要著作。

毎日新聞 2021/12/18

2021.5./ 581p,95p
978-4-622-08960-5

¥6,820〔税込〕



* 9 7 8 4 6 2 2 0 8 9 6 0 5 *



デジタル時代の子育て～年齢に応じたスマホ・パソコンとのつきあい方～

イザラ書房

デジタルメディアの世界で子供が健康に育つには何が必要で大人はどう行動すべきかを示したガイドブック。小児期・思春期の子どもたちの年齢に応じたデジタルメディアとのつきあい方の明確な情報及び実際のヒントを多数紹介。

毎日新聞 2021/12/18

2021.11./ 164p
978-4-7565-0152-3

¥2,090〔税込〕



* 9 7 8 4 7 5 6 5 0 1 5 2 3 *



ゴシックの解剖～暗黒の美学～

唐戸 信嘉 著

青土社

吸血鬼、人造人間、ドッペルゲンガー、廃墟…。人間の不安や欲望といったネガティブな要素の受け皿となった「ゴシック」。人々を惹きつけてやまない一大美学の、超自然的な悪の魅力を解き明かす。

毎日新聞 2021/12/18

2020.12./ 227p
978-4-7917-7336-7

¥2,200〔税込〕



* 9 7 8 4 7 9 1 7 7 3 3 6 7 *



エビデンスの社会学～証言の消滅と真理の現在～

松村一志 著

青土社

近代科学の歴史の中で、絶えず捏造や誤謬に晒されてきた「科学的証拠」。法廷の証言、心霊研究から確率・統計に基づく「エビデンス」の出現まで、「証拠」の概念史を通じて、近代という時代の輪郭を描きなおす。

毎日新聞 2021/12/18

2021.11./ 357p,36p
978-4-7917-7432-6

¥3,520〔税込〕



* 9 7 8 4 7 9 1 7 7 4 3 2 6 *



性差(ジェンダー)の日本史～新書版～(インターナショナル新書 083)

「性差の日本史」展示プロジェクト 編

集英社インターナショナル

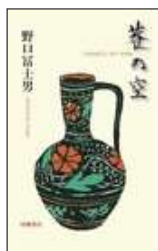
日本で「男」と「女」という区分はいつ生まれたのか？日本の社会の中でジェンダーはどのような意味を持ち、どう変化してきたのか？豊富な資料を通して考える。国立歴史民俗博物館の展覧会をもとに書籍化。

2021:10./ 221p
978-4-7976-8083-6

¥924〔税込〕



毎日新聞 2021/12/18



巷の空

野口 富士男 著

田畑書店

江戸川橋近くの鰻屋で育ちながら、家業を嫌い靴職人になった伊之吉は、たび重なる浮き沈みに揉まれながらも生き抜いて行く。丹念な心理描写ときめ細かな筆致で、靴職人の半生と関東大震災前の東京を鮮やかに描いた長編小説。

2021:7./ 470p
978-4-8038-0385-3

¥2,530〔税込〕



毎日新聞 2021/12/18



客観性

ロレイン・ダストン/ピーター・ギャリソン 著

名古屋大学出版会

客観性とは何か。科学はいかにして「客観的なもの」と向き合うようになったのか。近世の博物学や解剖学から、現代のナノテクノロジーまで、科学者の実践や「認識的徳」の展開をたどり、客観性の歴史を壮大なスケールで描く。

2021:8./ 6p,343p,65p
図版 32p

978-4-8158-1033-7

¥6,930〔税込〕



毎日新聞 2021/12/18



J.R. コモンズの制度的経済学

柴田徳太郎 著

日本経済評論社

深刻な「金融不安定性」と「不公正な不平等」をまえに、経済学の在り方が問われている。改善の方策はあるのか。J.R. コモンズの制度的経済学の現代的意義と活用を探究する。

2021:10./ 6p,310p
978-4-8188-2592-5

¥4,950〔税込〕



毎日新聞 2021/12/18



近代出版史探索<外伝>

小田光雄 著

論創社

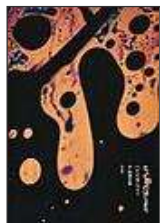
フランスの小説家・ゾラや、幻の小説「黒流」の作者・佐藤吉郎、ブルーコミックスなどを論じた、出版史の多様な光芒を示す外伝。ブログ『出版・読書メモランダム』連載を単行本化。

2021:9./ 8p,593p
978-4-8460-2090-3

¥6,600〔税込〕



毎日新聞 2021/12/18



ヒッピーのはじまり

ヘレン・S・ペリー 著

作品社

既存の価値観が塗り潰したものを新しく掘り上げようとしていた。そのムーブメントは世界中で動き始めていた。ヒッピーはじまりの地で、はじまりの時からフラワー・チルドレンに混じり、観察を続けた女性による鮮烈な記録。

毎日新聞 2021/12/18

2021:5./ 314p
978-4-86182-845-4

¥2,970〔税込〕



言葉の人生

片岡 義男 著

左右社

省略されて変身した日本語、よくよく見るとおかしな英語。言葉の狭間を自在に行き来する、片仮名語。言葉と作家の知的で愉快的な関係を味わえる、語学エッセイ。『サンデー毎日』連載に書き下ろしを追加して書籍化。

毎日新聞 2021/12/18

2021:8./ 302p
978-4-86528-041-8

¥2,420〔税込〕



パリ日記〜特派員が見た現代史記録 1990-2021〜<1> ミッテランの時代

山口昌子 著

藤原書店

在パリ 30 年、ボーン・上田記念国際記者賞受賞の女性ジャーナリストが 20 世紀末?21 世紀初頭の「世界」を克明に記した、スリリングな現代史クロニクル。1 は、1990 年 5 月?1995 年 4 月を収録。

毎日新聞 2021/12/18

2021:9./ 590p
978-4-86578-324-7

¥5,280〔税込〕



昆虫館はスゴイ!〜昆虫館スタッフの内緒話〜

全国昆虫施設連絡協議会 著

repicbook

みんなの“推し虫”、昆虫の魅力と楽しみ方、プロが自慢する飼育スゴ技…。北は北海道から南は与那国島まで、全国 22 の昆虫館に勤める昆虫マニアのスタッフが、昆虫と昆虫館に対する熱い想いを本気で語る。

毎日新聞 2021/12/18

2021:8./ 223p
978-4-908154-31-7

¥1,760〔税込〕



エリック・ホブズボーム〜歴史の中の人生〜<上>

リチャード・J. エヴァンズ 著

岩波書店

世界的歴史家エリック・ホブズボームの評伝。上は、アレクサンドリアでの誕生、ベルリンでのヒトラーの台頭の目撃、共産主義者としての活動、最初の結婚と破局など、歴史家としての道を定めるまでの前半生を描く。

毎日新聞 2021/12/18、朝日新聞 2021/12/25

2021:7./
13p,283p,39p
978-4-00-022309-6

¥5,830〔税込〕





エリック・ホブズボーム～歴史の中の人生～<下>

リチャード・J. エヴァンズ 著

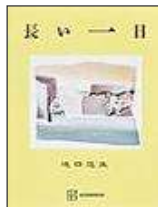
岩波書店

世界的歴史家エリック・ホブズボームの評伝。下は、ジャズへの傾倒と女性関係から、「売れっ子」歴史家としての活躍、スターリン批判後も共産党に留まった経緯、最期の様子と葬儀までの後半生を描く。

毎日新聞 2021/12/18、朝日新聞 2021/12/25

2021:7./ 7p,320p,60p
978-4-00-022310-2

¥5,830〔税込〕



長い一日

滝口 悠生 著

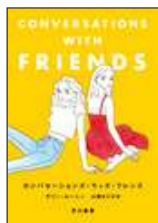
講談社

小説家の夫と妻をめぐる、長いつきあいの友人たちやまわりの人々、日々の暮らしの中でふと抱く静かで深い感情、失って気づく愛着、交錯する記憶…。かけがえのない時間を描いた長編小説。『本』連載を書籍化。

毎日新聞 2021/12/18、朝日新聞 2021/12/25

2021:6./ 348p
978-4-06-523614-7

¥2,475〔税込〕



カンパセーションズ・ウィズ・フレンズ

サリー・ルーニー 著

早川書房

フランシスはダブリンの学生で詩人。親友でかつてのガールフレンドのボビーと詩のパフォーマンスをする。2人はジャーナリストのメリッサと出会う。彼女の夫で俳優のニックに、フランシスは抗いようもなく惹かれていき…。

毎日新聞 2021/12/18、朝日新聞 2021/12/25

2021:9./ 383p
978-4-15-209994-5

¥2,530〔税込〕



日本映画作品大事典

山根 貞男 編

三省堂

100年を超える歴史を持つ日本映画の全作品を一望できる事典。日本国民および日本に永住を許可された者が監督を務めた映画を対象に、1908年の「本能寺合戦」から2018年公開映画までを取り上げる。

毎日新聞 2021/12/18、朝日新聞 2021/12/25

2021:6./ 9p,1059p
978-4-385-15903-4

¥41,800〔税込〕



人は話し方が9割～1分で人を動かし、100%好かれる話し方のコツ～

永松 茂久 著

すばる舎

話し方をちょっと変えるだけで、仕事もプライベートも大きく好転する!「あなた」を多用して自分のファンを作る、肩書き・立場によって話し方を変えないなど、楽しく会話できる「とっておきの秘訣」を紹介する。

毎日新聞 2021/12/18、朝日新聞 2021/12/25

2019:9./ 238p
978-4-7991-0842-0

¥1,540〔税込〕





クララとお日さま

カズオ・イシグロ 著

早川書房

人工知能を搭載したロボットのクララは、病弱の少女ジョージと出会い、やがて2人は友情を育んでいく。愛とは? 知性とは? 家族とは? 生きることを意味を問う感動作。

毎日新聞 2021/12/18、朝日新聞 2021/12/25、読売新聞 2021/12/27

2021:3./ 440p
978-4-15-210006-1

¥2,750〔税込〕



推し、燃ゆ

宇佐見 りん 著

河出書房新社

ままならない人生を引きずり、祈るようにアイドル上野真幸を推すあかり。ある日、真幸がファンを殴って炎上し…。デビュー作「かか」が三島賞候補になった21歳の第2作。『文藝』掲載を単行本化。

毎日新聞 2021/12/18、朝日新聞 2021/12/25、日本経済新聞 2021/12/25

2020:9./ 125p
978-4-309-02916-0

¥1,540〔税込〕



つまらない住宅地のすべての家

津村記久子 著

双葉社

静かに並ぶ住宅地の家々。ある出来事をきっかけに、それぞれの家の、それぞれの事情が見えてきて…。日々いろいろな思いを抱えて暮らす人々を、たくみな構成と描写で浮き彫りにした長編小説。『小説推理』連載を単行本化。

毎日新聞 2021/12/18、読売新聞 2021/12/27

2021:3./ 238p
978-4-575-24385-7

¥1,760〔税込〕



時給はいつも最低賃金、これって私のせいですか?国会議員に聞いてみた。

和田静香、小川淳也 著

左右社

息が詰まるほど不安で苦しい生活が続くのは「私のせい」? 私の不安は日本の不安! 国会議員・小川淳也に、相撲・音楽ライターのと田静香が、生きづらさの原因を直接ぶつけた建前なしの政治問答。政治問答ブックリスト付き。

毎日新聞 2021/12/18、読売新聞 2021/12/27

2021:9./ 279p
978-4-86528-045-6

¥1,870〔税込〕



?製篇

建畠哲 著

思潮社

夜はレンズに いろんなことをして まだし残したことはあったようだが 時間がなくて帰って行った(「夜はレンズに」より)「待ちねえ、ポエティック」連作を含む、詩31篇を収録する。

毎日新聞 2021/12/18、日本経済新聞 2021/12/25

2021:9./ 121p
978-4-7837-3757-5

¥2,860〔税込〕





Voix

吉増剛造 著

思潮社

“隅!” “白い言” ノ、摩、ノ “手!” “ア!” 、、、、日、和、山、、、、 (“隅! 日和山!” より) あらゆる感覚が響きあい、句読点やルビ、約物までもがざわめく詩集。
『現代詩手帖』掲載を単行本化。

2021:10./ 107p
978-4-7837-3776-6

¥3,080〔税込〕



毎日新聞 2021/12/18、日本経済新聞 2021/12/25



<芸道>の生成〜世阿弥と利休〜(講談社選書メチエ 756)

大橋 良介 著

講談社

「芸道と権力の矛盾的共生」を生きた稀代の芸術家、世阿弥と千利休は、能楽と茶の湯という芸道をいかにして成らしめたのか。ドイツ哲学の大家が両者の芸の奥底を探り、ふたりの歴史世界の相を描き出す。

2021:11./ 275p
978-4-06-525898-9

¥1,925〔税込〕



毎日新聞 2021/12/25



救命センター カンファレンス・ノート

浜辺 祐一 著

集英社

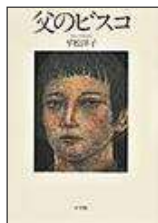
急増する収容要請と高齢化する患者たち。災害派遣医療チーム(DMAT)の出場要請、緊迫する新型コロナ対応など、多様化する救命救急の最前線を現役医師が描く。『青春と読書』連載を加筆・修正。

2021:11./ 218p
978-4-08-771771-6

¥1,760〔税込〕



毎日新聞 2021/12/25



父のビスコ

平松 洋子 著

小学館

父の死に接してから、かつて過ごした倉敷の時間や場所がいっそう親しく身近にまわりつくようになった-。平松洋子の自伝的エッセイ集。『本の窓』連載を単行本化。
「旅館くらしき」創業者・畠山繁子による随筆も収録。

2021:10./ 331p
978-4-09-388841-7

¥1,870〔税込〕



毎日新聞 2021/12/25



心はどこへ消えた?

東畑 開人 著

文藝春秋

コロナ禍の命がけの社交、過酷な働き方、段ボール国家…。今ほど心が蔑ろにされている時代はない。それはなぜかを解き明かすとともに、心の在り処を探る。心を取り戻すための小さな物語が満載。『週刊文春』連載を書籍化。

2021:9./ 251p
978-4-16-391430-5

¥1,650〔税込〕



毎日新聞 2021/12/25



プロ野球オーナーたちの日米開戦

山際 康之 著
文藝春秋

80 年前、プロ野球は戦争に飲み込まれた! セネターズの有馬頼寧、巨人軍の正力松太郎、阪急軍の小林一三という、日米開戦に関与した 3 人の職業野球団オーナーの苦悩と決断、戦争に翻弄されるプロ野球選手たちの姿を描く。

毎日新聞 2021/12/25

2021:11./ 226p
978-4-16-391464-0

¥1,760〔税込〕



* 9 7 8 4 1 6 3 9 1 4 6 4 0 *

おいせさん手帳 2022～365日、まいにち神さま～

おいせさん手帳制作委員会 著
光文社

1 年を通して自分の感情や問題がクリアにすることで、生きづらさから抜け出し、願いをかなえる方法を見つけるワークブックの決定版。

毎日新聞 2021/12/25

2021:10./ 432p
978-4-334-94085-0

¥1,760〔税込〕



* 9 7 8 4 3 3 4 9 4 0 8 5 0 *



宇宙船ビーグル号の冒険 新版(創元 SF 文庫 SF ウ 3-1)

A.E.ヴァン・ヴォクト、沼沢 治治 著
東京創元社

巨大宇宙船ビーグル号は科学者と軍人 1000 人を乗せ、無窮の宇宙の探索に出発した。だが行く手には、人類の想像を超えた恐るべき怪物たちが待ち構えていた。彼らを相手に人類は科学の粋を集めて死闘を展開する…。

毎日新聞 2021/12/25

2017:7./ 364p
978-4-488-60917-7

¥968〔税込〕



* 9 7 8 4 4 8 8 6 0 9 1 7 7 *



流域治水がひらく川と人との関係～2020 年球磨川水害の経験に学ぶ～

嘉田由紀子 著
農山漁村文化協会

気候危機のなかにあっても、人びとの命を守り、水害被害を最小化させるための流域治水が国家的に求められる時代。2020 年 7 月に球磨川流域で起きた水害被害の原因を探り、川と共に生き続けるための流域治水のあり方を問う。

毎日新聞 2021/12/25

2021:11./ 223p
978-4-540-21216-1

¥2,420〔税込〕



* 9 7 8 4 5 4 0 2 1 2 1 6 1 *



俳句いまむかし<ふたたび>

坪内 稔典 著
毎日新聞出版

同じ季語の句の「いまの俳句」と「むかしの俳句」を並べて読みくらべる俳句読本。古典から現代までの名句・秀句・ゆかいな句 400 句を取り上げ、それぞれの味わいと楽しみ方を伝える。『毎日新聞』連載を書籍化。

毎日新聞 2021/12/25

2021:11./ 223p
978-4-620-32709-9

¥1,980〔税込〕



* 9 7 8 4 6 2 0 3 2 7 0 9 9 *



眠れる花

村岡 由梨 著

書肆山田

全盲のおじいさんの隣に座って、目を閉じた私。世界は真っ暗闇になった。この次、目を開ける時、世界はどんな風に変わっているだろう。(「透明な私」より)『浜風文庫』掲載をまとめた第 1 詩集。

2021:7./ 201p
978-4-86725-016-7

¥2,970〔税込〕



* 9 7 8 4 8 6 7 2 5 0 1 6 7 *

毎日新聞 2021/12/25